

3 指標等の進捗状況シート

指標等の進捗状況シートの見方

針路1 施策1 危機管理・防災体制の再構築

施策指標の進捗状況

【達成率(年度目標比)】
年度目標と比較した達成率を記載

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
1. 自主防災組織の組織率	%	91.4 (R1年度)	93.2 (R6年度)	94.6 (R6年度)	98.5%	策定時より改善	96.0 (R8年度)



指標の説明

全世帯数に占める「自主防災組織が組織されている地域の世帯数」の割合。
令和元年度における組織率の全国上位10県の平均値(96.2%)に相当する組織率を目指し、目標値を設定。

指標の進捗状況・分析

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標値に届いていない。
- 自主防災組織の資機材整備に対する補助金に取組んだものの、多くの自主防災組織が、担い手の減少や地域コミュニティの衰退から年度目標に達成できなかった。
- 防災人材の育成・派遣、市町村の自主防災組織の強化のための取組に対する補助、取組事例の共有を通じた市町村の主体性により、自主防災組織の新規設立を促進する。

【指標の進捗状況・分析】
指標の進捗(動き)について、年度(最終)目標値との比較を定型的に記載した上で、その要因等について分析して記載

【グラフの説明】

- 実績 … その年(度)の実績値
- 目標値 … 5か年計画で設定した数値目標
- 年度目標(値) … 施策指標を所管する部局が毎年度設定する目標

【ストック指標】棒グラフ

毎年の実績を積み上げる(累計)指標

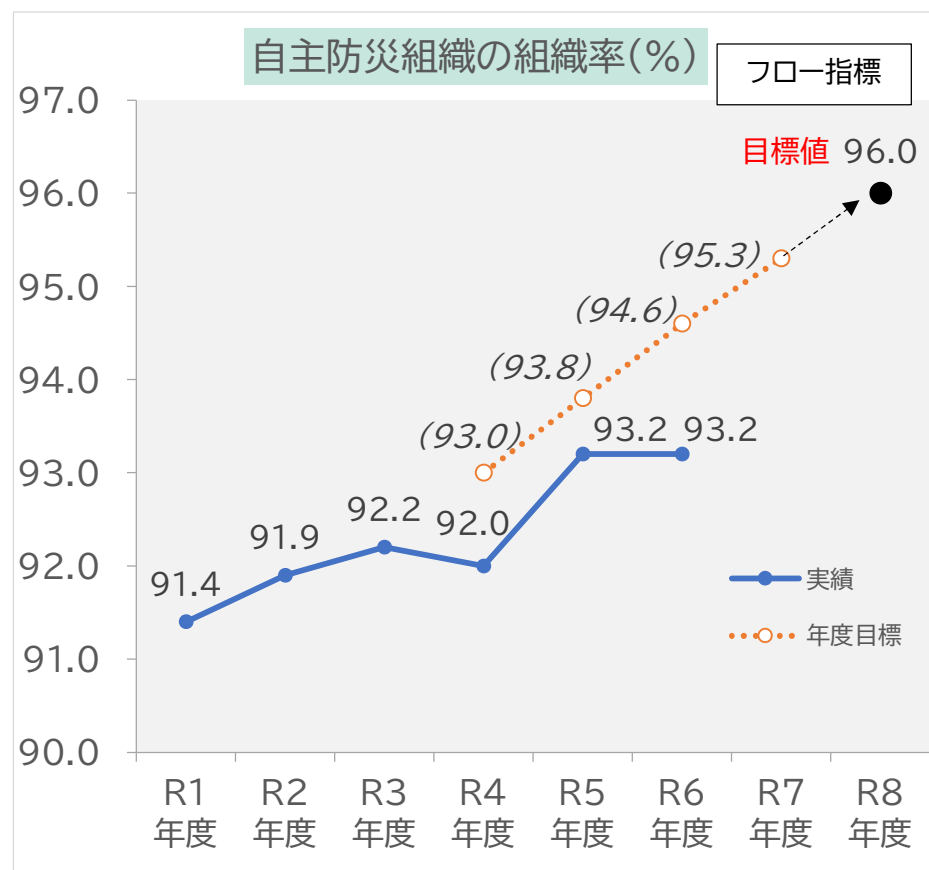
【フロー指標】折れ線グラフ

社会情勢により毎年度の数値が上下に変動する指標

針路1 施策1 危機管理・防災体制の再構築

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
1. 自主防災組織の組織率	%	91.4 (R1年度)	93.2 (R6年度)	94.6 (R6年度)	98.5%	策定時より改善	96.0 (R8年度)



指標の説明

全世帯数に占める「自主防災組織が組織されている地域の世帯数」の割合。

令和元年度における組織率の全国上位10県の平均値(96.2%)に相当する組織率を目指し、目標値を設定。

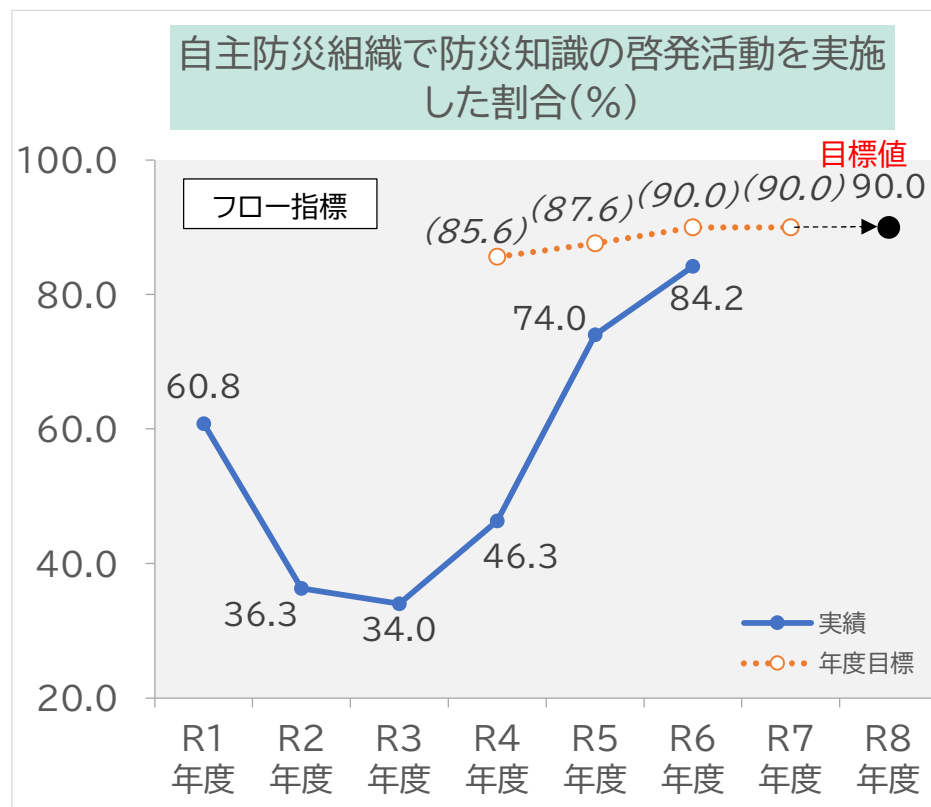
指標の進捗状況・分析

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 自主防災組織の資機材整備に対する補助や防災人材の育成・派遣に取り組んだものの、多くの自主防災組織の母体となっている自治会において、担い手の減少や地域コミュニティの希薄化により、組織活動が低下したことから年度目標に達成しなかった。
- 防災人材の育成・派遣、市町村の自主防災組織等の活動活性化を図るための取組に対する補助、取組事例の紹介及び関係団体と連携した市町村支援を通じて市町村の主体的な取組を支援することにより、自主防災組織の新規設立を促していく。

針路1 施策1 危機管理・防災体制の再構築

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
2. 自主防災組織で防災知識の啓発活動を実施した割合	%	60.8 (R1年度)	84.2 (R6年度)	90.0 (R6年度)	93.6%	策定時より改善	90.0 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

自主防災組織の組織活動として、構成員に災害への備えや災害時の行動などの防災知識の啓発活動を実施した割合。

過去5年間(平成27年度～令和元年度)の自主防災組織の訓練実施率の平均値(約90%)を踏まえ、啓発活動の実施率を令和6年度までに同水準である90%まで高め、その後維持していくことを目指し、目標値を設定。

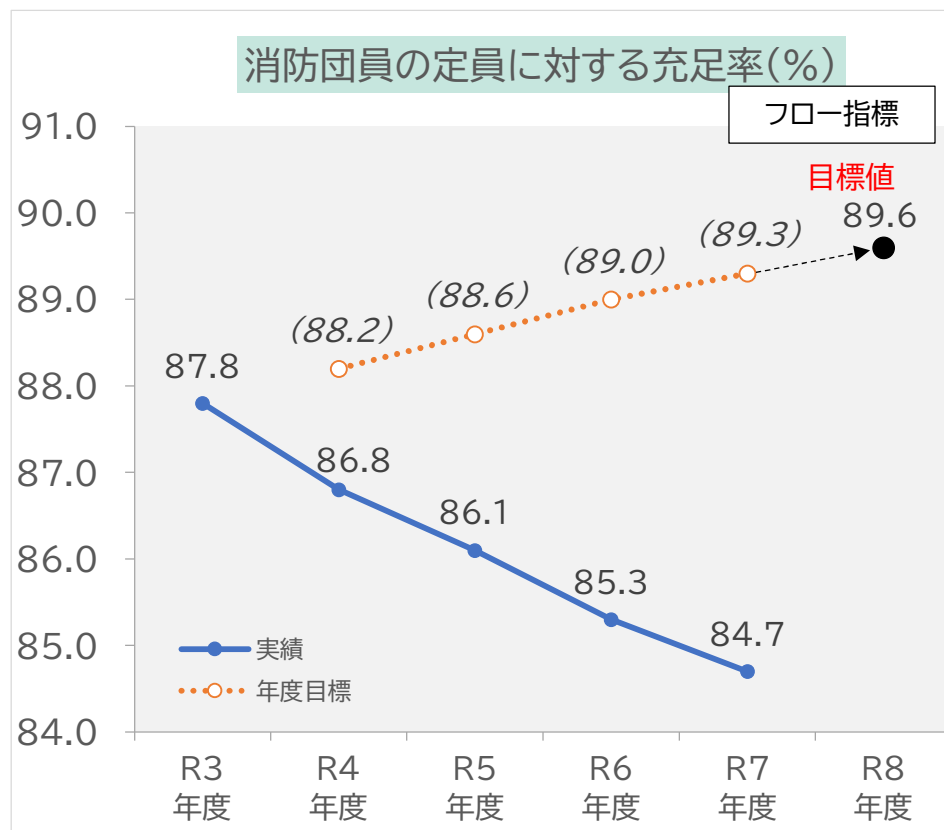
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 自主防災組織の資機材整備に対する補助や防災人材の育成・派遣に取り組んだものの、多くの自主防災組織の母体となっている自治会において、担い手の減少や地域コミュニティの希薄化により、組織活動が低下したことから年度目標に達成しなかった。
- 防災人材の育成・派遣、市町村の自主防災組織等の活動活性化を図るための取組に対する補助、取組事例の紹介及び関係団体と連携した市町村支援を通じて、自主防災組織の防災知識の啓発活動を支援していく。

針路1 施策1 危機管理・防災体制の再構築

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
3. 消防団員の定員に対する充足率	%	87.8 (R3年度)	84.7 (R7年度)	89.3 (R7年度)	94.8%	策定時より後退	89.6 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

消防団員の条例定数に対する充足率。
令和2年4月1日時点における充足率の全国平均値(89.6%)を下回らないことを目指し、目標値を設定。

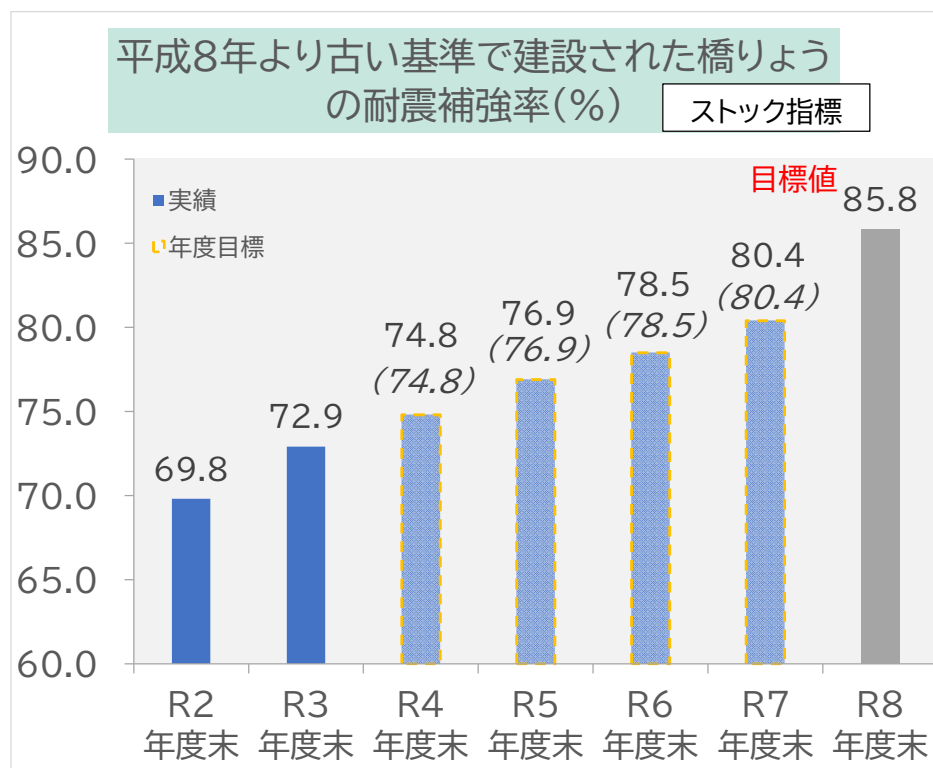
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は計画策定時の値より後退しており、より一層の努力を要する。
- 本県の消防団員の減少率は全国平均に比べて低く、充足率の差は縮小しつつある。しかし、超少子高齢化の進行や就業環境の変化など、全国的な要因の影響により、本県もその減少傾向に歯止めがかけられていない状況にある。
- 消防団の活動紹介や団員インタビューなどの情報を発信するとともに、いつでも入団申込ができる「埼玉県消防団ポータルサイト」について、市町村と協力して積極的にPRすることにより、引き続き加入促進に取り組んでいく。

針路1 施策2 大地震等に備えたまちづくり

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
4. 平成8年より古い基準で建設された橋りょうの耐震補強率	%	69.8 (R2年度末)	80.4 (R7年度末)	80.4 (R7年度末)	100.0%	年度目標達成	85.8 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

平成8年より古い基準で建設された橋りょうのうち、耐震補強が完了した割合。

平成8年より古い基準で建設された橋りょうのうち、緊急輸送道路上などの橋りょうの耐震補強を令和8年度末までに完了させることを目指し、目標値を設定。

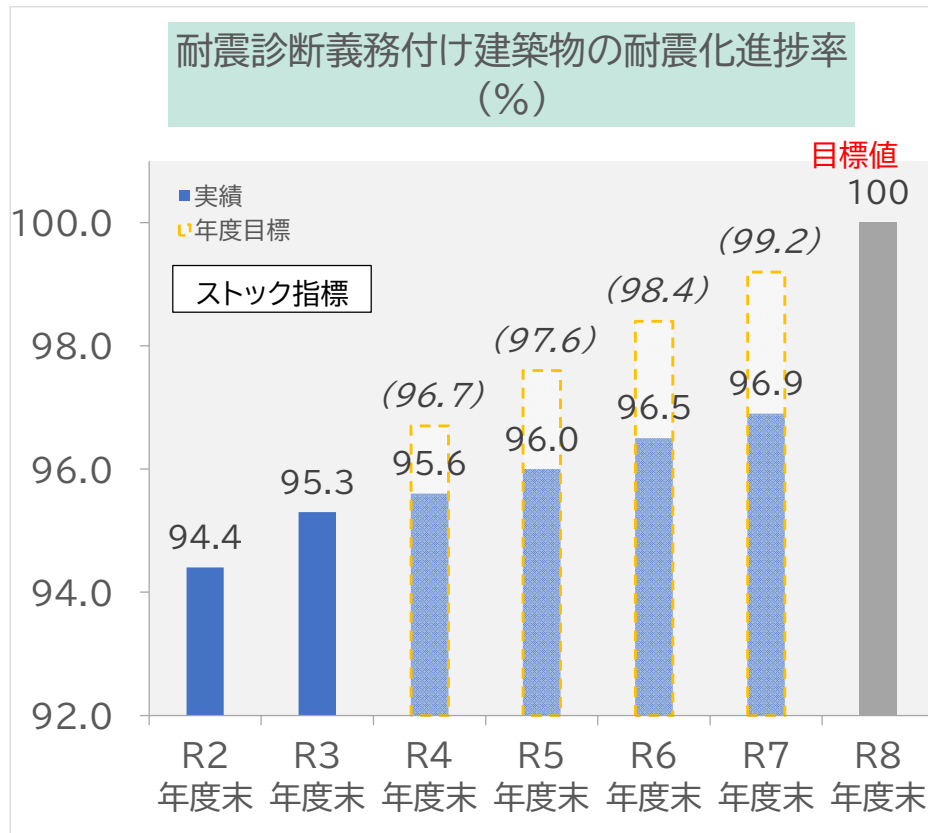
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 橋りょう毎に完了目標を設定し、計画的に整備を進めているため、年度目標を達成した。
- 対象橋りょうの耐震化に向け、引き続き計画的な取組を進めていく。

針路1 施策2 大地震等に備えたまちづくり

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
5. 耐震診断義務付け建築物の耐震化進捗率	%	94.4 (R2年度末)	96.9 (R7年度末)	99.2 (R7年度末)	97.7%	策定時より改善	100 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

耐震診断が義務付けられた建築物のうち、耐震化が完了した割合。
令和8年度末までに耐震診断義務付け建築物の耐震化進捗率100%を目指し、目標値を設定。

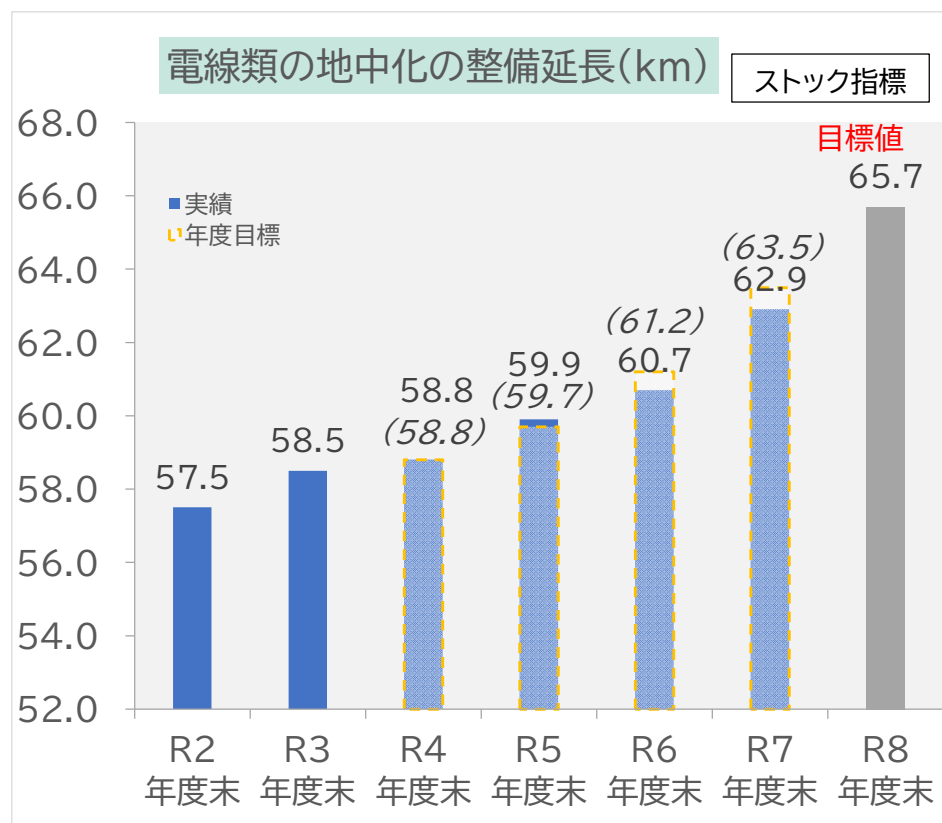
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 未耐震の建築物所有者への個別訪問などによる働きかけを行ってきたものの、建物の入居者等との調整や、工事進捗の遅れなどにより、年度目標に到達しなかった。
- 引き続き、建築物所有者への個別訪問など耐震化の働きかけを強めていく。

針路1 施策2 大地震等に備えたまちづくり

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
6. 電線類の地中化の整備延長	km	57.5 (R2年度末)	62.9 (R7年度末)	63.5 (R7年度末)	99.1%	策定時より改善	65.7 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

県管理道路のうち、電線類の地中化の整備が完了した延長。
過去5年間(平成28年度～令和2年度)の実績を踏まえ、同水準の整備延長を完了することを目指し、目標値を設定。

≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 当初想定していなかった埋設物が新たに発見されたことや用地買収の難航により、年度目標を下回った。
- 令和8年度は当初予定していた箇所に加えて、令和7年度に未達成となった箇所についても工事を行う。引き続き、関係機関との調整や工事の進捗管理を行い、目標達成に向けスピードアップを図る。

針路1 施策3 治水・治山対策の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
7. 治水対策によって床上浸水被害の解消が想定される家屋数	棟	— (—)	128 (R4～R7年度の累計)	110 (R4～R7年度の累計)	116.4%	年度目標達成	400 (R4～R8年度の累計)

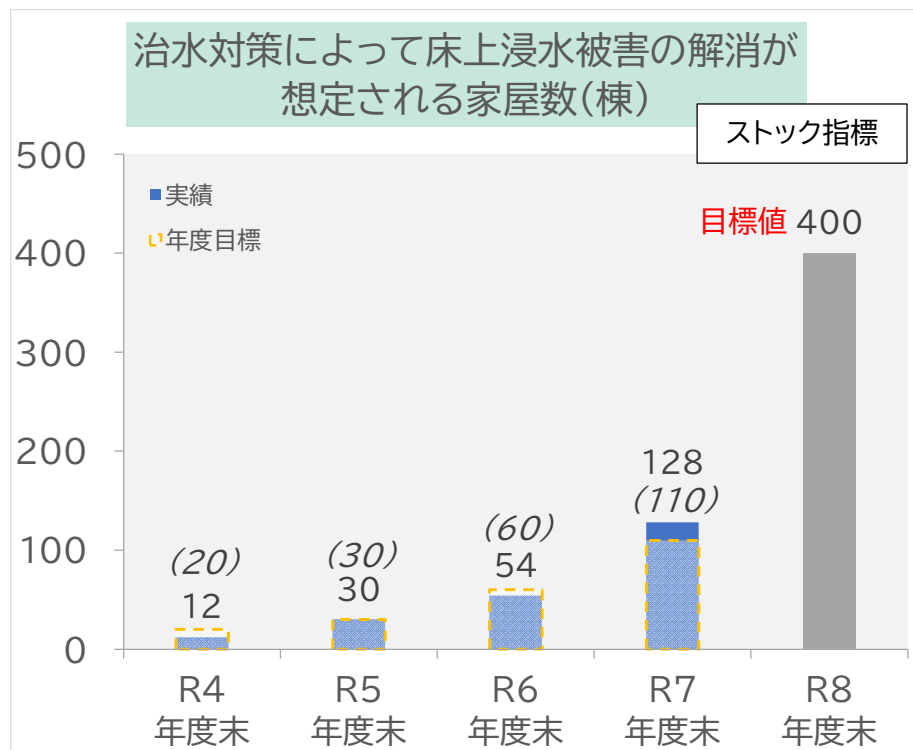
◀ 指標の説明 ▶

令和元年東日本台風において県内で床上浸水被害を受けた家屋(約2,000棟)のうち、令和元年東日本台風と同規模の降雨に対して、床上浸水被害の解消が理論上想定される棟数。

令和元年東日本台風と同規模の降雨に対し、河川改修や調節池の整備、市町村による内水対策を着実に進め、床上浸水被害を受ける家屋数を400棟減少させることを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 国の5か年加速化対策の活用により、予算を重点的に確保し、河川改修を進めているため、年度目標を達成した。
- 令和8年度末の目標値とする400棟の達成に向け、河道整備や、浸水被害の解消に広域的な効果が発現される調節池の整備を引き続き進めていく。



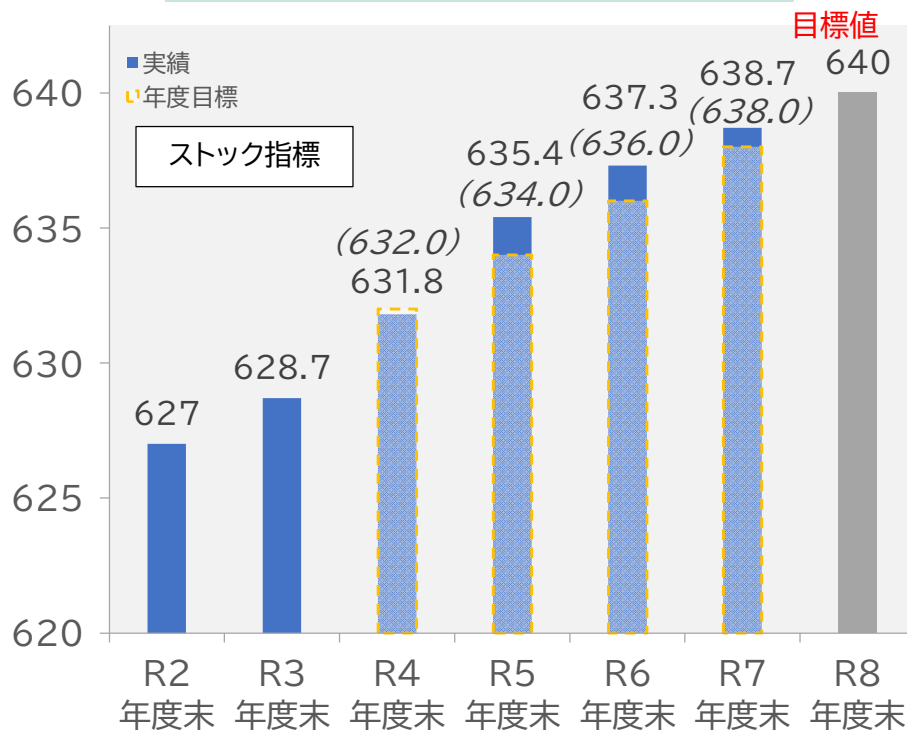
針路1

施策3 治水・治山対策の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
8. 河川整備が完了した河川の延長	km	627 (R2年度末)	638.7 (R7年度末)	638.0 (R7年度末)	100.1%	年度目標達成	640 (R8年度末)

河川整備が完了した河川の延長(km)



指標の説明

県管理河川のうち、時間雨量50mm程度の降雨により発生する洪水を安全に流すための整備が完成した河川の延長。
河川整備が必要な河川の延長1,014kmのうち、事業効果の高い約13kmについて整備を完了することを目指し、目標値を設定。

指標の進捗状況・分析

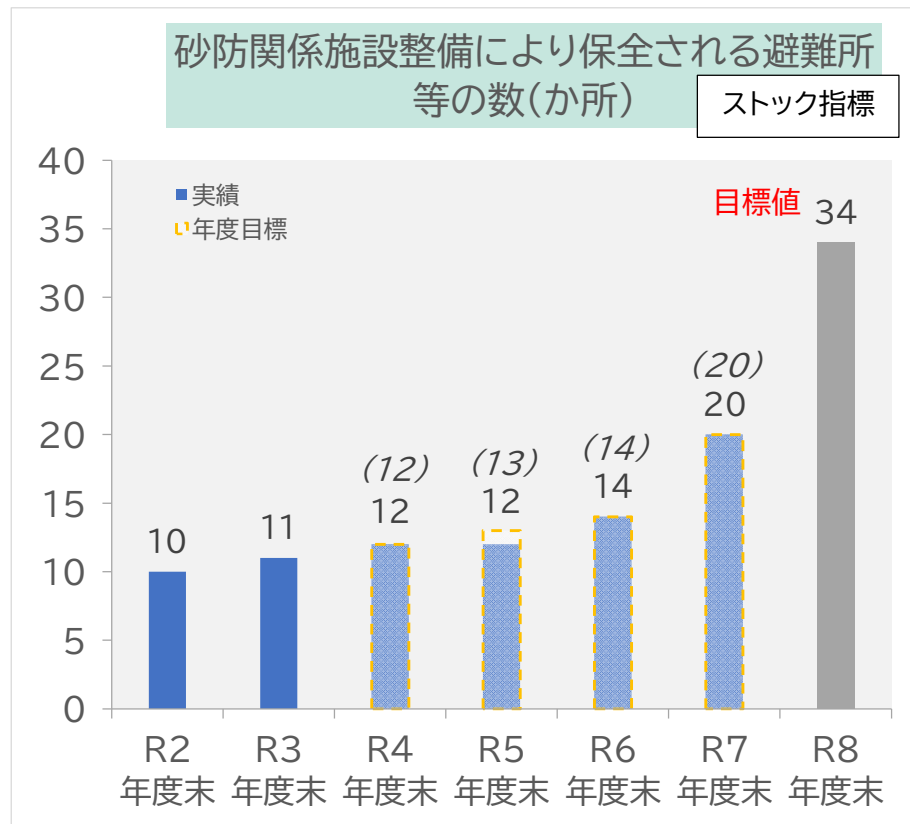
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 国の5か年加速化対策の活用により、予算を重点的に確保し、河川改修を進めているため、年度目標を達成した。
- 引き続き国の5か年加速化対策の活用により、予算を重点的に確保し、河川改修を進めていく。

針路1

施策3 治水・治山対策の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
9. 砂防関係施設整備により保全される避難所等の数	か所	10 (R2年度末)	20 (R7年度末)	20 (R7年度末)	100.0%	年度目標達成	34 (R8年度末)



◀ 指標の説明 ▶

砂防関係施設の整備により保全される土砂災害警戒区域内の避難所及び要配慮者利用施設の数。

土砂災害警戒区域内の避難所及び要配慮者利用施設168か所のうち、事業効果の高い24か所について保全することを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

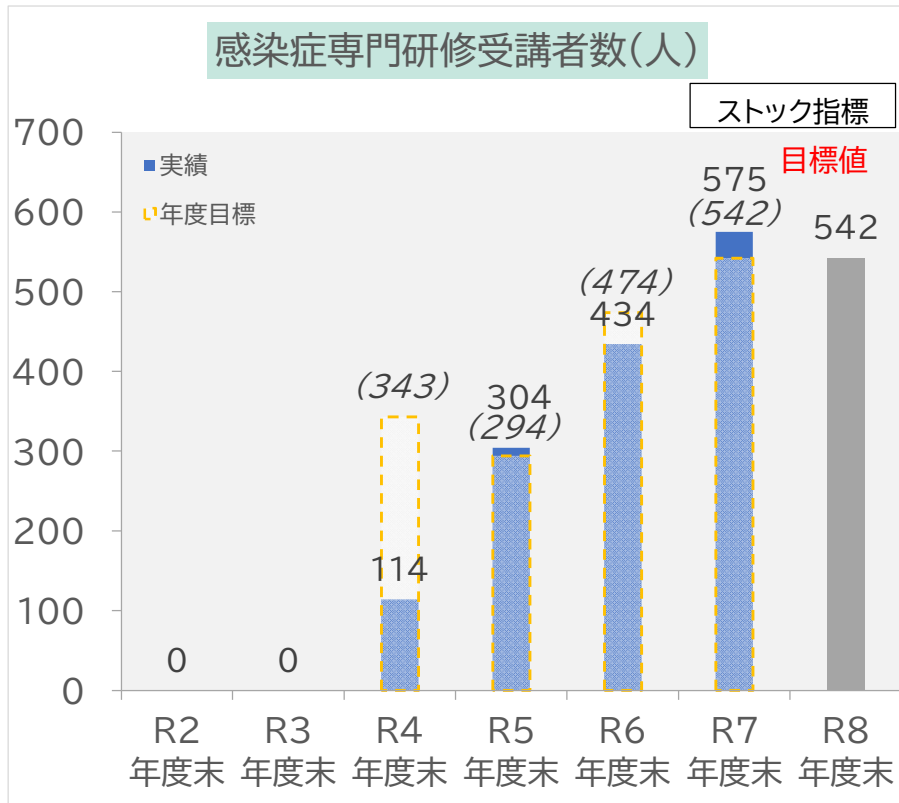
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 砂防関係施設整備により保全される避難所や要配慮者利用施設などの優先度評価の高い区域から整備することを原則としているため、年度目標を達成した。
- 整備が完了する箇所を優先的に実施し、国費等を最大限活用することにより、砂防関係施設の整備を進めていく。目標としている保全対象に対する整備を確実に進め、各整備箇所において早期に整備を完了するよう努める。

針路1

施策4 感染症対策の強化

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
10. 感染症専門研修受講者数	人	0 (R2年度末)	575 (R7年度末)	542 (R7年度末)	106.1%	最終目標を上回る	542 (R8年度末)



指標の説明

県が実施する感染症専門研修を受講した人数。
全入院医療機関542施設(病院343施設、有床診療所199施設)に1人ずつの感染症対策の専門人材を養成することを目指し、目標値を設定。

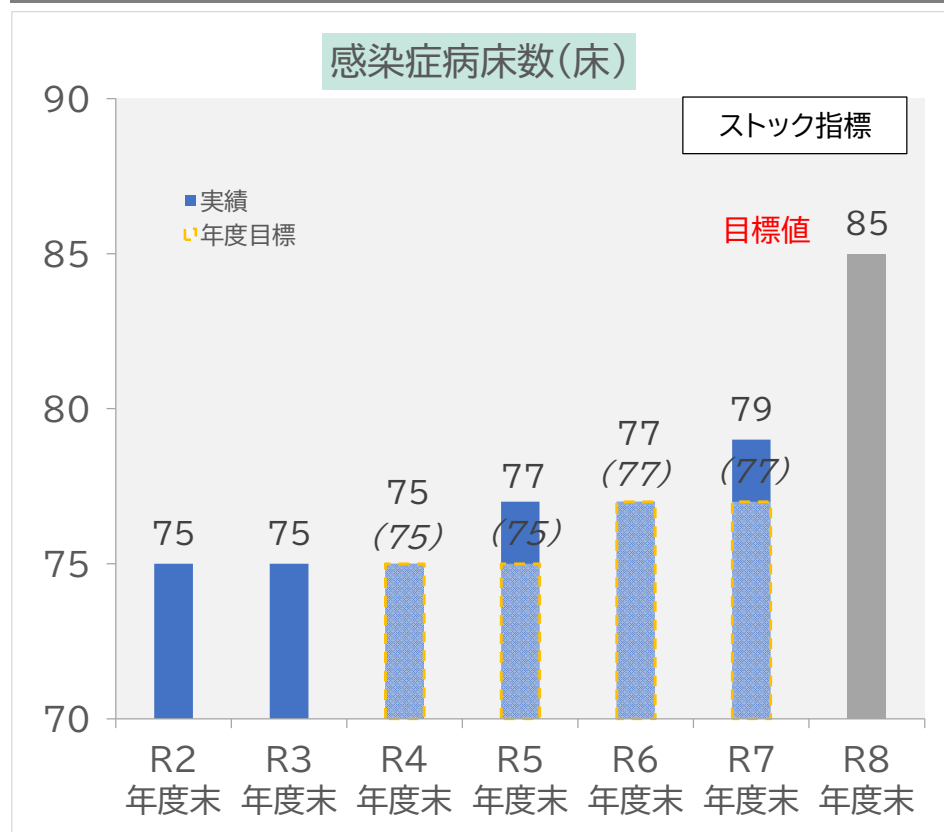
指標の進捗状況・分析

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 医療機関に対し、医療従事者受講の働き掛けを行い、幅広い受講者数の確保に努め、目標を達成できた。
- 研修時期・募集時期や実習受入医療機関の協力を維持し、引き続き医療機関に対し医療従事者の研修参加の働き掛けを行い、受講促進に取り組む。

針路1 施策4 感染症対策の強化

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
11. 感染症病床数	床	75 (R2年度末)	79 (R7年度末)	77 (R7年度末)	102.6%	年度目標達成	85 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

新興・再興感染症のうち、エボラ出血熱やMERSなど県民に重篤な影響を及ぼす感染症について診察・治療が可能な感染症病床の整備数。県民に重篤な影響を及ぼす感染症の患者が発生した場合にも、早期治療を行い、まん延防止を図るため必要となる病床数として国の定めた基準を踏まえ、目標値を設定。

≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

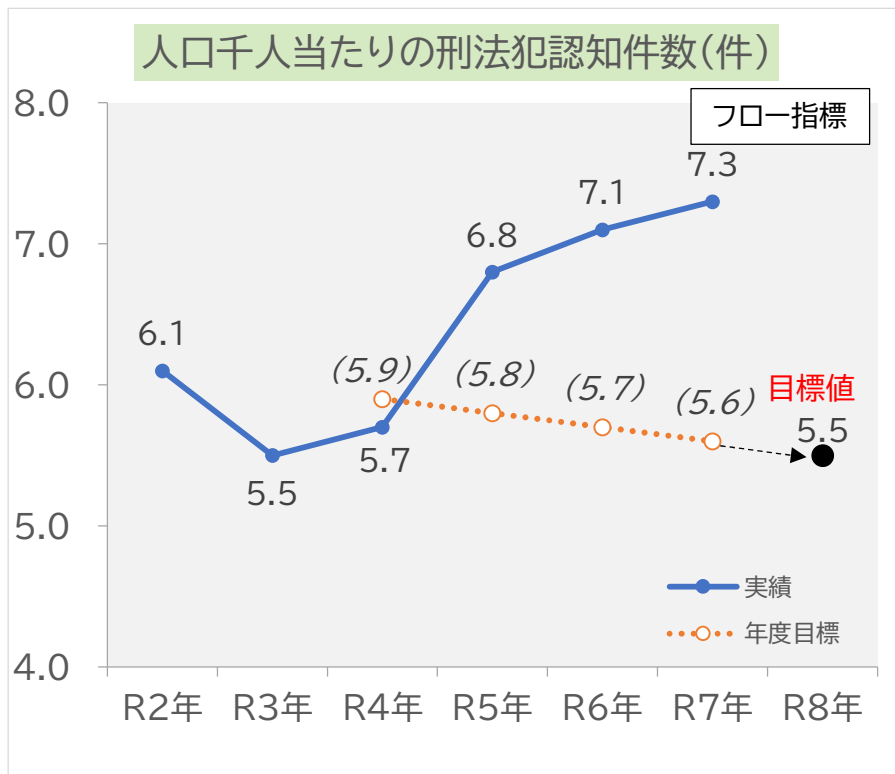
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 感染症の患者が発生した場合に備え、入院治療が可能な感染症病床の運営に係る支援など医療提供体制の確保を図った。
- 新たな感染症発生に備え、感染症病床とは別に感染症患者への対応が可能な病床を医療措置協定に基づき確保する。感染症病床について、医療措置協定締結の締結状況も踏まえ、増床に取り組んでいく。

針路2

施策5 防犯対策の推進と捜査活動の強化

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
12. 人口千人当たりの刑法犯認知件数	件	6.1 (R2年)	7.3 (R7年)	5.6 (R7年)	76.7%	策定時より後退	5.5 (R8年)



≪ 指標の説明 ≫

県内で1年間(1月～12月)に警察において認知した刑法犯の事件数を、その年の県人口(推計人口)で割り、算出した人口千人当たりの刑法犯認知件数。

犯罪の減少傾向を持続させるため、令和2年の現状値6.1件から10%減少させることを目指し、目標値を設定。

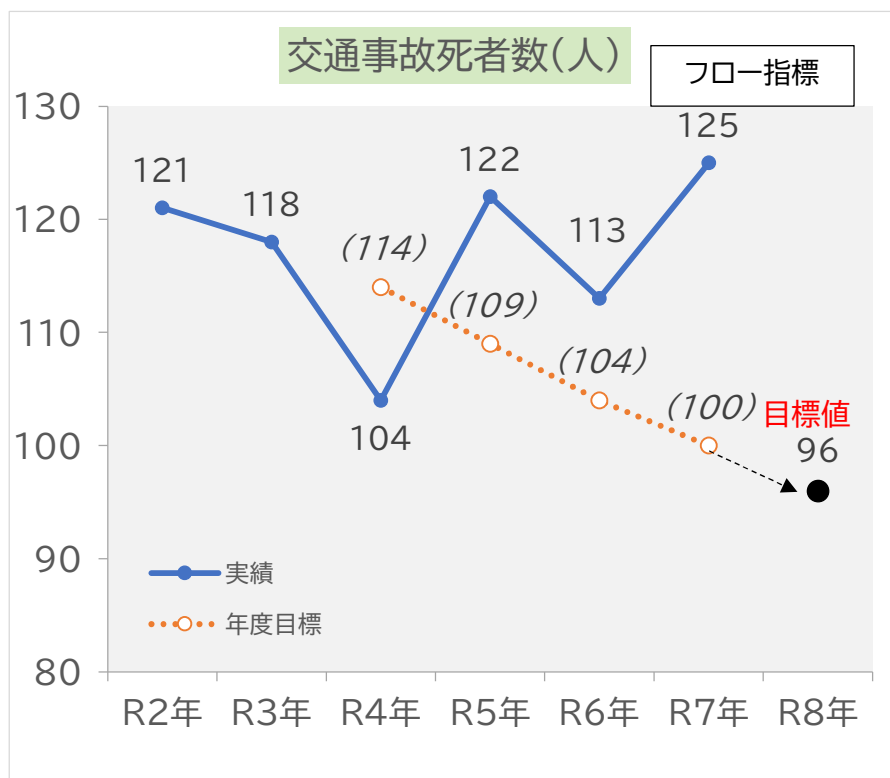
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は計画策定時の値より後退しており、より一層の努力を要する。
- 策定時はコロナ禍の外出自粛等により全国的に認知件数が減少していた時期であり、その後、認知件数は社会活動の回復に伴い、本県でも増加が続いている。加えて、匿名・流動型犯罪グループ関与の特殊詐欺の増加や、組織的な窃盗グループによる侵入窃盗の多発が一定程度影響したものと考えられる。
- 犯罪発生状況の分析を行い、予防、検挙活動を推進していくほか、県民の防犯意識を向上させ、自主的な防犯対策を促す抑止対策を実施する。

針路2 施策6 交通安全対策の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
13. 交通事故死者数	人	121 (R2年)	125 (R7年)	100 (R7年)	80.0%	策定時より後退	96 (R8年)



≪ 指標の説明 ≫

県内で1年間(1月～12月)に発生した交通事故による死者数(事故後24時間以内の死者)。

「第11次埼玉県交通安全計画」における令和7年の目標値(100人以下)を踏まえ、更に交通事故死者数を減少させることを目指し、目標値を設定。

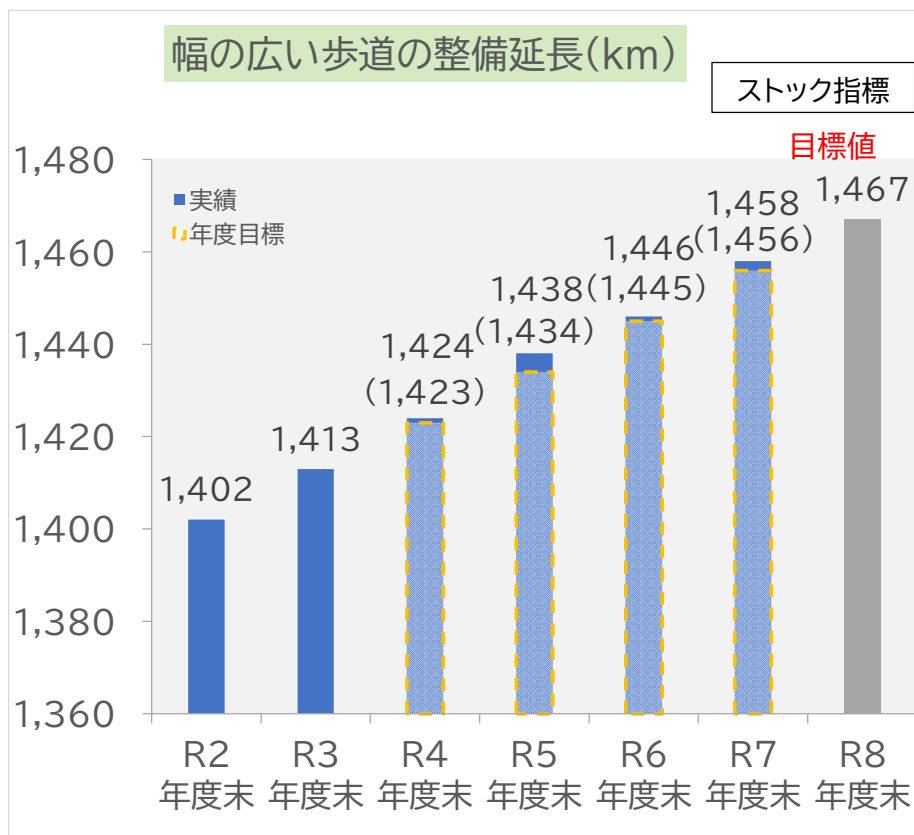
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は計画策定時の値より後退しており、より一層の努力を要する。
- 高齢者の事故死者数が全体の半数以上を占めており、令和6年と比較すると12人増加した。また、全国と比較すると自転車に関連する事故の構成比が高い状況が続いている。
- 高齢者及び自転車の交通事故防止対策を重点とし、交通事故情勢を踏まえた効果的な交通安全対策を推進していく。

針路2 施策6 交通安全対策の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
14. 幅の広い歩道の整備延長	km	1,402 (R2年度末)	1,458 (R7年度末)	1,456 (R7年度末)	100.1%	年度目標達成	1,467 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

県が整備した道路のうち、少なくとも片側に幅員2.5m(有効幅員2.0m)以上の歩道が整備されている道路の延長。
過去5年間(平成28年度～令和2年度)の実績を踏まえ、同水準の整備延長を完了することを目指し、目標値を設定。

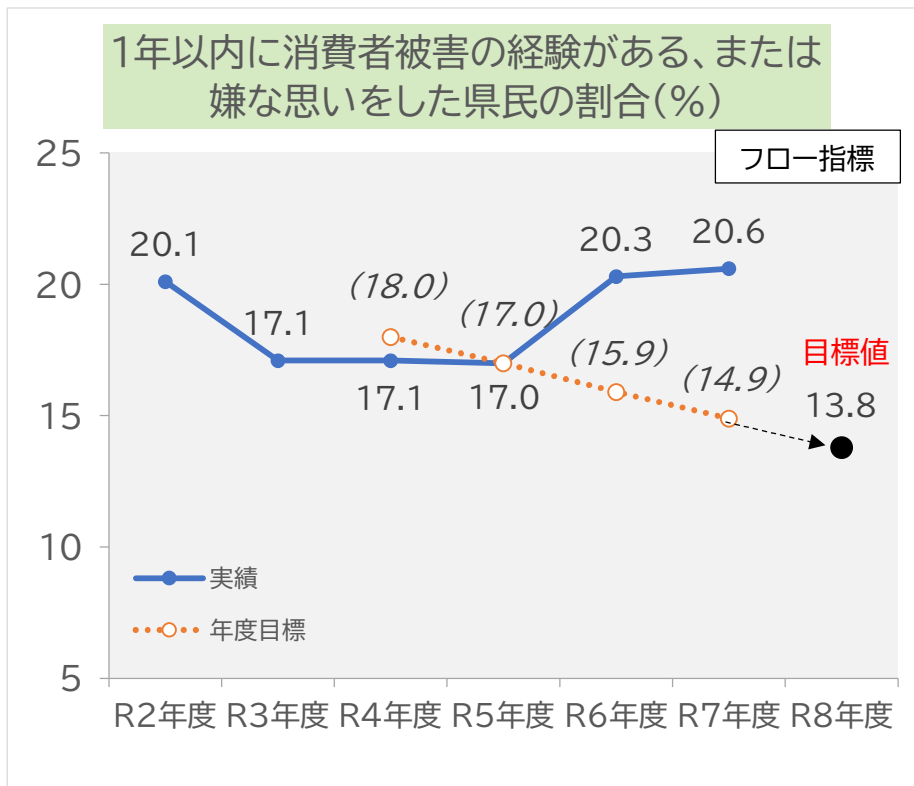
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 年度毎の整備目標を設定し、計画的に整備を進めているため、年度目標を達成した。
- 引き続き、用地取得や工事を進め、幅の広い歩道の整備を推進していく。

針路2 施策7 消費者被害の防止

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
15. 1年以内に消費者被害の経験がある、または嫌な思いをした県民の割合	%	20.1 (R2年度)	20.6 (R7年度)	14.9 (R7年度)	72.3%	策定時より後退	13.8 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

県政世論調査で「訪問販売、電話勧誘販売、通信販売などにより行った契約で、経済的・物的な消費者被害の経験がある」または「嫌な思いをしたことがある」と回答した県民の割合。

消費者被害に遭いやすいとされる高齢者が増加する中であっても、過去5年間(平成28年度～令和2年度)の平均値(15.3%)よりも1割減少させることを目指し、目標値を設定。

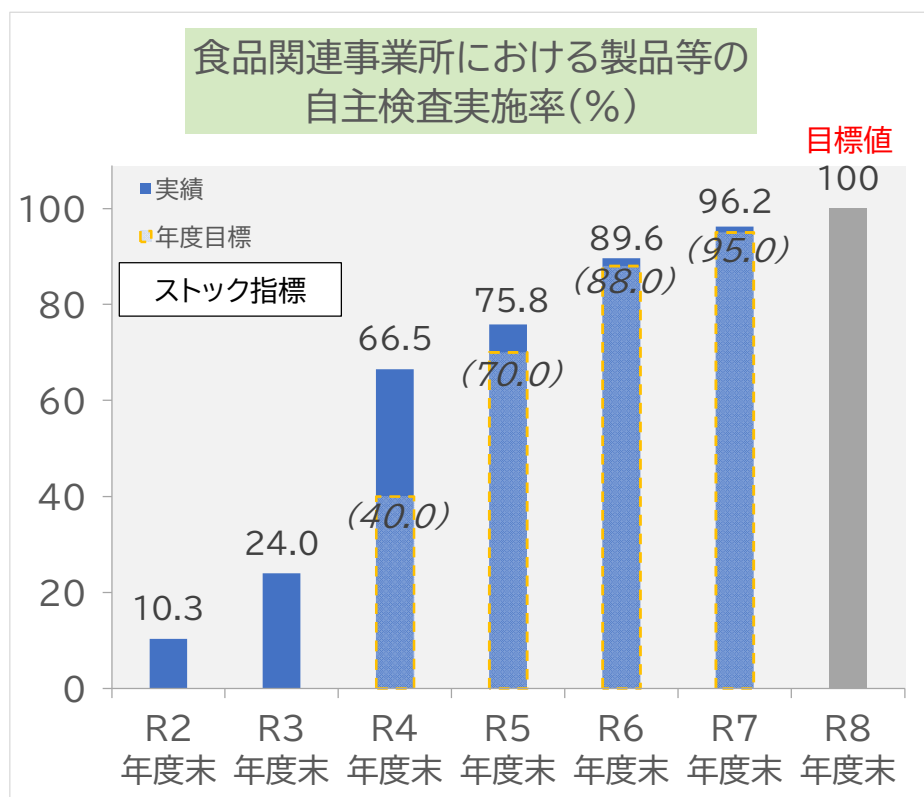
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は計画策定時の値より後退しており、より一層の努力を要する。
- 点検商法に関する消費生活相談は前年度から2割以上増加しており、被害の広域化、手口の巧妙化が進んでいる。また、インターネット通販やSNSを契機とした取引による若者の消費生活相談も前年度から1割以上増加している。
- 事業者に対しては予防・注意喚起的な文書指導を実施、消費者に対しては近年増加しているSNS関係の被害防止のための啓発などを並行して進めることにより、指標の改善を目指す。

針路2 施策8 食の安全・安心の確保

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
16. 食品関連事業所における製品等の自主検査実施率	%	10.3 (R2年度末)	96.2 (R7年度末)	95.0 (R7年度末)	101.3%	年度目標達成	100 (R8年度末)



《 指標の説明 》

食品関連事業所(「食品衛生法」等に基づきHACCPに沿った衛生管理を行うこととされている大規模事業者の施設及び広域流通食品等製造施設)において、HACCPの検証のための自主検査を実施している割合。

食中毒の発生を未然に防止し、食の安全・安心を確保するには、食品関連事業所における製品等の自主検査実施率を100%にする必要があることを踏まえ、目標値を設定。

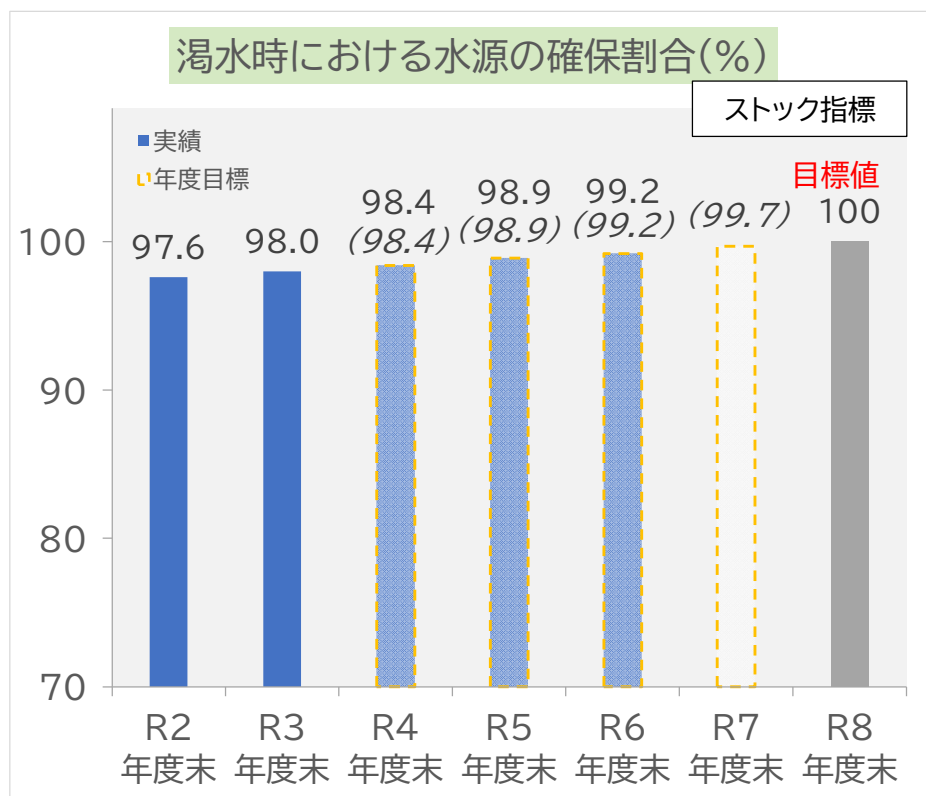
《 指標の進捗状況・分析 》

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- これまで自主検査未導入であった施設に対して重点的に監視を行った結果、年度目標を上回った。
- 引き続き、自主検査未導入の施設に対して、自主基準設定の支援を行いながら、自主検査の実施率向上を図る。

針路2 施策9 安全な水の安定供給と健全な水循環の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
17. 渇水時における水源の確保割合	%	97.6 (R2年度末)	99.2 (R6年度末)	99.2 (R6年度末)	100.0%	年度目標達成	100 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

埼玉県が必要とする取水量に対する、渇水時におけるダム等からの水の供給可能量の割合。

渇水時においても、日常生活に必要な水を安定的に確保する必要があり、水源の確保割合を100%にすることが必要であることを踏まえ、目標値を設定。

≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

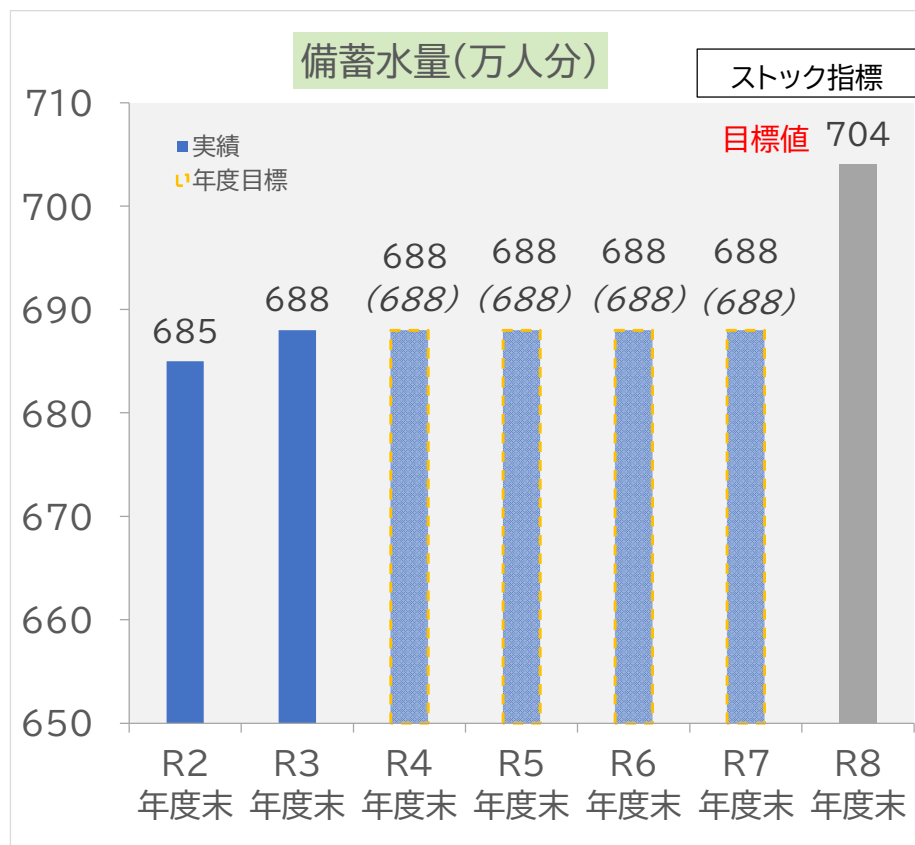
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 思川開発事業は現在実施中であり、水資源開発施設の完成に至っておらず、渇水時供給可能量は増加していないが、実際の水需要との関係から水源の確保割合は増加することとなった。
- 関係都県と連携し、コスト管理や進捗管理を行いながら、建設中の水資源開発施設が計画通りに完成するよう国及び独立行政法人水資源機構に働きかけていく。

※ローリング指標

針路2 施策9 安全な水の安定供給と健全な水循環の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
18. 備蓄水量	万人分	685 (R2年度末)	688 (R7年度末)	688 (R7年度末)	100.0%	年度目標達成	704 (R8年度末)



指標の説明

浄水場などの貯水タンクに確保する水量。
県営水道供給区域内の県民が復旧までの間必要となる水量(89L/人)を着実に供給できることを目指し、目標値を設定。

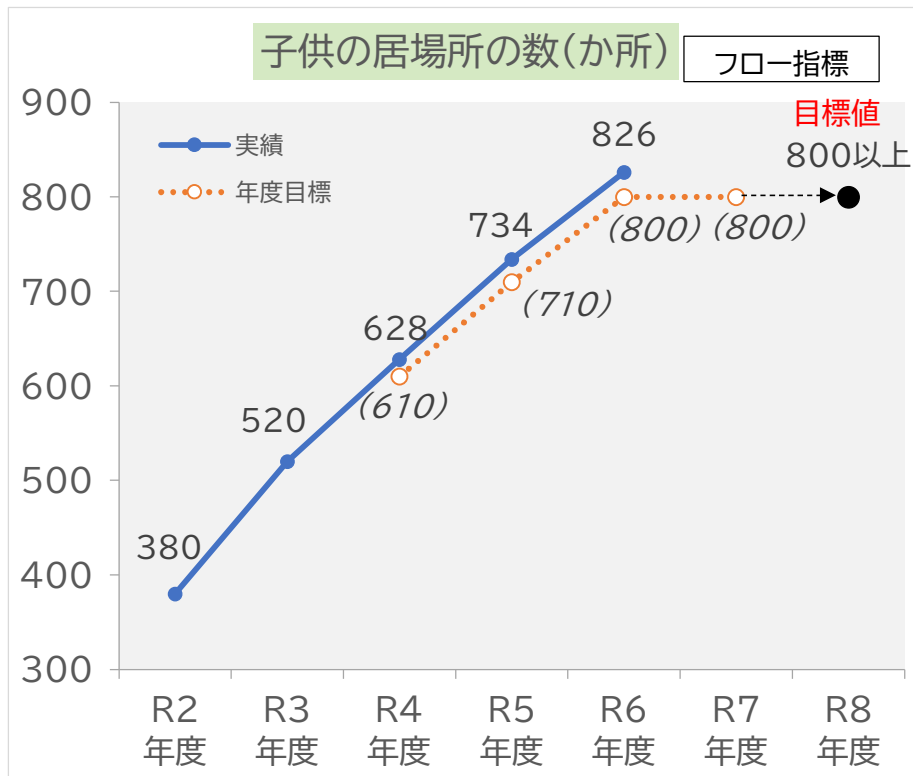
指標の進捗状況・分析

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 備蓄施設の整備を含む吉見浄水場拡張関連施設の整備に取り組んだ。
- 震災時に施設被害を受けてから復旧までの間(1週間)の応急給水に必要な水の備蓄を目標としていたが、令和6年度に全ての県営浄水場の浄水施設の耐震化が完了し、震災時にも継続して浄水処理が可能となった。このため、応急給水に必要な水の確保は達成できている。

針路2 施策10 生活の安心支援

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
19. 子供の居場所の数	か所	380 (R2年度)	826 (R6年度)	800 (R6年度)	103.3%	最終目標を上回る	800以上 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

子ども食堂や無料塾、プレイパーク、多世代交流拠点などの子供の居場所の数。
子供たちが歩いて通えるよう、公立小学校の数(令和3年度806校)を目安に、目標値を設定。

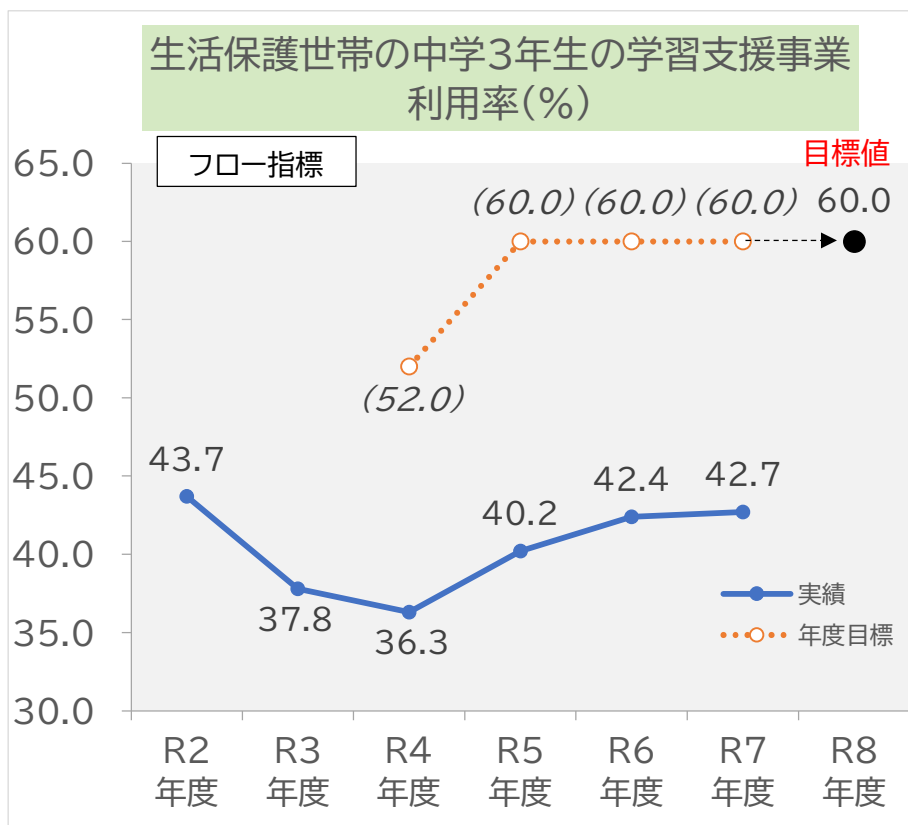
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- こども食堂などのこどもの居場所づくりを後押しするため、「こどもの居場所づくりアドバイザー」を122回派遣し、こどもの居場所の新規立ち上げ・活動の継続を支援した。
- こどもの居場所団体等の立ち上げ・継続の支援を引き続き実施するとともに、こどもの居場所の認知拡大及び気運醸成を図る。

針路2 施策10 生活の安心支援

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
20. 生活保護世帯の中学3年生の学習支援事業利用率	%	43.7 (R2年度)	42.7 (R7年度)	60.0 (R7年度)	71.2%	策定時より後退	60.0 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

生活保護世帯の中学3年生のうち、学習支援事業を利用している割合。
中学3年生の通塾率(約6割)と同率を目指し、目標値を設定。

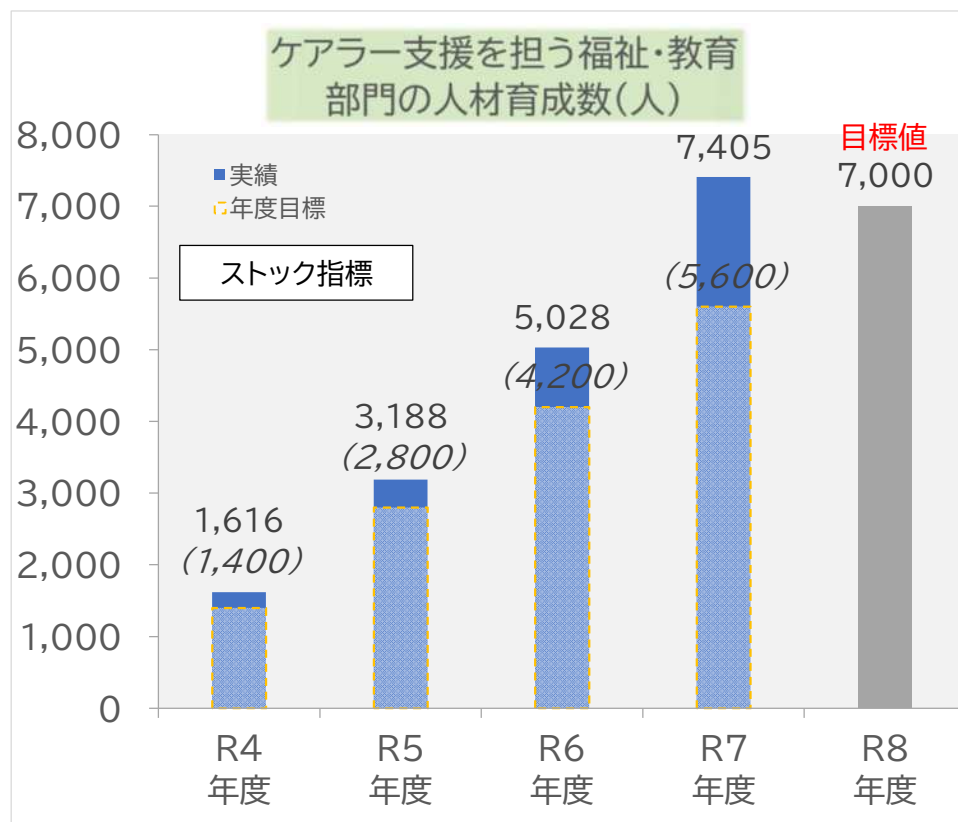
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は計画策定時の値より後退しており、より一層の努力を要する。
- 県所管の町村部教室では目標値を達成している一方、市部では事業利用率に差があり、特に人口が多い政令・中核市の利用率が低いことが影響している。結果的に、全体として策定時より後退している。
- 生活保護世帯の多い政令市・中核市を重点的に訪問し、利用率向上に向けた働きかけを行う。また、市の対象世帯の事業参加促進に向けて、対象世帯への効率的な声かけ方法などを市のケースワーカーに周知するため、出前講座の実施やマニュアルの配布を行い、市部全体の利用率向上に向けた支援を行う。

針路2 施策10 生活の安心支援

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
21. ケアラー支援を担う福祉・教育部門の人材育成数	人	— (—)	7,405 (R4～R7年度の累計)	5,600 (R4～R7年度の累計)	132.2%	最終目標を上回る	7,000 (R4～R8年度の累計)



≪ 指標の説明 ≫

県が実施するケアラー支援に関する福祉部門、教育部門の関係者向け研修を受講した人数の累計。

「埼玉県ケアラー支援計画」の令和5年度の目標値(令和3～5年度の累計で福祉部門3,000人、教育部門1,000人)を踏まえ、毎年度、約1,400人に対し研修を実施し、ケアラーからの相談に対応できる人材を増やすことを目指し、目標値を設定。

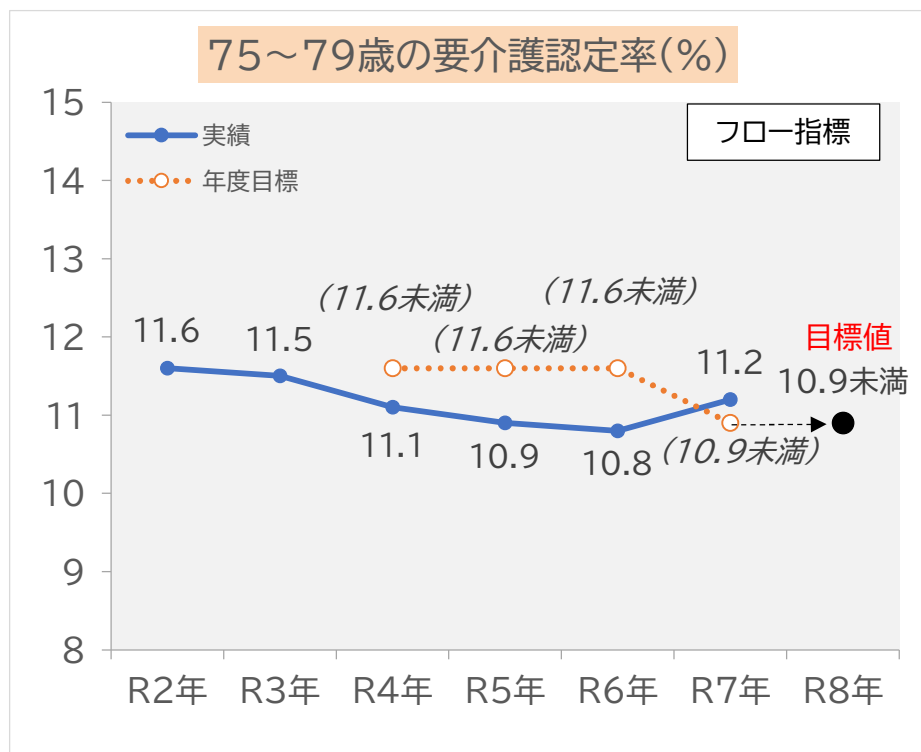
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 地域包括支援センターなどの関係機関、学校等の教員と市町村福祉担当職員等の合同研修に加え、医療従事者、大学教職員等を対象とした研修を実施したことで、より多くのケアラー関係者が受講し、目標達成につながった。
- より多くの方に受講いただくとともに、ケアラー支援のために効果的な内容となるよう、支援関係機関のニーズも踏まえ、研修内容等を工夫しながら継続して研修を実施していく。

針路3 施策11 地域で高齢者が安心して暮らせる社会づくり

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
22. 75～79歳の要介護認定率	%	11.6 (R2年)	11.2 (R7年)	10.9未満 (R7年)	97.3%	策定時より改善	10.9未満 (R8年)



指標の説明

75～79 歳の人のうち、要介護(支援)認定を受けている人の割合。
本県は後期高齢者数の増加率が高いことから今後は要介護認定率の上昇が見込まれるため、介護予防の取組などにより、現行の水準より下げることを目指し、目標値を設定。

指標の進捗状況・分析

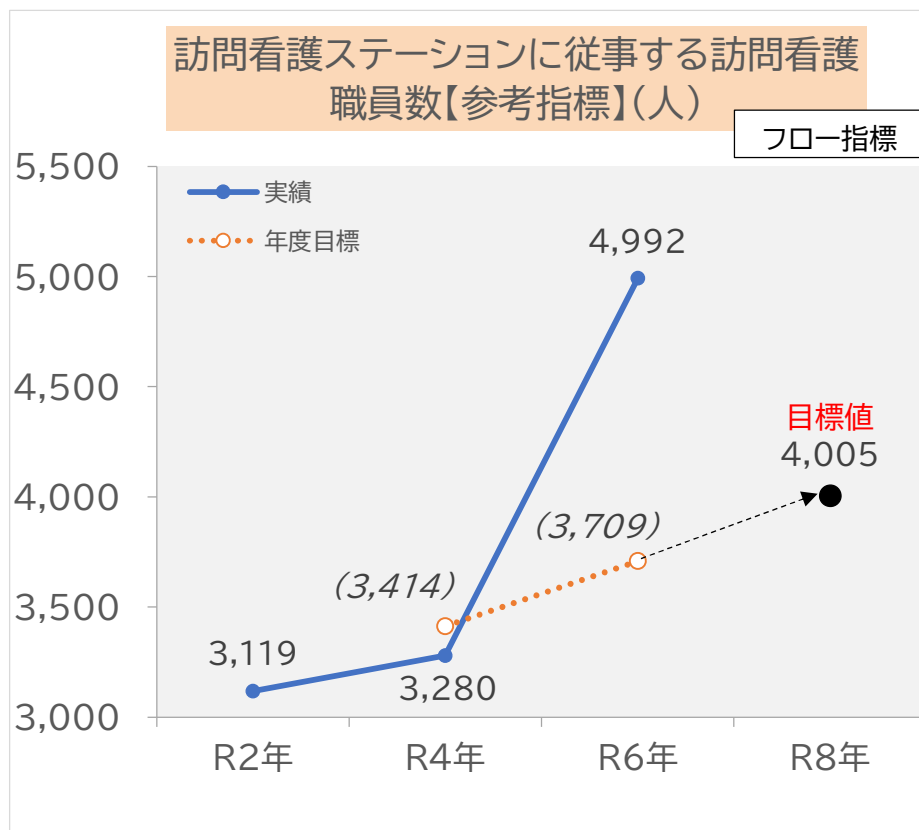
- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 介護予防に取り組めるよう環境づくりを進めてきたことで策定時よりは改善しているが、要介護認定率は高齢になるほど高くなる傾向がある中で、高齢者人口の増加に対応しきれなかったことから、年度の目標を下回った。
- 団塊の世代が70歳代後半となる中、早い段階から介護予防に取り組める環境づくりを進めるため、保健・福祉の専門職団体などと連携するとともに、市町村に対しては実情に応じた支援を進め、介護予防の取組を強化していく。

※ローリング指標

針路3 施策11 地域で高齢者が安心して暮らせる社会づくり

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
23. 訪問看護ステーションに従事する訪問看護職員数【参考指標】	人	3,119 (R2年)	4,992 (R6年)	3,709 (R6年)	134.6%	最終目標を上回る	4,005 (R8年)



◀ 指標の説明 ▶

訪問看護ステーションに従事する看護職員の数。
今後見込まれる在宅医療需要の増加により令和7年(2025年)に必要な訪問看護職員数(推計3,857人)を踏まえ、訪問看護職員数を更に増加させることを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 高齢化に伴い在宅医療のニーズが高まる中で訪問看護職員の需要も高まっており、その中で本県が行う訪問看護職員の確保・育成・定着支援に係る事業が一定の効果を発揮しているものと評価できる。
- 在宅の需要が今後さらに高まることを踏まえ、訪問看護職員の確保や高度な医療に対応できる訪問看護職員の育成が不可欠である。そのため、訪問看護ステーションの機能強化を支援し、質の高い訪問看護サービスを安定的に提供できる体制を整えていく。

針路3 施策12 介護人材の確保・定着対策の推進

施策指標の進捗状況

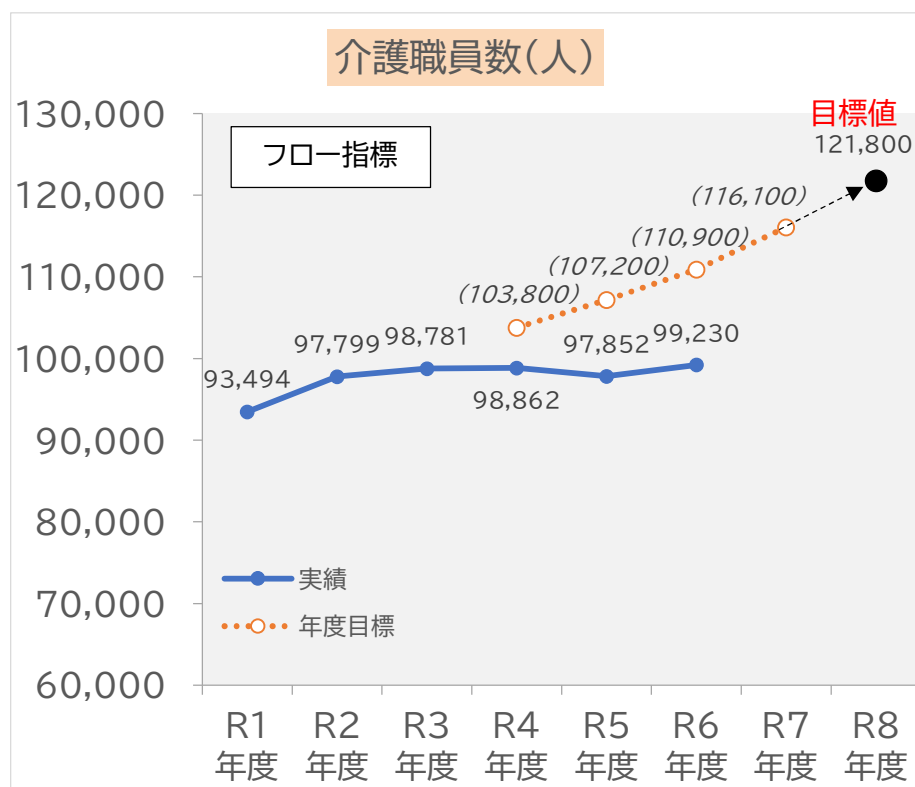
指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
24. 介護職員数	人	93,494 (R1年度)	99,230 (R6年度)	110,900 (R6年度)	89.5%	策定時より改善	121,800 (R8年度)

≪ 指標の説明 ≫

介護施設・事業所に勤務する介護職員数。
国の介護人材需給推計方法に基づいて算出した令和8年度の必要介護職員数(121,799人)を踏まえ、目標値を設定。

≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 介護職員しっかり応援プロジェクトや介護未経験者などへの就労支援等に取り組んだことにより、計画策定時より増加している。
- 令和8年度からは「介護人材奨学金返済支援事業」を新たに始め、取組を強化する。また、職員の資格取得支援やキャリアに応じた研修を実施するとともに、介護ロボットやICTの導入によって介護現場の生産性の向上を図り、働きやすい職場づくりに努めることで、職員の定着につなげる。

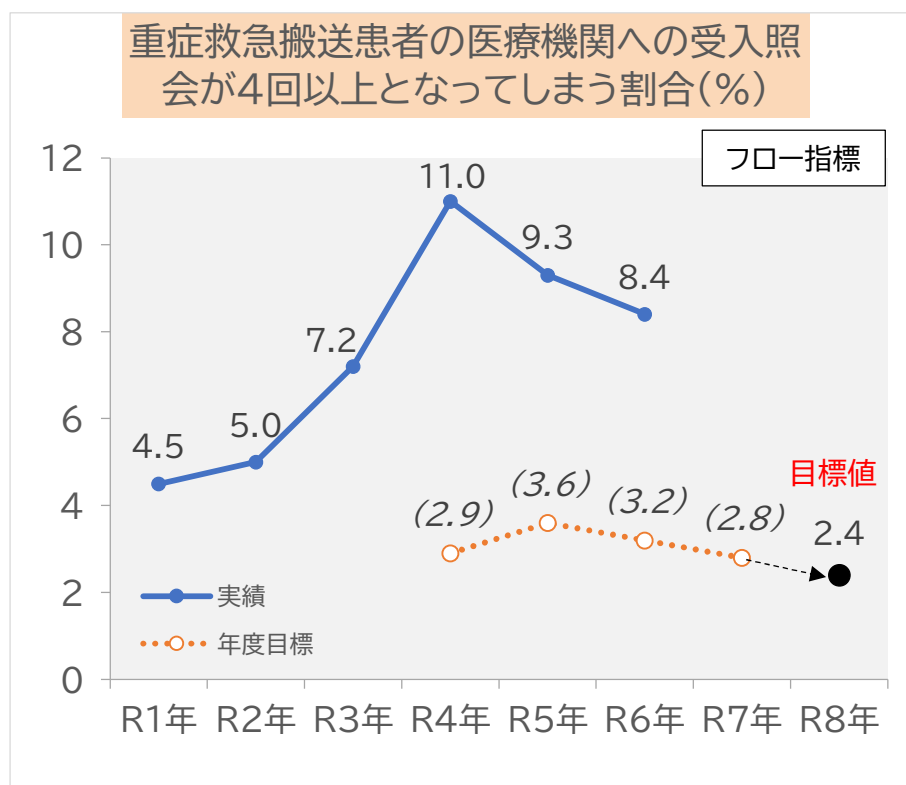


※ローリング指標

針路3 施策13 地域医療体制の充実

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
25. 重症救急搬送患者の医療機関への受入照会が4回以上となってしまう割合	%	4.5 (R1年)	8.4 (R6年)	3.2 (R6年)	38.1%	策定時より後退	2.4 (R8年)



≪ 指標の説明 ≫

重症以上の救急搬送患者のうち、医療機関への受入照会が4回以上となった患者の割合。
直近の全国平均である2.4%(令和元年)を下回ることを目指し、目標値を設定。

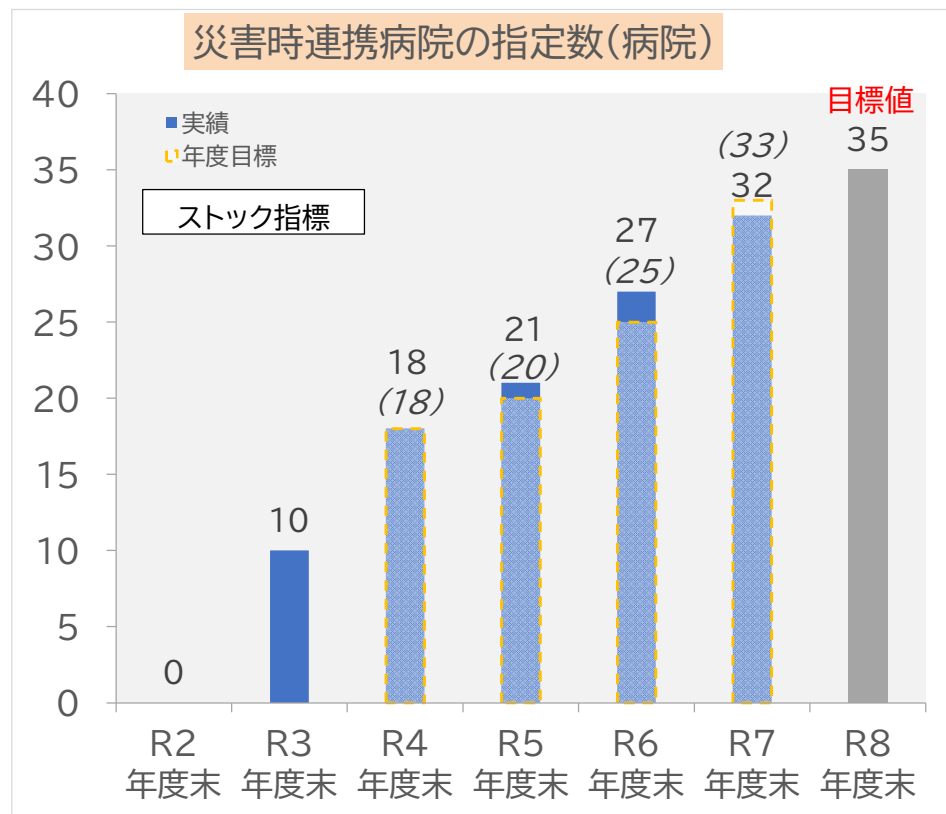
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は計画策定時の値より後退しており、より一層の努力を要する。
- 高齢化の影響もあり、救急搬送人員数は年々増加している。一方で、救急車を受け入れる救急医療機関の数は横ばい傾向であり、1医療機関あたりの負担が増加し、救急患者の受入れがより困難な状況になっているため、策定時より後退した。
- 引き続き、救急搬送体制の強化、受入医療機関の整備、適正受診の推進の3本柱を取り組んでいく。

針路3 施策13 地域医療体制の充実

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
26. 災害時連携病院の指定数	病院	0 (R2年度末)	32 (R7年度末)	33 (R7年度末)	97.0%	策定時より改善	35 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

災害時に災害拠点病院と連携し、中等症患者などを受け入れる病院の指定数。

災害拠点病院(令和2年度末22病院)と円滑に連携できる体制の確立及び地域偏在の解消を目指し、目標値を設定。

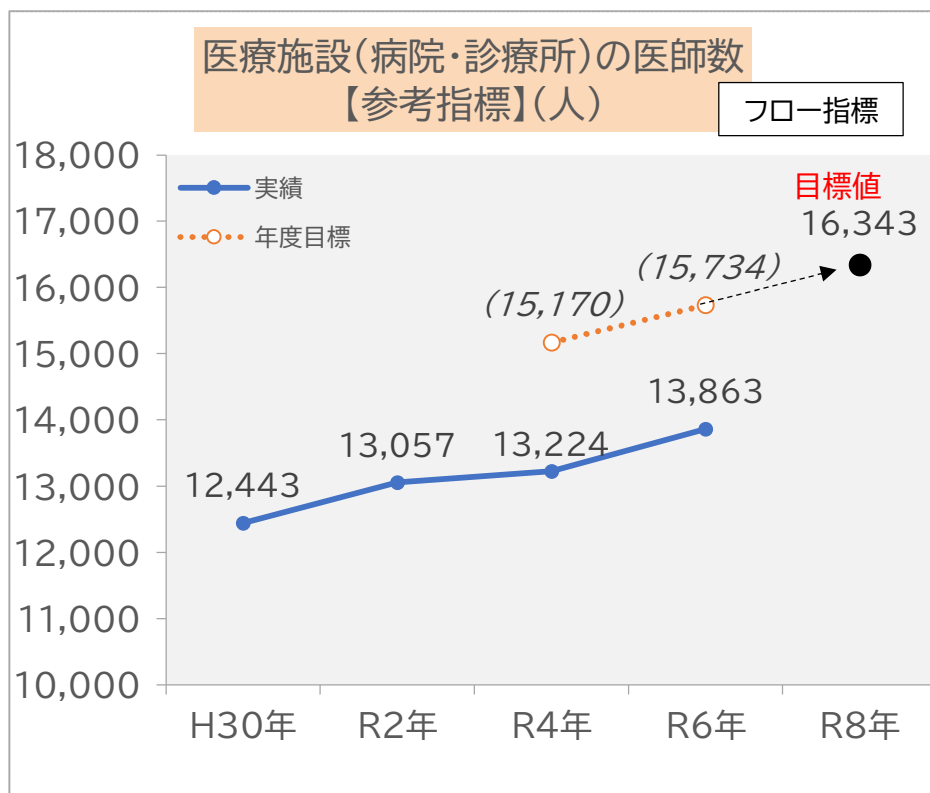
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 令和7年度は新規指定6病院を追加し計33病院指定となる見込みであったが、1病院が指定要件を満たすための体制整備に時間を要し、指定申請を見送ったことから年度目標を達成できなかった。一方で、埼玉地域DMAT養成研修等の支援を行い新たに5病院を災害時連携病院に指定したことから、災害時連携病院の指定数は年々増加している。
- 今後も引き続き協力病院の確保に努めるとともに、埼玉地域DMAT養成研修等を実施し、災害時連携病院の増加を図る。

針路3 施策14 医師・看護師確保対策の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
27. 医療施設(病院・診療所)の医師数【参考指標】	人	12,443 (H30年)	13,863 (R6年)	15,734 (R6年)	88.1%	策定時より改善	16,343 (R8年)



≪ 指標の説明 ≫

医療施設に従事する医師数。

医師確保の取組により、本県の人口10万人当たり医師数(平成30年169.8人)について、社会・経済的条件が近似する千葉県、神奈川県、埼玉県の3県の近年の増加傾向を踏まえた平均値(令和8年223.3人)に達することを目指し、目標値を設定。

※目標値を達成するために必要な医師数は3,900人(人口換算により算出)。

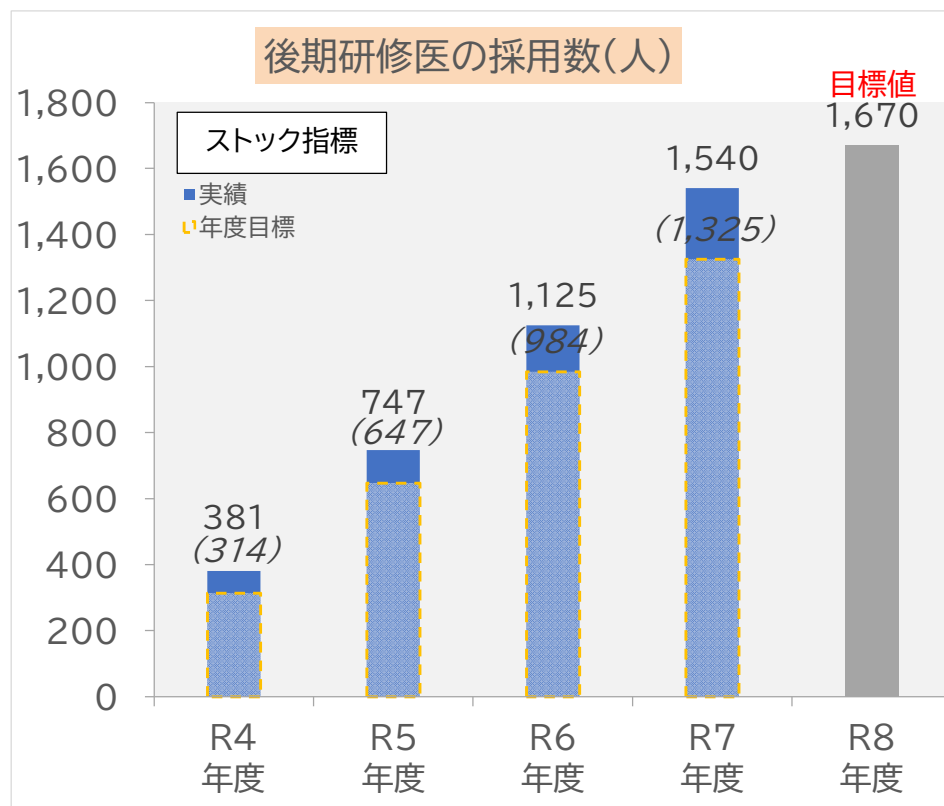
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 奨学金・研修資金の貸与やガイドブックの作成、病院合同説明会の開催等の取り組みを行ったことにより、目標値に向けて着実に増加している。
- 既存の取り組みに加え、県内での専門研修プログラムをPRするための特設WEBサイトのコンテンツと臨床研修医向けの合同説明会の内容を充実させ、県内医師数の更なる増加、定着を図る。

針路3 施策14 医師・看護師確保対策の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
28. 後期研修医の採用数	人	— (—)	1,540 (R4～R7年度の累計)	1,325 (R4～R7年度の累計)	116.2%	年度目標達成	1,670 (R4～R8年度の累計)



≪ 指標の説明 ≫

専門研修基幹病院において採用された後期研修医の人数。
「第7次埼玉県地域保健医療計画」における令和5年度の目標値(333人)を踏まえ、更に後期研修医の採用数を増加させることを目指し、目標値を設定。

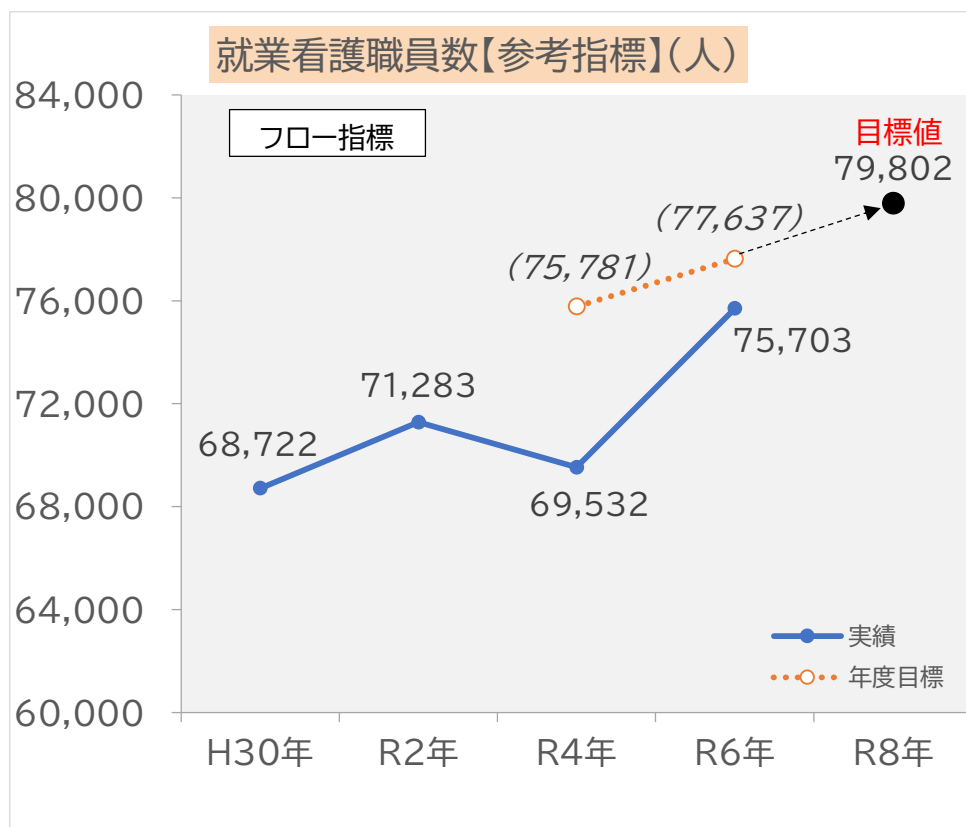
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 後期研修医の県内医療機関への誘導・定着を促進するため、後期研修を県内病院で受講してもらえるよう、奨学金・研修資金の貸与、県内専門研修プログラムをPRする特設WEBサイトのコンテンツ拡充などで、魅力を発信してきたことにより、後期研修医の採用者数は着実に増加してきている。
- 令和7年度に引き続き奨学金・研修資金の貸与、専門研修プログラムガイドブックの作成を行うとともに、専門研修プログラム特設WEBサイトの更なる拡充と周知を行い、一層の後期研修医の確保を図る。

針路3 施策14 医師・看護師確保対策の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
29. 就業看護職員数【参考指標】	人	68,722 (H30年)	75,703 (R6年)	77,637 (R6年)	97.5%	策定時より改善	79,802 (R8年)



◀ 指標の説明 ▶

保健師、助産師、看護師、准看護師の免許を取得している者のうち就業しているものの人数。

国の供給推計方法に基づいて算出した令和7年の看護職員の供給推計が78,416人であることを踏まえ、看護職員数を更に増加させることを目指し、目標値を設定。

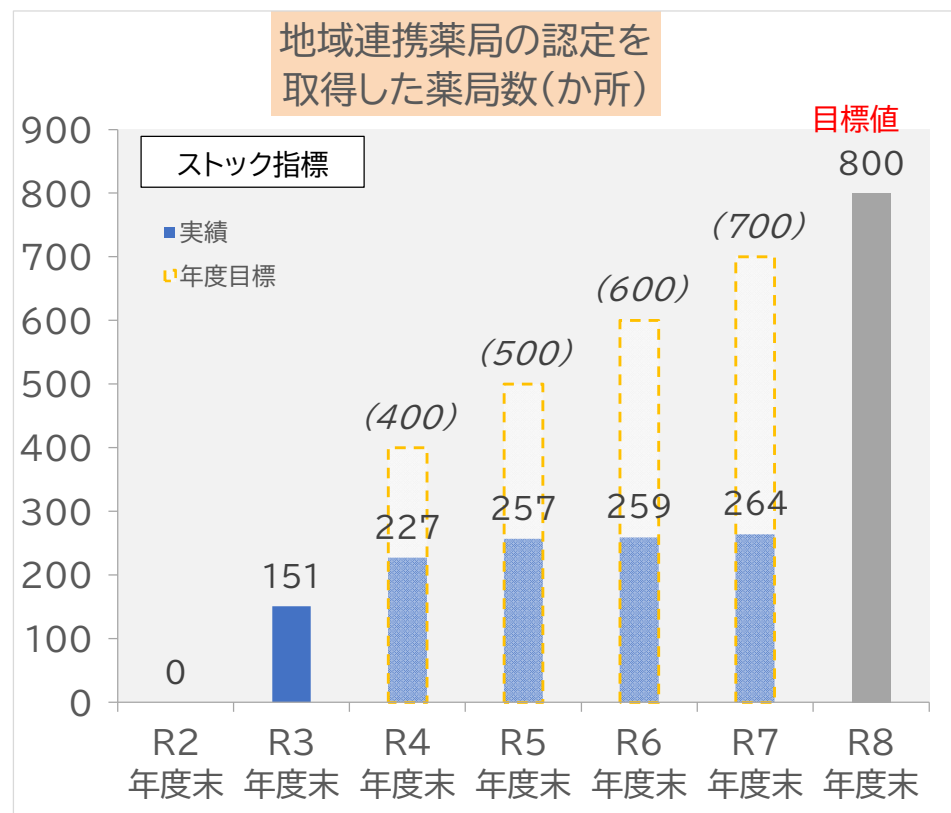
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 看護学生への支援や新人看護職員の定着支援、潜在看護職員の復職定着支援などに取り組み、看護職員の確保を図ってきたが県内看護職員の離職率が12.1%であり、全国平均(11.0%)より高く定着に課題がある。
- 看護学生への支援や新人看護職員の就業促進・定着支援を行うことで看護職員の確保を図る。また、潜在看護職員の復職定着支援などに加えて、ICT導入による看護業務の負担軽減を行う病院の支援などによる離職を防止する取組を行い、定着を図る。

針路3 施策15 医薬品などの適正使用の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
30. 地域連携薬局の認定を取得した薬局数	か所	0 (R2年度末)	264 (R7年度末)	700 (R7年度末)	37.7%	策定時より改善	800 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

かかりつけ薬剤師・薬局のうち、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に基づく地域連携薬局の認定を取得した薬局数。

日常生活圏域(中学校区)において、患者が自身に適した地域連携薬局を選択できるよう、公立中学校(令和3年度416校)の数を2倍した数を目安に、目標値を設定。

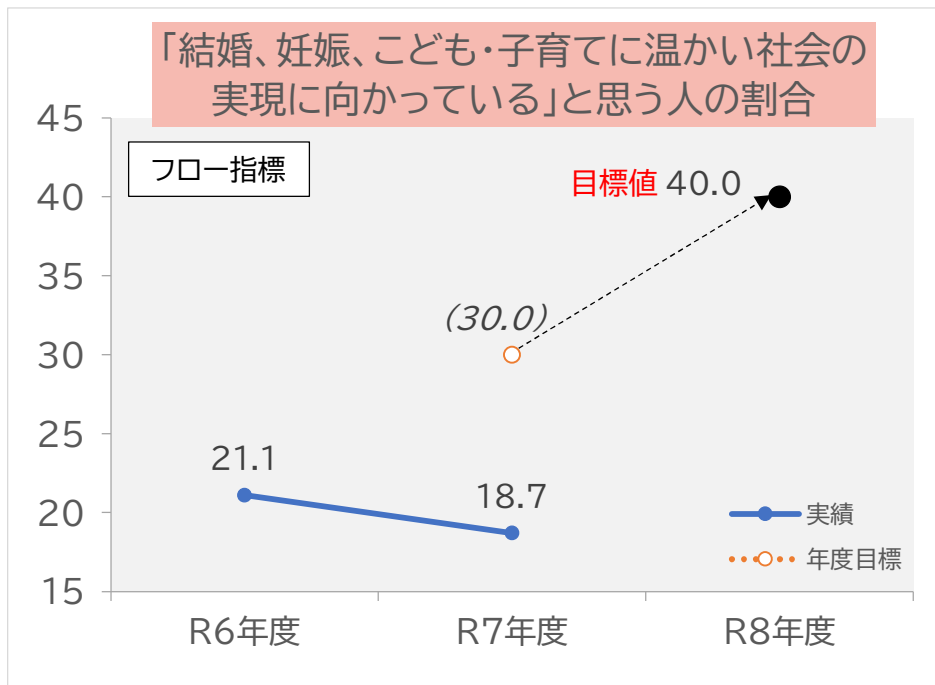
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 地域連携薬局の制度を薬局関係者に周知したものの、理解が十分浸透していないことや認定申請書の添付書類作成の困難度が高いこと及び調剤報酬加算がなく認定取得によるメリットが少ないことなどにより年度目標に至らなかった。
- 地域連携薬局に関する制度概要等を県HPに掲載するとともに県薬剤師会と連携し多くの薬局関係者が参加する研修会での説明による周知を進めていく。併せて必要に応じ国に対して制度設計の見直しや調剤報酬加算の創設などを働きかける。

針路4 施策16 きめ細かな少子化対策の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
31.「結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現に向かっていく」と思う人の割合	%	21.1 (R6年度)	18.7 (R7年度)	30.0 (R7年度)	62.3%	策定時より後退	40.0 (R8年度)



指標の説明

県が実施する調査により「結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現に向かっていく」と思うと回答した人の割合。

「こども大綱」における「こどもまんなか社会」の実現に向けた数値目標を踏まえ、目標値を設定。

指標の進捗状況・分析

- 最新値は計画策定時の値より後退しており、より一層の努力を要する。
- 子育て支援施策だけでなく、教育やまちづくり、国の政策など様々な要因の影響を受けている。また、経済的な不安定さや出会いの機会の減少、仕事と子育ての両立の難しさなど、社会的要因も複雑に絡み合っていると考えられる。そのため、県の施策だけでなく、社会全体でそれぞれの取組を進める必要があると考えられる。
- 県においては、結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現に向けて、引き続き結婚を望む人に出会いの機会を提供するSAITAMA出会いサポートセンターによる結婚支援の実施や、パパ・ママ応援ショップ事業などを実施することで、子育て家庭がこどもを持ってよかったと実感できる気運醸成に取り組んでいく。

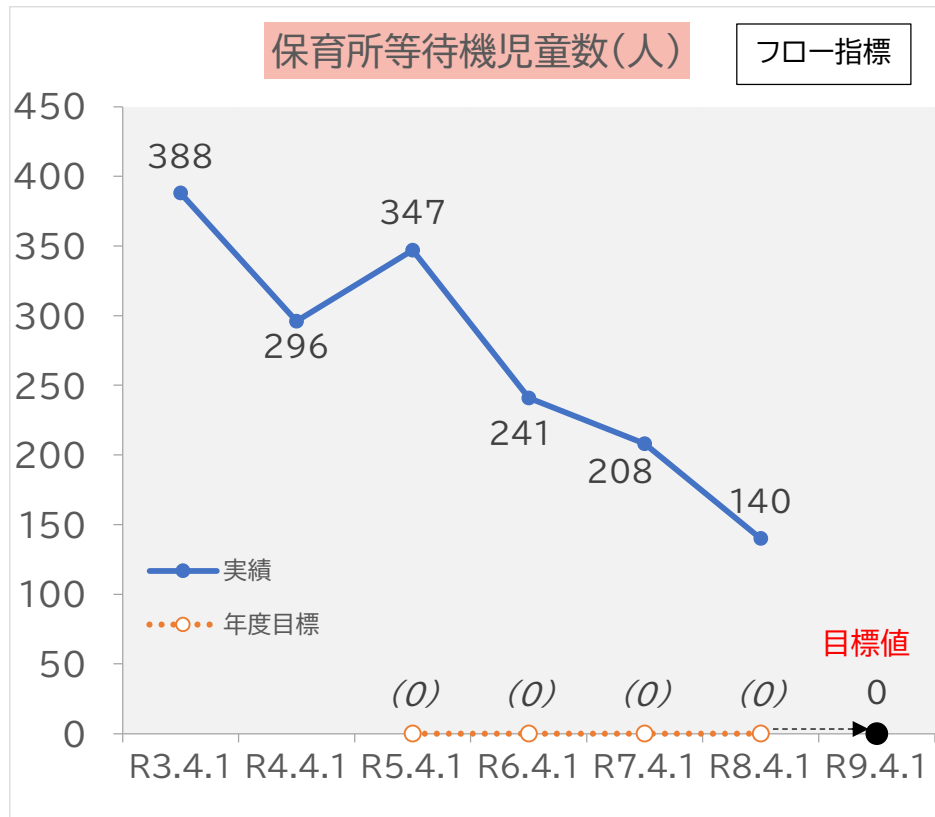
※ローリング指標

令和7年3月に計画の見直しを行い、「合計特殊出生率」から「『結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現に向かっていく』と思う人の割合」に変更し、代替指標として評価するため、令和5年度以前の数値と令和6年度の年度目標の設定はない。

針路4 施策17 子育て支援の充実

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
32. 保育所等待機児童数	人	388 (R3.4.1)	140 (R8.4.1)	0 (R8.4.1)	0%	策定時より改善	0 (R9.4.1)



《 指標の説明 》

保育の必要性の認定を受け、保育所等の利用の申込みがされているが、利用できていない人数(特定の保育所等への希望や育児休業延長の意思の確認ができた者などを除く)。
計画期間中は常に待機児童がいない状態を目指し、目標値を設定。

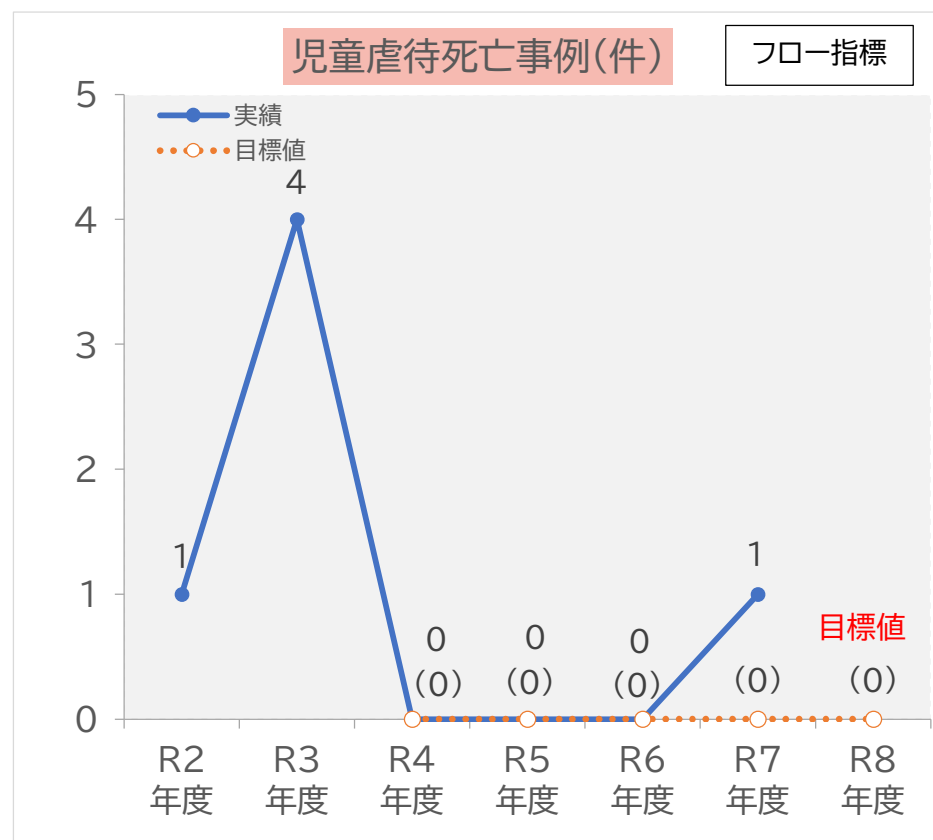
《 指標の進捗状況・分析 》

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 保育所等の整備や定員の弾力化による受け入れ枠の増加等により待機児童数を減らすことができ、策定時より改善している。待機児童の目標を達成できていない理由としては、共働き世帯の増加に伴う申込者数の増加等が挙げられる。
- 1、2歳児の待機児童数が多いことから、同世代の受け皿となる保育所の整備を進めるなど、地域の実情に応じた待機児童対策を進めてもらえるよう、市町村に働きかけを行っていく。また、新卒保育士等への就職準備金の貸付等を実施し、保育士確保を支援していく。

針路4 施策18 児童虐待防止・社会的養育の充実

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
33. 児童虐待死亡事例	件	4 (H28～R2年度)	1 (R7年度)	0 (R7年度)	0%	策定時より改善	0 (R4～R8の各年度)



≪ 指標の説明 ≫

児童虐待により死亡に至った事例の数。
虐待による死亡事例を根絶するため、毎年度死亡事例を発生させないことを目指し、目標値を設定。

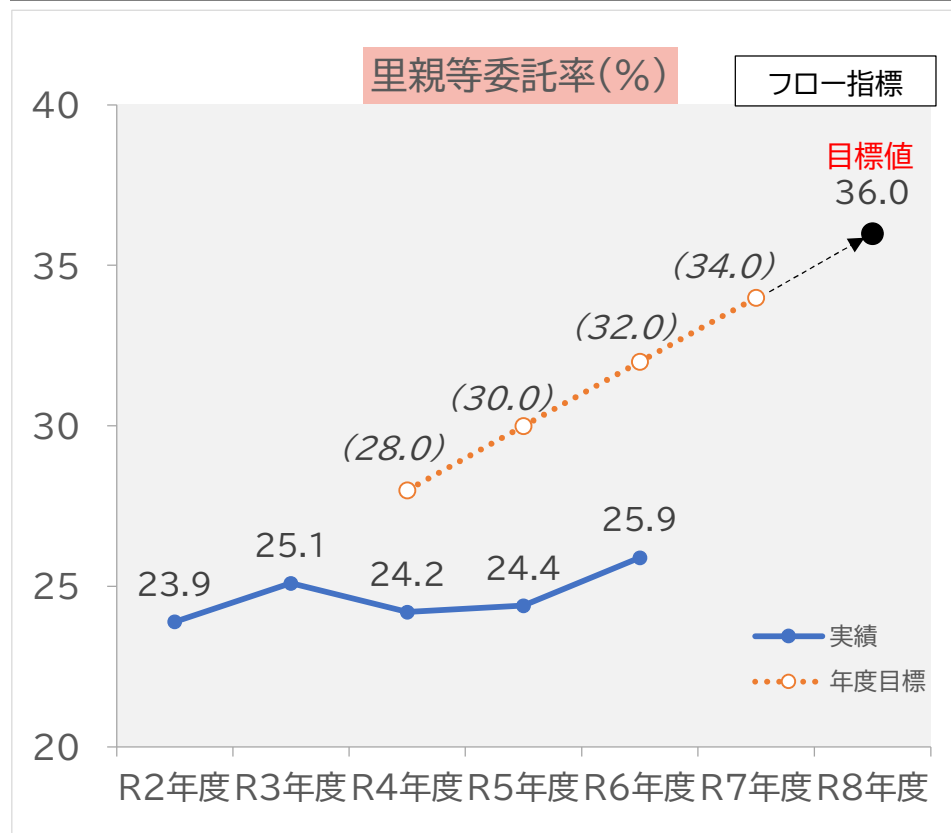
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に達していない。
- 児童相談所の体制強化や警察との連携強化のほか、市町村の対応力強化のための支援や児童虐待防止に関する広報・啓発といった取組を行ってきたが、死亡事例を防止できなかった。
- 今後、外部委員から構成される児童虐待重大事例検証委員会の中で検証し、再発防止に向けた提言をいただき対応していく。また、児童相談所の体制強化や警察をはじめとする関係機関との連携強化等の取組を着実に実施し、児童虐待の未然防止、早期発見・早期対応に努めていく。

針路4 施策18 児童虐待防止・社会的養育の充実

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
34. 里親等委託率	%	23.9 (R2年度)	25.9 (R6年度)	32.0 (R6年度)	80.9%	策定時より改善	36.0 (R8年度)



《 指標の説明 》

社会的養育が必要な児童のうち、里親等(里親及びファミリーホーム)において養育されている児童の割合。

「埼玉県子育て応援行動計画」における令和6年度の目標値(32%)を踏まえ、里親等委託率を更に向上させることを目指し、目標値を設定。

《 指標の進捗状況・分析 》

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 家庭養育を推進した結果、策定時よりは改善しているものの、要保護児童は虐待等の影響により、施設において専門的なケアを必要とする児童も多いことなどから、里親等委託に結びつけるのが困難であった。
- 里親支援センターやフォスティング機関、里親支援専門相談員(児童養護施設、乳児院に配置)等と連携し、民間の専門的知見と機動力を活用して里親制度の普及、里親の新規開拓、里親等委託の拡大に取り組む。併せて県里親会と連携し、未委託里親に対する研修や里親等委託前後の支援等を行い、先輩里親がサポートする「ピアサポート」を充実させ、里親の養育技術の向上と孤立化の防止に取り組む。

針路4

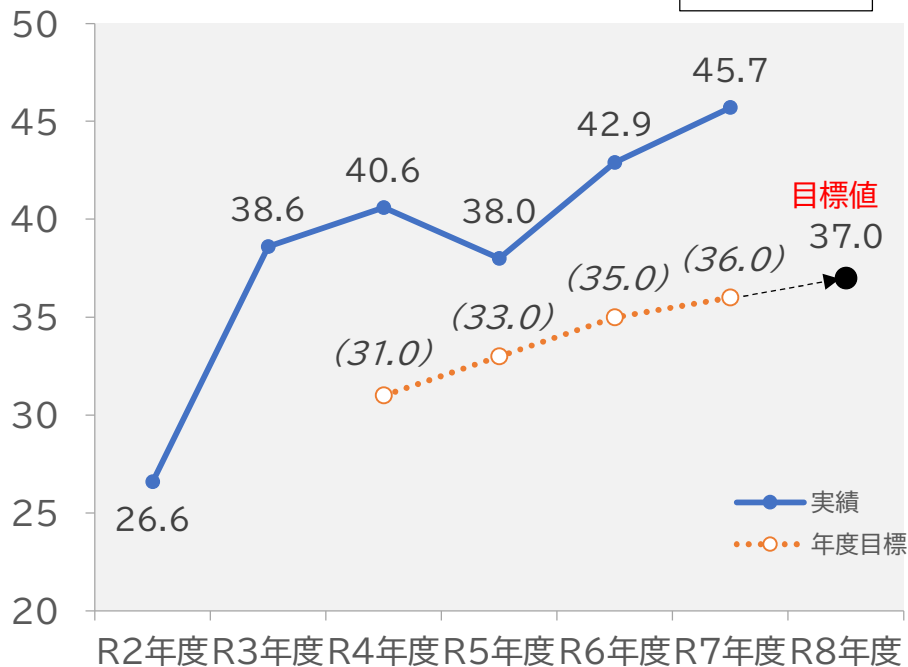
施策18 児童虐待防止・社会的養育の充実

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
35. 児童養護施設退所児童の大学等進学率	%	26.6 (R2年度)	45.7 (R7年度)	36.0 (R7年度)	126.9%	最終目標を上回る	37.0 (R8年度)

児童養護施設退所児童の大学等進学率(%)

フロー指標



≪ 指標の説明 ≫

児童養護施設を退所した高等学校卒業児童のうち、高等教育機関(大学・短期大学、高等専門学校及び専門学校)へ進学した者の割合。
「埼玉県子育て応援行動計画」における令和6年度の目標値(35%)を踏まえ、毎年着実に進学する児童を増やすことを目指し、目標値を設定。

≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

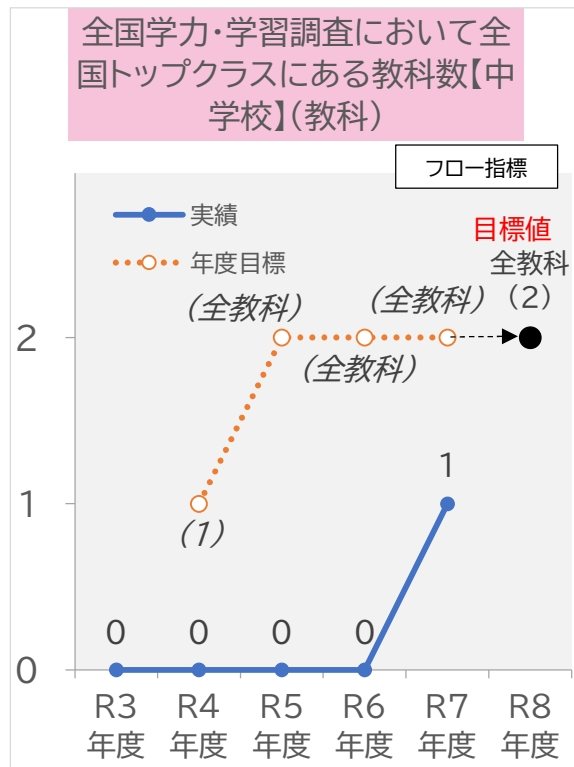
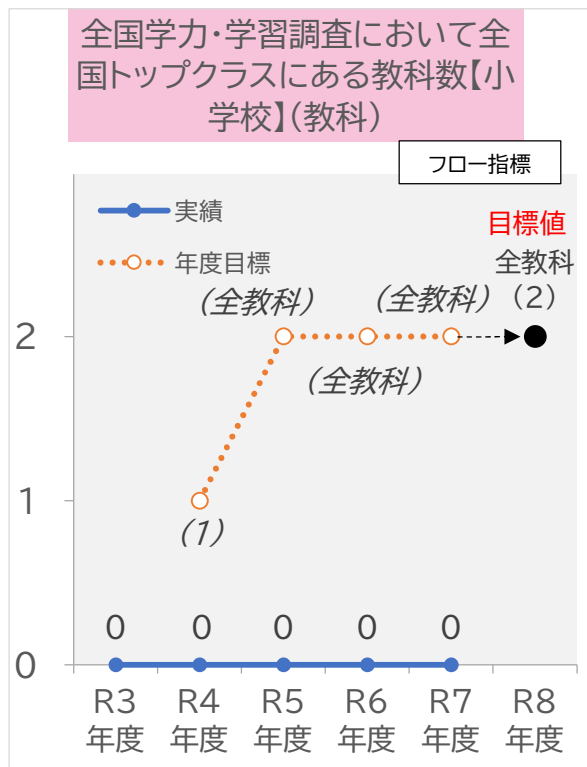
- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 学習経費の補助や「希望の家」における進学者への支援、自立支援資金の貸付を行うことで最終目標を上回っている。
- 学習経費や受験料などの補助を引き続き行い、大学等への進学を支援する。

針路5 施策19 確かな学力と自立する力の育成

施策指標の進捗状況

※総合的な進捗状況は次頁「埼玉県学力・学習状況調査において学力を伸ばした児童生徒の割合」と一体として評価する。

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
36. 学力・学習状況調査における学力状況 ●全国学力・学習状況調査において全国トップクラスにある教科数	教科	小学校 0 中学校 0 (R3年度)	小学校 0 中学校 1 (R7年度)	小学校 全教科 中学校 全教科 (R7年度)	0% 50.0%	策定時と同じ	小学校 全教科 中学校 全教科 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

全国学力・学習状況調査において、全国平均正答率(公立)を1ポイント以上上回った教科数(調査を毎年行う国語、算数・数学に限る)。

全国学力・学習状況調査の毎年調査を行う小・中学校全ての教科(各2教科)において、全国平均正答率を1ポイント以上上回ることによって全国トップクラスになることを目指し、目標値を設定。

≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

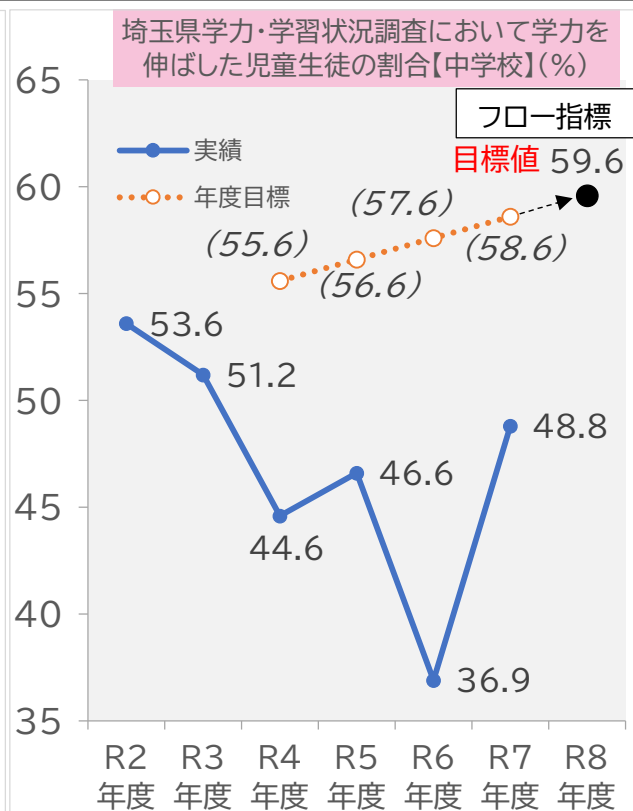
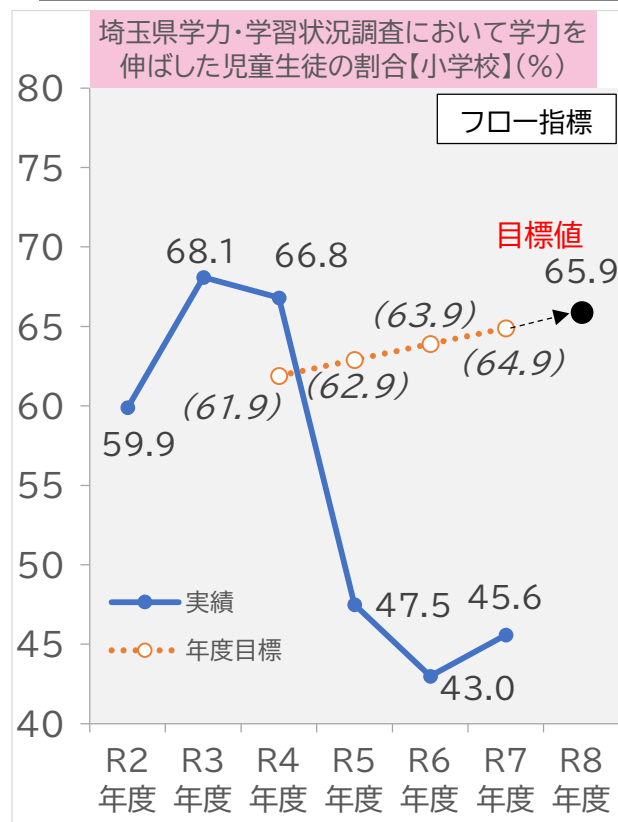
- 最新値は計画策定時と同水準で改善しておらず、目標値達成に向け一層の努力を要する。(中学校は策定時より改善)
- 優れた指導技術を持つ教員の授業動画の拡充、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研修プログラム」の活用促進、各市町村の担当指導主事を集めた会議での指導方法の協議等を行ってきたが、各学校での実践活用ができなかった。
- 引き続き、「主体的・対話的で深い学び」の実践を充実させるため、優れた指導技術を持つ教員の授業動画や研修プログラムの活用について、各市町村の指導主事が教科ごとに参加する会議等を通じて促していく。

針路5 施策19 確かな学力と自立する力の育成

施策指標の進捗状況

※総合的な進捗状況は前頁「全国学力・学習状況調査において全国トップクラスにある教科数」と一体として評価する。

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
36. 学力・学習状況調査における学力状況 ●埼玉県学力・学習状況調査において 学力を伸ばした児童生徒の割合	%	小学校 59.9 中学校 53.6 (R2年度)	小学校 45.6 中学校 48.8 (R7年度)	小学校 64.9 中学校 58.6 (R7年度)	70.3% 83.3%	策定時より後退	小学校 65.9 中学校 59.6 (R8年度)



指標の説明

埼玉県学力・学習状況調査において、小学校4年生から6年生まで及び中学校1年生から中学校3年生までの2年の間に、国語及び算数・数学の学力を36段階中4段階以上伸ばした児童生徒の割合。

埼玉県学力・学習状況調査において、学力を36段階中4段階伸ばした児童生徒の割合を5年間で5ポイント高めることを目指し、目標値を設定。

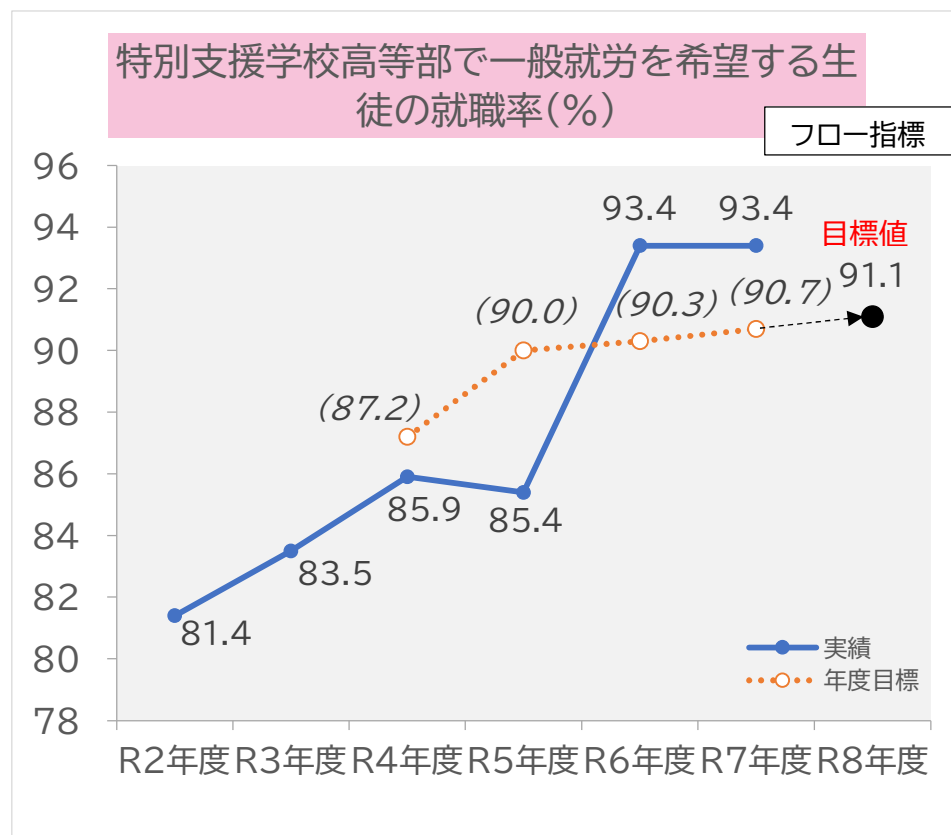
指標の進捗状況・分析

- 最新値は計画策定時の値より後退しており、より一層の努力を要する。
- 小・中学校ともに学力中位層の学力の伸び悩みが見られている。学校においては、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んだものの、目標値を達成するほど実践が十分ではなかったことが要因であると考え。
- 学力中位層の学力向上に効果的な「深い学び」に焦点を当てて教員と児童生徒が授業の振り返りを行い、授業の良さや改善点を見つける「主体的・対話的で深い学びの視点による質問調査」を活用した授業改善を促し、学力向上に向けた取組を継続していく。

針路5 施策19 確かな学力と自立する力の育成

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
37. 特別支援学校高等部で一般就労を希望する生徒の就職率	%	81.4 (R2年度)	93.4 (R7年度)	90.7 (R7年度)	103.0%	最終目標を上回る	91.1 (R8年度)



《 指標の説明 》

県立特別支援学校高等部の生徒のうち、一般就労を希望した生徒が卒業する時点で一般就労できた割合(内定を含む)。

過去5年間(平成28年度～令和2年度)の平均就職率(81.1%)を今後5年間で10ポイント高めることを目指し、目標値を設定。

《 指標の進捗状況・分析 》

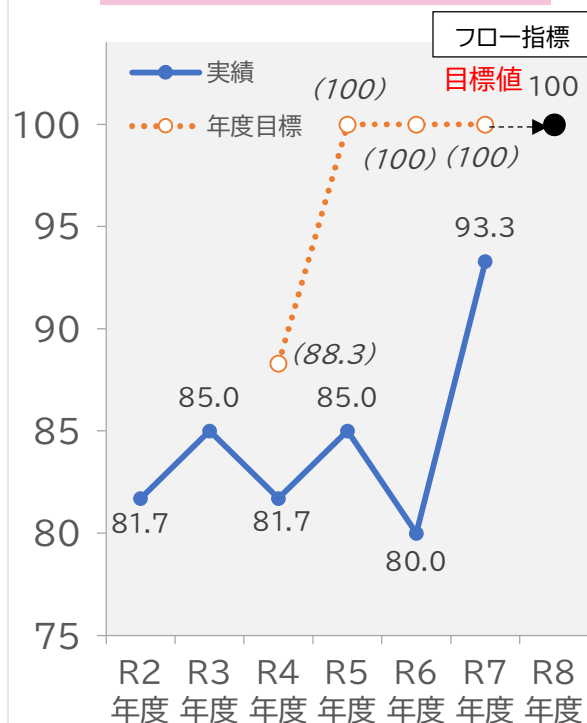
- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 県の取組として、特別支援学校におけるキャリア教育・職業教育を充実させるため、就労支援アドバイザーの配置や教員の研修、企業の情報収集などに取り組んだ成果が出たものとする。また、障害者雇用促進法の改正により、令和7年4月からは雇用義務除外率が引下げになり、令和8年7月から法定雇用率の引上げが予定されていたことなど障害者雇用率制度の改正があったことも要因と考える。
- 引き続き、各特別支援学校に就労支援アドバイザーを配置し、民間企業等の知見を活用するとともに、埼玉県内経済6団体等関係機関と連携を強化し、実習先の開拓に努め、特別支援学校高等部生徒の更なる就職率向上を図る。

針路5 施策20 豊かな心と健やかな体の育成

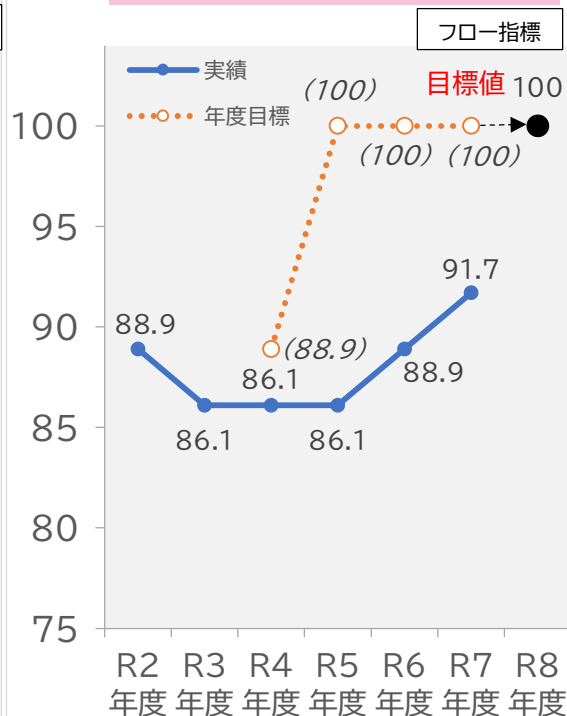
施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
38. 児童生徒が身に付けている「規律ある態度」の達成状況	%	小学校 81.7 中学校 88.9 (R2年度)	小学校 93.3 中学校 91.7 (R7年度)	小学校 100 中学校 100 (R7年度)	93.3% 91.7%	策定時より改善	小学校 100 中学校 100 (R8年度)

児童生徒が身に付けている「規律ある態度」の達成状況【小学校】(%)



児童生徒が身に付けている「規律ある態度」の達成状況【中学校】(%)



≪ 指標の説明 ≫

県が設定した「規律ある態度」(各学年12項目)のうち、小学校2年生から中学校3年生までの8割以上が身に付けている項目の割合。

「規律ある態度」の全ての項目について、児童生徒の8割以上が達成できれば規律ある態度が身に付き、基本的な生活・学習習慣の改善が期待できることを踏まえ、目標値を設定。

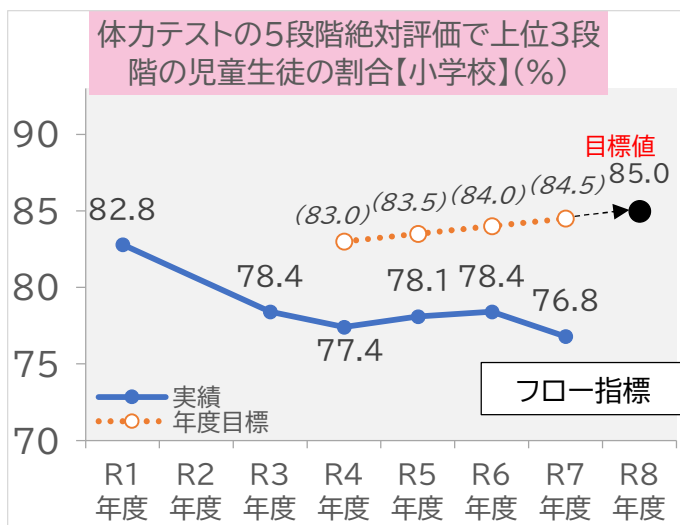
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 「整理整頓」では、一人一台端末とノートの併用など持ち物の増加・多様化により、整理整頓ができている実感を持ってない児童生徒が一定数いることが要因と考える。
- 規律ある態度に係る啓発ポスターや教師用リーフレットの作成・配布、道徳教育研究協議会等における整理整頓を含めた好事例の共有、課題を抱える学校に対する県の指導主事による学校訪問を通して、児童生徒の規律ある態度の改善に取り組む。

針路5 施策20 豊かな心と健やかな体の育成

施策指標の進捗状況

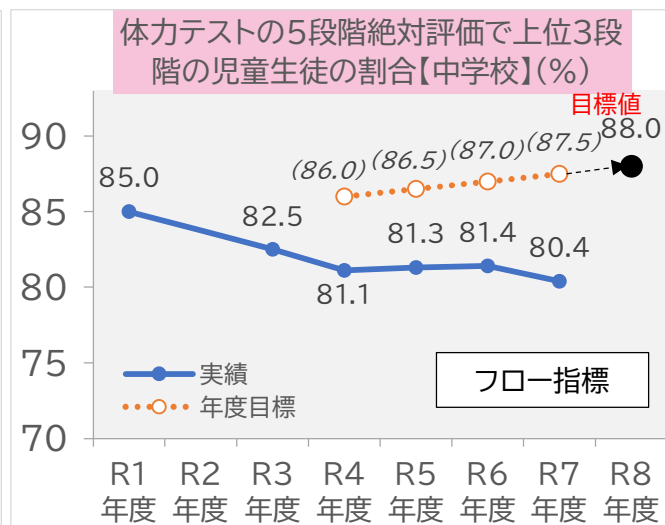
指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
39. 体力テストの5段階絶対評価で上位3段階の児童生徒の割合	%	小学校 82.8 中学校 85.0 全日制高等学校 89.2 (R1年度)	小学校 76.8 中学校 80.4 全日制高等学校 85.8 (R7年度)	小学校 84.5 中学校 87.5 全日制高等学校 89.9 (R7年度)	90.9% 91.9% 95.4%	策定時より後退	小学校 85.0 中学校 88.0 全日制高等学校 90.0 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

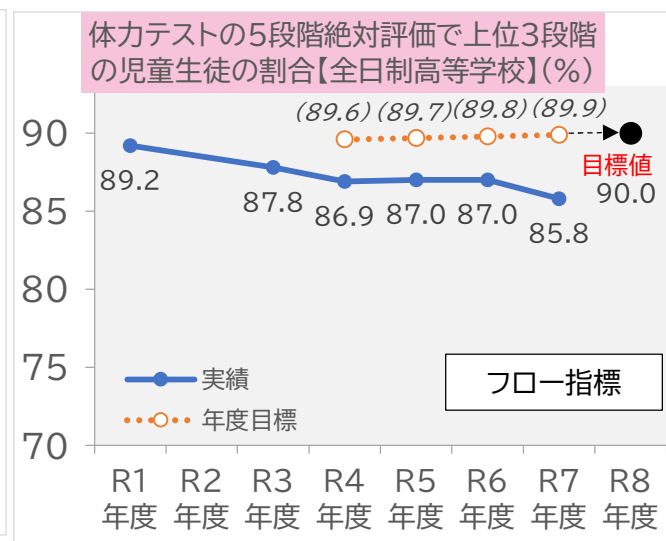
各学校で実施している体力テストの各種目の記録を得点化し、その合計を5段階絶対評価した上位3段階に入る児童生徒の割合。

上位3段階に入る児童生徒の割合の過去最高値(小学校 83.7%、中学校 86.4%、全日制高等学校 89.5%)を上回ることを目指し、目標値を設定。



≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

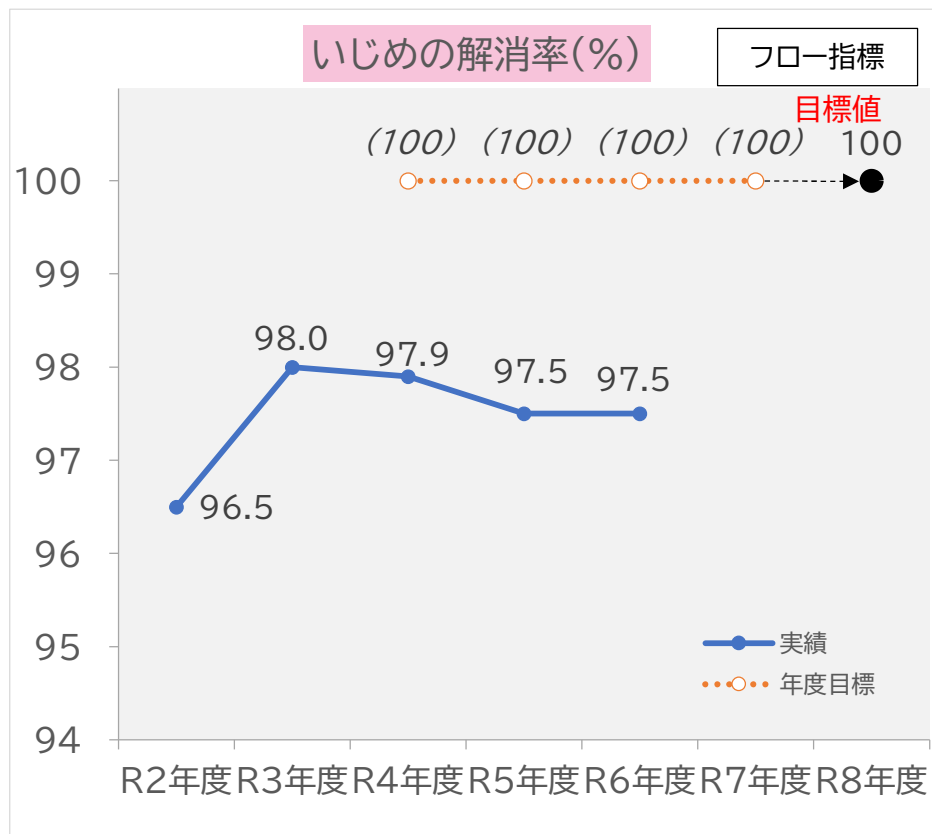
- 最新値は計画策定時の値より後退しており、より一層の努力を要する。
- 昨今、生活様式が大きく変わり、一週間の総運動時間が60分未満の児童生徒が依然として多いことや、スクリーンタイムの増加により、運動習慣の定着に至っていないことが、体力の指標がコロナ禍前に戻り切れていない要因であると考え。
- 運動を「する・みる・支える・知る」といった個々の適性に応じた運動やスポーツとの多様な関わり方への理解を深めるよう、研修会等の内容を工夫・改善するとともに、優れた取組を周知することで、各校の授業や体育活動の充実を図る。また、家庭でも取り組める運動を紹介した動画等の積極的な活用を促し、学校と家庭が連携して、全ての児童生徒が運動に親しみ、総合的な体力の向上を目指した取組を推進していく。



針路5 施策21 多様なニーズに対応した教育の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
40. いじめの解消率	%	96.5 (R2年度)	97.5 (R6年度)	100 (R6年度)	97.5%	策定時より改善	100 (R8年度)



指標の説明

県内公立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校におけるいじめの認知件数のうち、解消された件数の割合。

一人一人の児童生徒にとって明るく安心して学べる学校であるために、認知したいじめを全て解消することを目指し、目標値を設定。

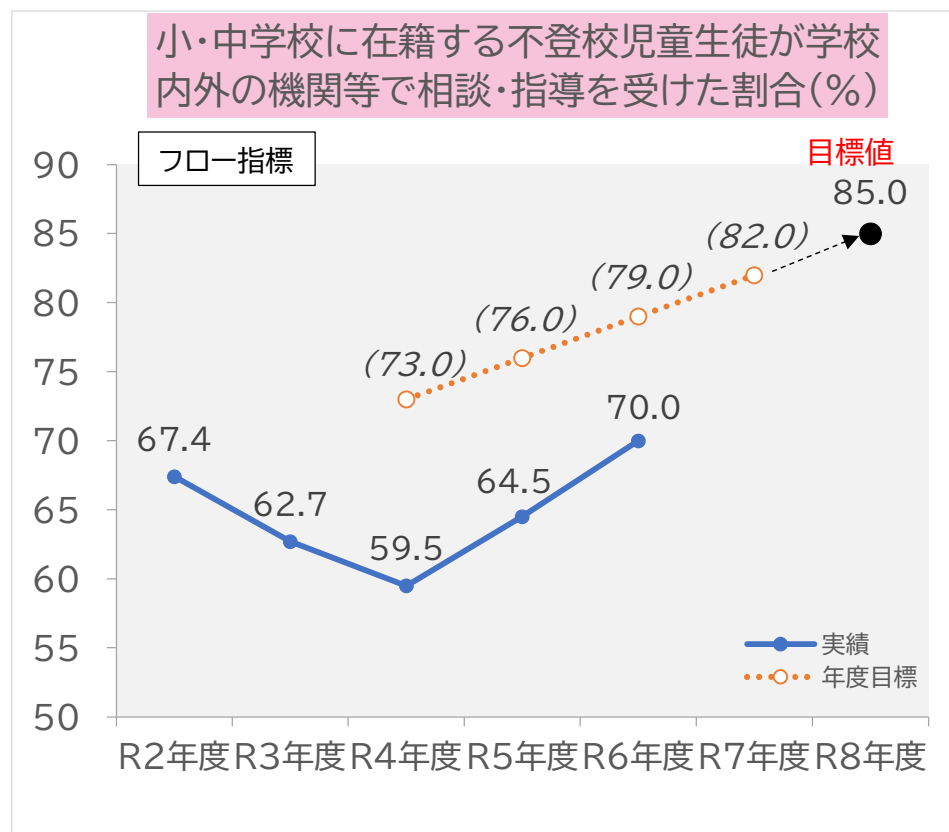
指標の進捗状況・分析

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- いじめ防止対策推進法に基づき、児童生徒に寄り添い、初期段階から積極的に対応するよう、県から呼び掛けた結果、学校現場において丁寧な対応が取られたことで、策定時より改善した。
- 「いじめ未然防止教育プログラム」の活用促進や学校におけるいじめアンケート実施に向けた働き掛けなど、幅広く取り組んでいく。また、インターネットを通じたいじめの対策として、ネットトラブル注意報の配布などの取組を継続的に実施する。さらに、いじめの初期段階から組織的に対応できるようスクールカウンセラー等専門職の配置を行うとともに、相談窓口に寄せられた事例から効果的な活用方法を周知し、教育相談体制の充実を図っていく。

針路5 施策21 多様なニーズに対応した教育の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
41. 小・中学校に在籍する不登校児童生徒が学校内外の機関等で相談・指導を受けた割合	%	67.4 (R2年度)	70.0 (R6年度)	79.0 (R6年度)	88.6%	策定時より改善	85.0 (R8年度)



《 指標の説明 》

教育支援センターなど学校外における機関等で相談・指導を受けた、もしくは、学校内において養護教諭やスクールカウンセラーなどによる専門的な相談・指導を受けた公立小・中学校の不登校児童生徒の割合。

過去最高値(平成29年度84.6%)を上回ることを目指し、目標値を設定。

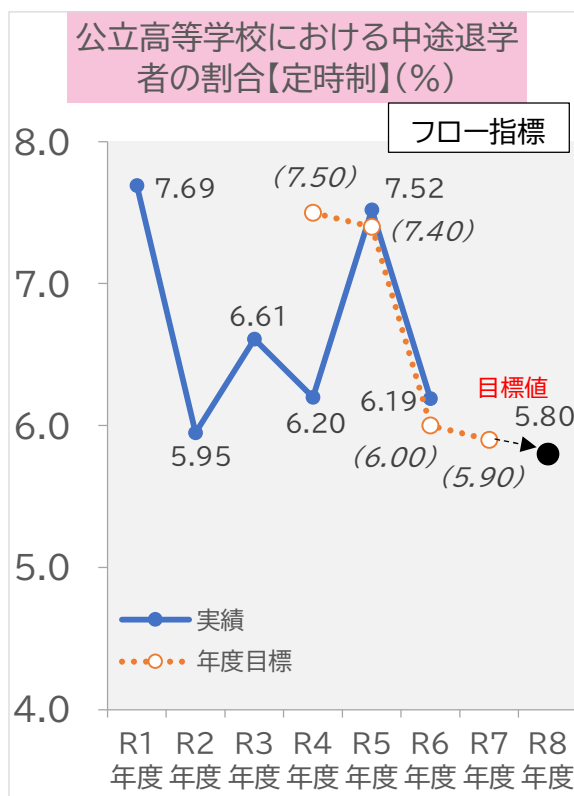
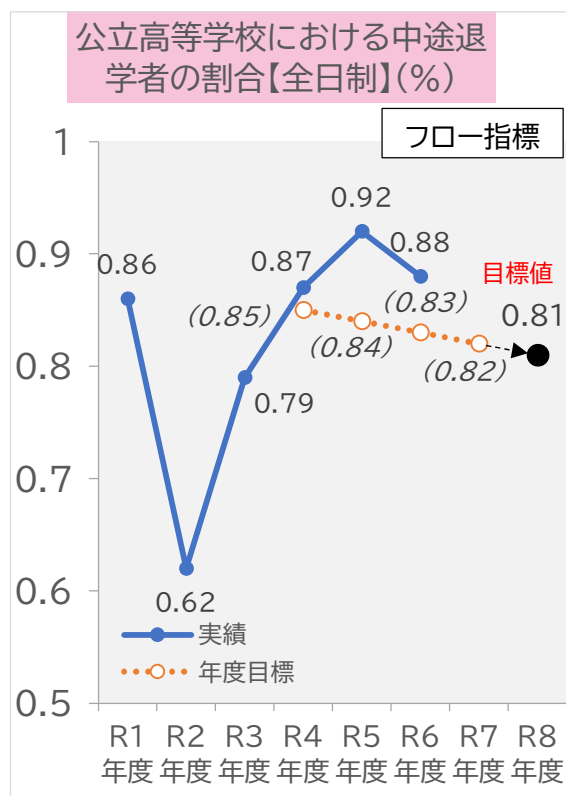
《 指標の進捗状況・分析 》

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 学校及び市町村教育委員会による校内支援体制の整備や関係機関と連携した児童生徒の多様な支援等の充実を図ったことにより、策定時より改善したが、不登校児童生徒数の増加傾向が続いており、年度目標を達成できなかった。
- 学校内においては、不登校対策に関するガイドブックを活用した教職員の理解促進やスクールカウンセラー等の専門職と連携した教育相談体制の整備・充実を図る。学校外においては、多様な学びの場の充実に向けて、メタバース空間を活用した支援等を通して、不登校児童生徒一人一人のニーズに応じた支援の充実に努める。

針路5 施策21 多様なニーズに対応した教育の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
42. 公立高等学校における中途退学者の割合	%	全日制0.86 定時制7.69 (R1年度)	全日制0.88 定時制6.19 (R6年度)	全日制0.83 定時制6.00 (R6年度)	94.3% 96.9%	策定時より後退	全日制0.81 定時制5.80 (R8年度)



※ローリング指標

《 指標の説明 》

公立高等学校における全日制・定時制別の中途退学者の割合。

全日制は、「第3期埼玉県教育振興基本計画」における令和5年度目標値(0.84%以下)を踏まえ、中途退学者の割合を更に減少させることを目指し、目標値を設定。

定時制は、「第4期埼玉県教育振興基本計画」における令和10年度目標値(5.60%以下)を踏まえ、目標値を設定。

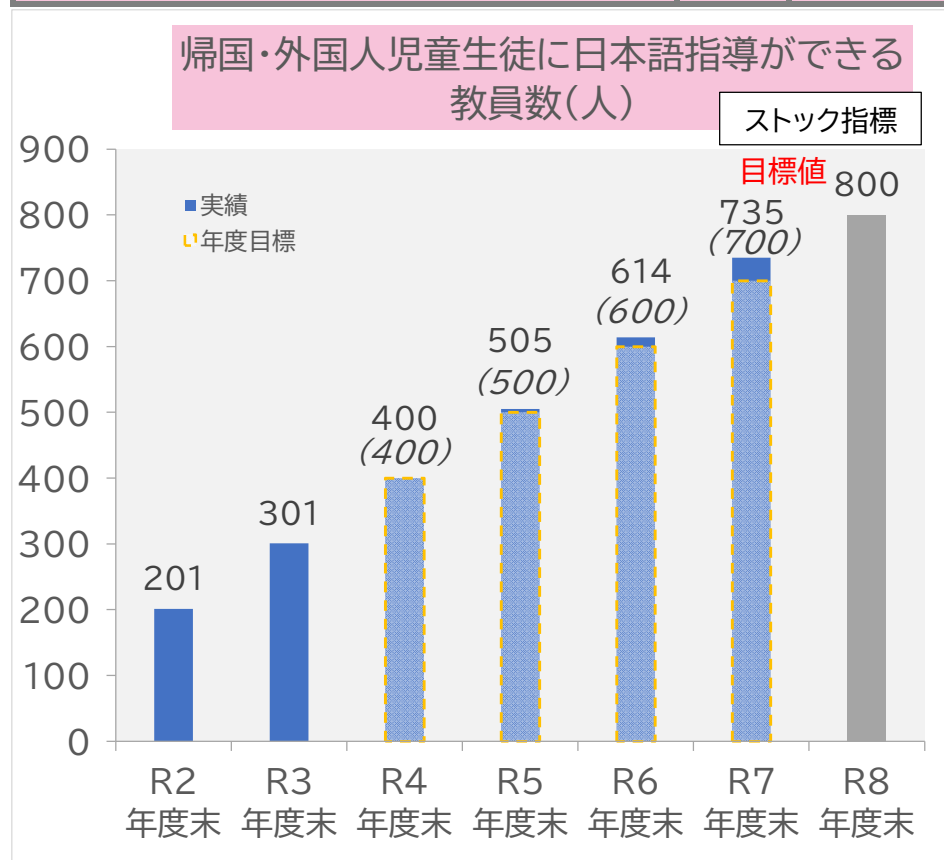
《 指標の進捗状況・分析 》

- 最新値は計画策定時の値より後退しており、より一層の努力を要する。(定時制は策定時より改善している。)
- スクールカウンセラーの配置拡充など相談体制の充実に取り組んでいるものの、学校生活において、新たな人間関係を構築することや、環境の変化に適応することができず、学校生活や学業に対して前向きに考えられない状況(学校生活・学業不適応)にあったことなどにより、策定時より後退した。
- スクールカウンセラーの配置等を通じて、教育相談体制の整備・充実に努める。地域の多様な機関等と連携した中途退学防止事業に取り組むとともに、好事例の発信に努める。

針路5 施策21 多様なニーズに対応した教育の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
43. 帰国・外国人児童生徒に日本語指導ができる教員数	人	201 (R2年度末)	735 (R7年度末)	700 (R7年度末)	105.0%	年度目標達成	800 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

帰国・外国人児童生徒と接するときの心構えや日常生活に必要な日本語の指導に関する研修を受講した小・中学校の教員数。
毎年100人以上に対して研修を実施し、日本語指導の指導力が高い教員を増やすことを目指し、目標値を設定。

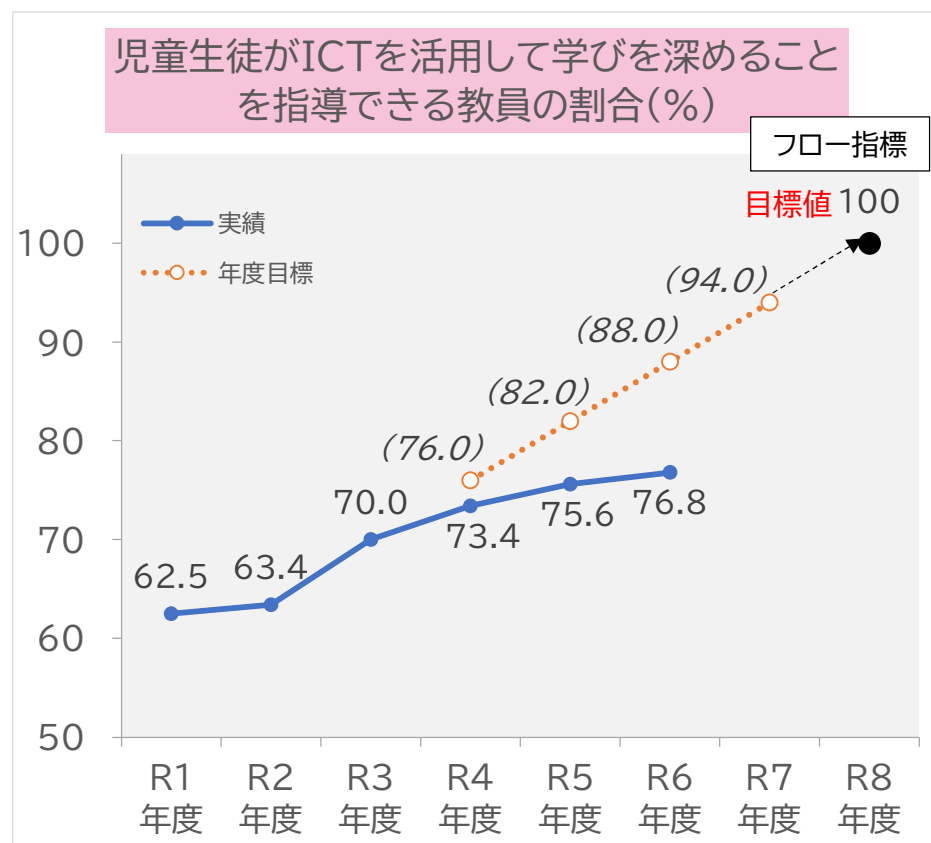
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 日本語指導に関する研修会を実施し、帰国・外国人児童生徒への日本語指導に対応するための教員を増やすことができた。
- 引き続き、日本語指導に関する研修会を実施し、日本語指導に対応するための教員を増やしていく。

針路5 施策22 質の高い学校教育の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
44. 児童生徒がICTを活用して学びを深めることを指導できる教員の割合	%	62.5 (R1年度)	76.8 (R6年度)	88.0 (R6年度)	87.3%	策定時より改善	100 (R8年度)



《 指標の説明 》

文部科学省の「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」において、「児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する」に対して「できる」、「ややできる」と回答した教員の割合。

児童生徒の端末1人1台環境が整備される中で、主体的・対話的で深い学びを実現するため、全ての教員がICTを活用して指導できることを目指し、目標値を設定。

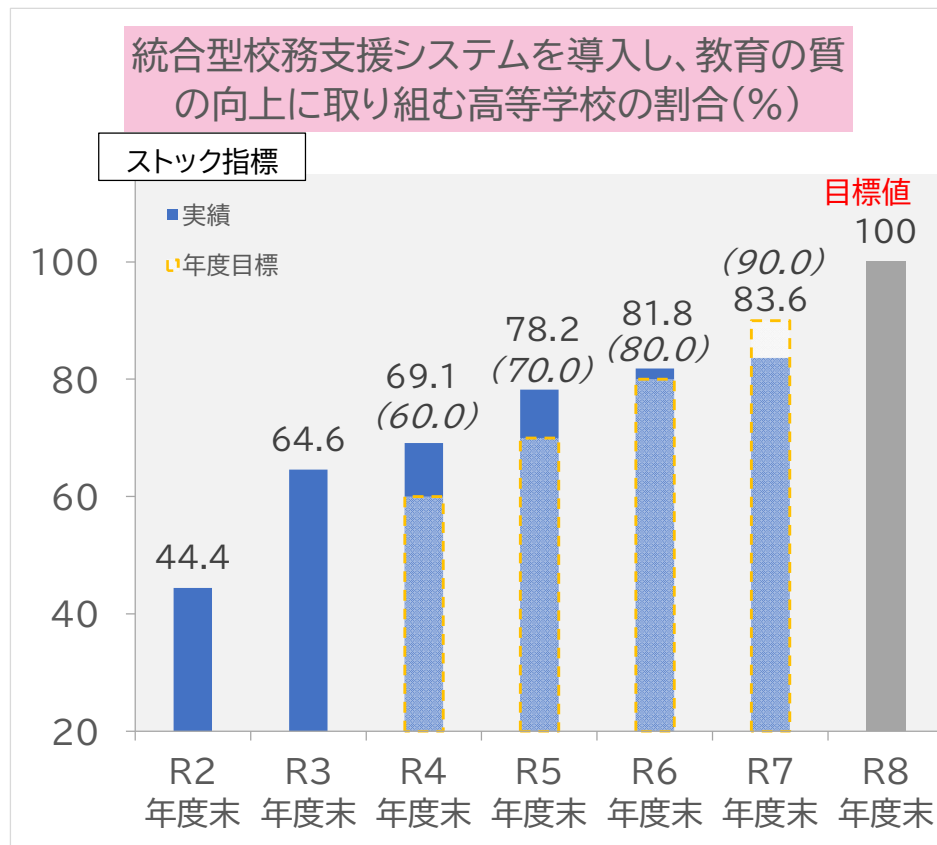
《 指標の進捗状況・分析 》

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 生成AIなど新技術に対応したICT活用指導力が求められるようになっていることや、児童生徒が協力しながら共に学ぶ協働的な学びにおいて、ICTを活用する方法が十分に普及していないことが、緩やかな改善にとどまっている要因として考えられる。
- ICTの活用場面や教員のスキルレベルに応じて学べるツールである「埼玉県立学校版 教員のICT活用指導力向上のためのルーブリック」の活用を推進し、アプリケーション等の基本操作から授業での具体的な活用まで、段階的に教員全体のICT活用指導力の向上を図る。

針路5 施策23 私学教育の振興

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
45. 統合型校務支援システムを導入し、教育の質の向上に取り組む高等学校の割合	%	44.4 (R2年度末)	83.6 (R7年度末)	90.0 (R7年度末)	92.9%	策定時より改善	100 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

統合型校務支援システムを導入して、校務の効率化を図り、教育の質の向上に取り組む私立高等学校の割合。
全ての私立高等学校において統合型校務支援システムの導入を目指し、目標値を設定。

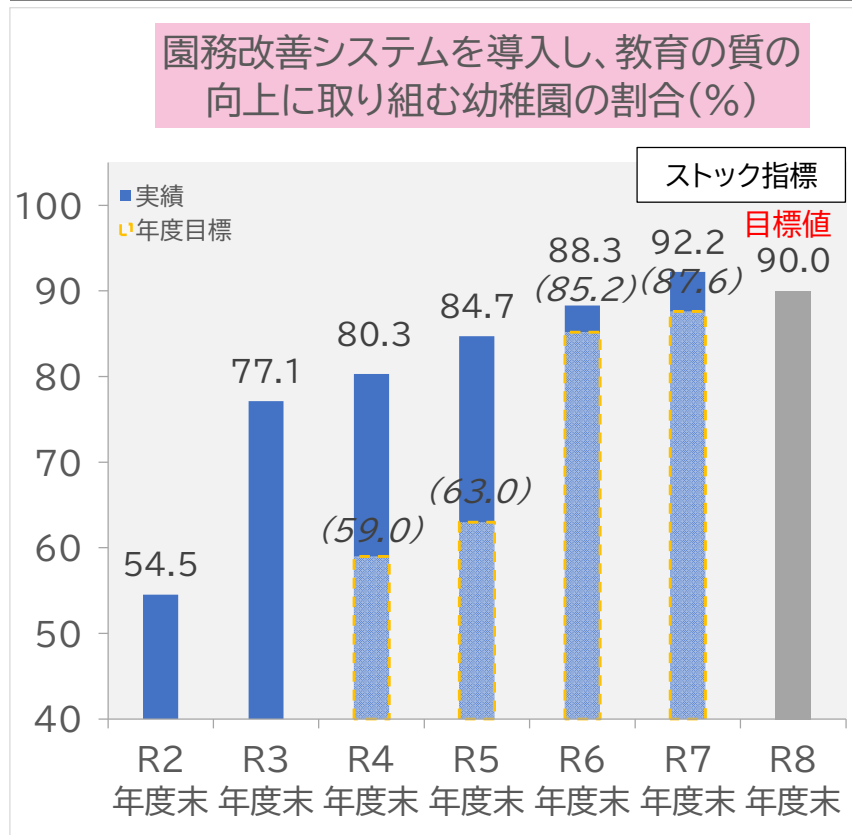
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 私立学校運営費補助金において、統合型校務支援システムの導入や運用の費用に対する補助を実施したことで、私立学校における統合型校務支援システムの新規導入に結びついた。一方、独自のシステムを導入している高等学校があり、統合型校務支援システムの導入割合が停滞したことが、年度目標に到達しなかった要因と思われる。
- 令和8年度も引き続き、私立学校運営費補助金において、システム導入や運用の費用に対する補助を実施する。

針路5 施策23 私学教育の振興

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
46. 園務改善システムを導入し、教育の質の向上に取り組む幼稚園の割合	%	54.5 (R2年度末)	92.2 (R7年度末)	87.6 (R7年度末)	105.3%	最終目標を上回る	90.0 (R8年度末)



◀ 指標の説明 ▶

園務改善システムを導入して、園務の効率化を図り、教育の質の向上に取り組む私立幼稚園の割合。
私立幼稚園のうち、今後園務改善システムを導入予定の幼稚園及び導入を進めるべき幼稚園(小規模園等を除く)の割合を踏まえ、目標値を設定。

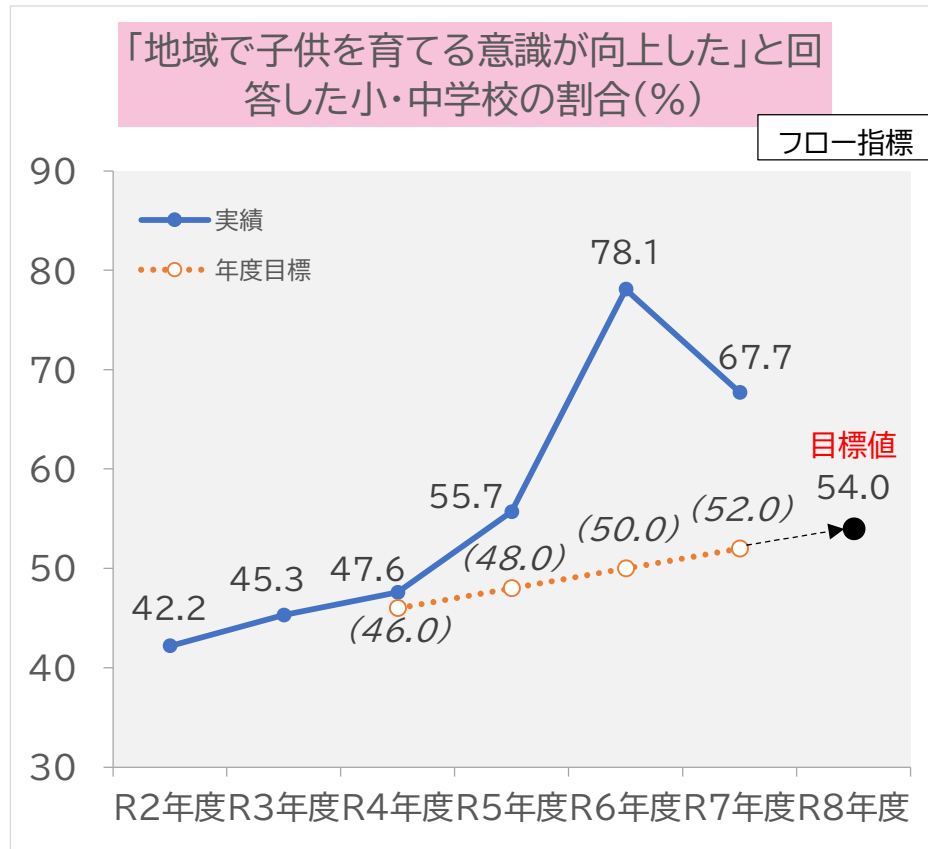
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 私立幼稚園ICT化支援補助金において、園務改善システムの導入や運用の費用に対する補助を実施したことで、私立幼稚園における園務改善システムの新規導入に結びついた。
- 令和8年度以降も引き続き、私立幼稚園ICT化支援補助金において導入や運用の費用に対する補助を実施する。

針路5 施策24 家庭・地域の教育力の向上

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
47.「地域で子供を育てる意識が向上した」と回答した小・中学校の割合	%	42.2 (R2年度)	67.7 (R7年度)	52.0 (R7年度)	130.2%	最終目標を上回る	54.0 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

県の「学校応援団」の推進に係る調査において「地域で子供を育てる意識が向上した」と回答した小・中学校の割合。

平成29年度から令和2年度までの実績値の伸び(年平均約2ポイント)を踏まえ、同等の伸びを維持することを目指し、目標値を設定。

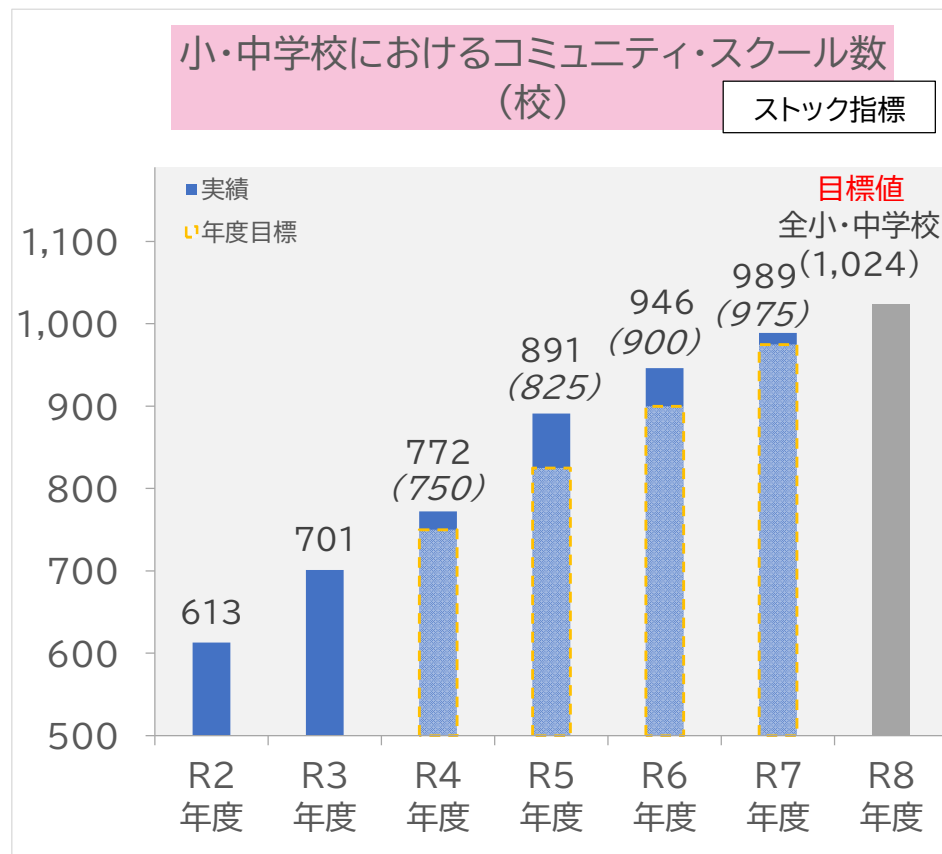
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 地域と学校との連絡調整を行う地域学校協働活動推進員等がほぼすべての学校に配置され、多くの学校で地域連携担当教職員が位置付けられている。推進員等を起点に様々な地域学校協働活動が行われていることが、最終目標を上回る要因と考えられる。
- 県が主催する担当者会議や研修の中で、地域全体が共に考え、当事者として参画していく体制の重要性を伝えていく。また、地域学校協働活動情報通信「COLLABO」や実践事例集を県ホームページ上で公開し、幅広く活動内容を周知することで、地域学校協働活動に対する理解増進を図る。

針路5 施策24 家庭・地域の教育力の向上

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
48. 小・中学校におけるコミュニティ・スクール数	校	613 (R2年度)	989 (R7年度)	975 (R7年度)	101.4%	年度目標達成	全小・中学校 (R8年度)



《 指標の説明 》

育てたい子供像、目指すべき教育ビジョンを保護者や地域と共有し、目標の実現に向けて共に協働する仕組みである学校運営協議会を設置している小・中学校数。

平成29年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、学校運営協議会の設置が努力義務化され、国の「第3期教育振興基本計画」においても、全ての公立学校に学校運営協議会の導入を目指すとしていることを踏まえ、目標値を設定。

《 指標の進捗状況・分析 》

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- コミュニティ・スクール未導入の学校がある市町の教育委員会に対して、制度の趣旨や国・県の動向について改めて説明し理解促進を図るとともに、導入に当たっての現状の課題を確認し助言等を行うことで、導入校を着実に増やすことができた。
- 引き続き、未設置校のある市町を直接訪問し、コミュニティ・スクールの目的や有効性を案内するなど、導入に向けて積極的に働きかけていく。また、コミュニティ・スクールの実態及び好事例の共有等を行うことで、学校運営協議会が形骸化しないよう促すとともに、より効果的な取組となるよう支援を継続する。

針路6 施策25 生涯を通じた健康の確保

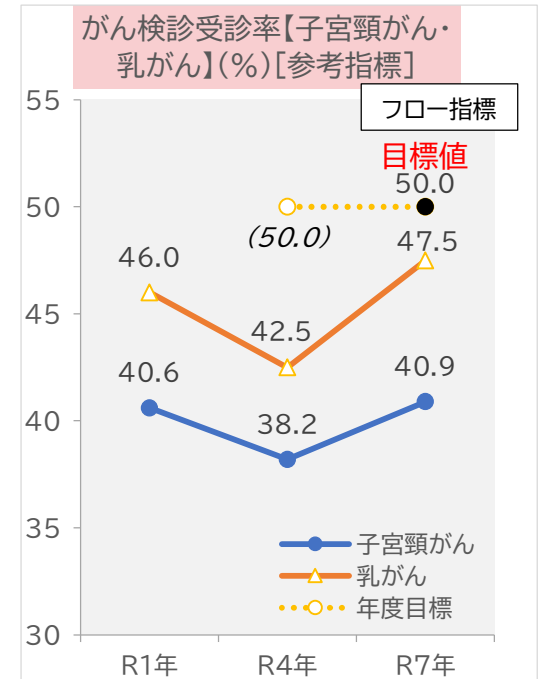
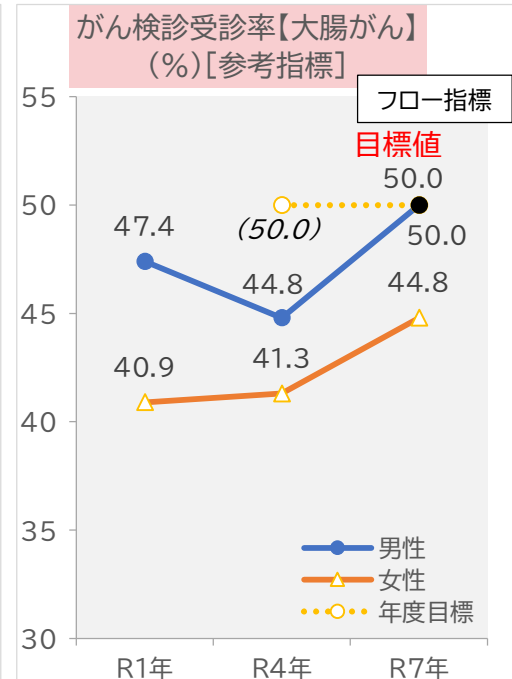
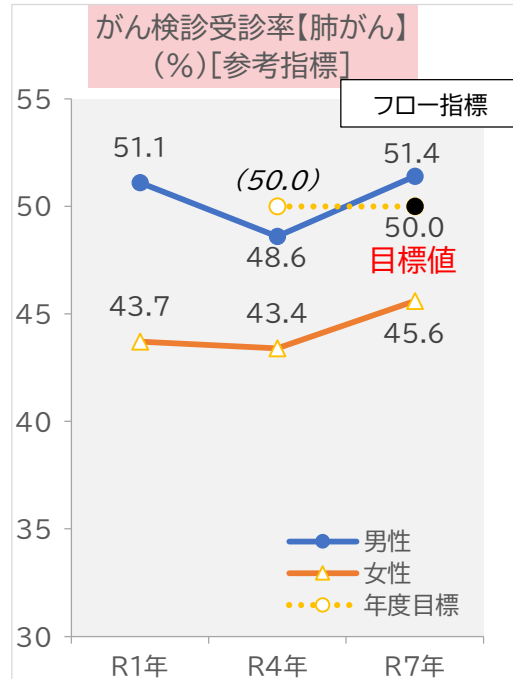
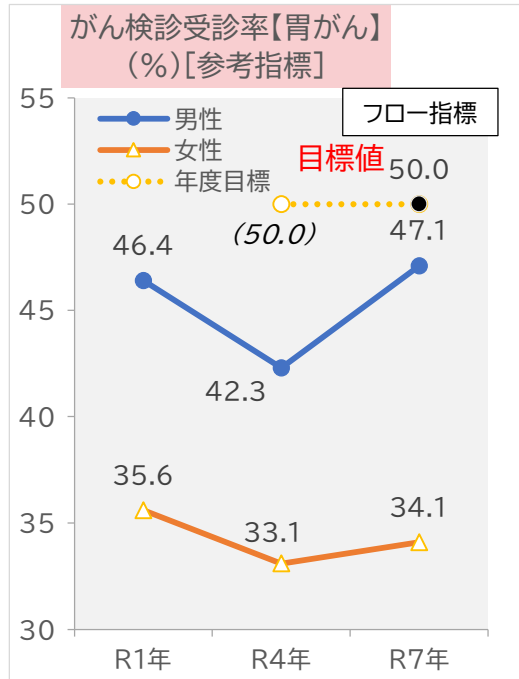
施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
49. がん検診受診率【参考指標】	%	胃がん男性 46.4	47.1	50.0	94.2%	策定時より後退	左記全ての がん種の受 診率50.0 (R7年)
		女性 35.6	34.1		68.2%		
		肺がん男性 51.1	51.4		102.8%		
		女性 43.7	45.6		91.2%		
		大腸がん男性 47.4	50.0		100.0%		
		女性 40.9	44.8		89.6%		
		子宮頸がん 40.6	40.9		81.8%		
		乳がん 46.0	47.5		95.0%		
		(R1年)	(R7年)	(R7年)	(R7年)		

針路6

施策25 生涯を通じた健康の確保

施策指標の進捗状況



≪ 指標の説明 ≫

厚生労働省が実施する国民生活基礎調査におけるがん検診受診率。

国の「がん対策推進基本計画」において、がん検診受診率の目標値が50%であることを踏まえ、目標値を設定。

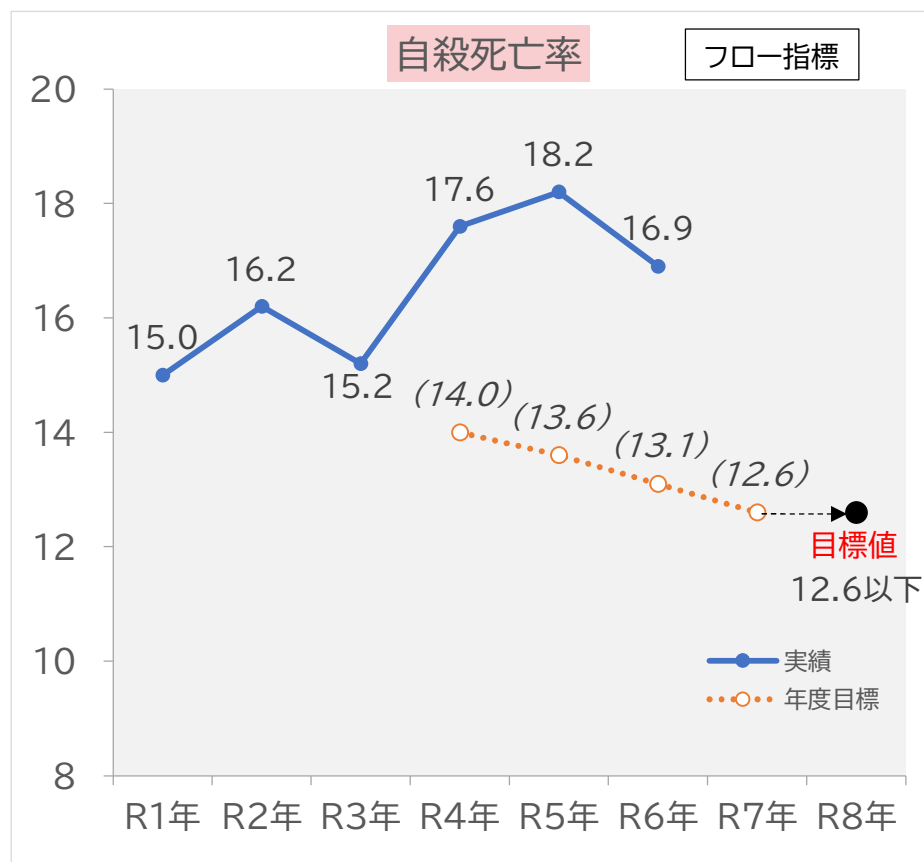
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は計画策定時の値より後退しており、より一層の努力を要する。(肺がん男性、大腸がん男性は最終目標を達成している。胃がん男性、肺がん女性、大腸がん女性、子宮頸がん、乳がんは策定時より改善。)
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、がん検診の実施規模が従来程度に回復したが、胃がん女性のみ策定時から後退した。内閣府調査では、受診しない理由として、「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」という回答が最も多い。
- 医師会と連携したがん検診受診促進リーフレットの配布、市町村がん検診と協会けんぽの特定健診の同時実施に向けた体制整備の促進、民間企業や各種団体と連携し、セミナーの開催やイベントの後援によるがん検診の重要性の普及啓発を図っていく。

針路6 施策25 生涯を通じた健康の確保

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
50. 自殺死亡率	-	15.0 (R1年)	16.9 (R6年)	13.1 (R6年)	77.5%	策定時より後退	12.6以下 (R8年)



《 指標の説明 》

人口10万人当たりの自殺者数。
国の「自殺総合対策大綱」において、自殺死亡率を平成27年から令和8年までに30%以上減少させることを目指していることを踏まえ、目標値を設定。

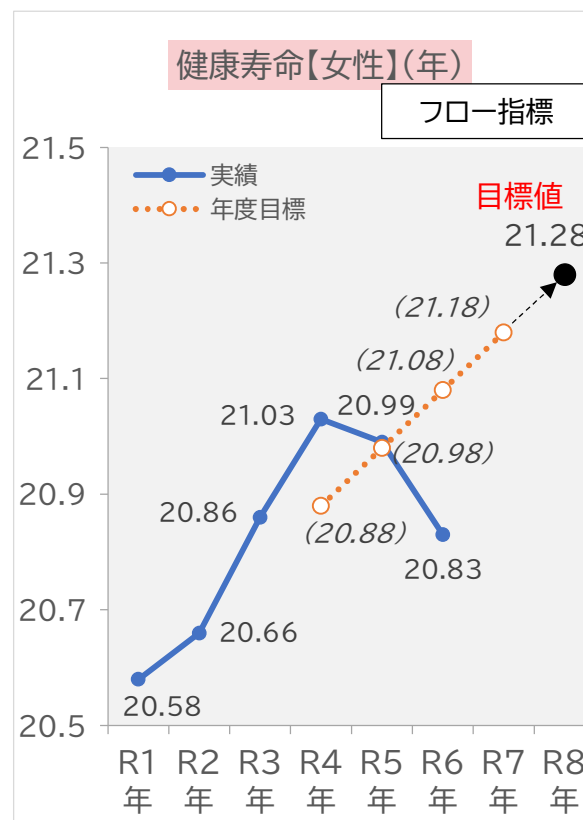
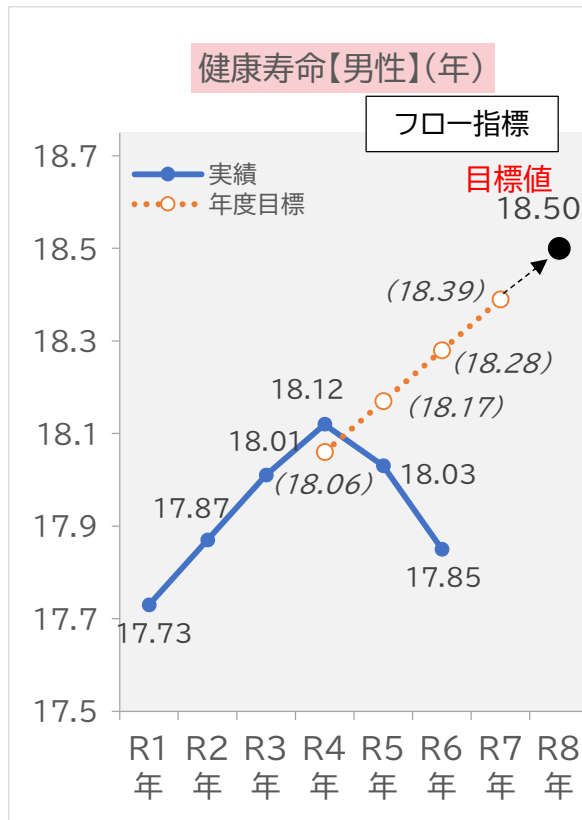
《 指標の進捗状況・分析 》

- 最新値は計画策定時の値より後退しており、より一層の努力を要する。
- 前年よりも40歳代を中心に自殺者数は減少したが、依然として40～50歳代の自殺者数の割合が高い状態が続いている。また、若年層の自殺者数が高止まりしていることもあり、策定時より後退している。
- 若年層を対象とした、SNS相談事業の拡充(常時5回線)と、新規のAIチャットボットによる相談事業や検索連動型広告事業などを実施し、強化を行っていく。

針路6 施策25 生涯を通じた健康の確保

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
51. 健康寿命	年	男性 17.73 女性 20.58 (R1年)	男性 17.85 女性 20.83 (R6年)	男性 18.28 女性 21.08 (R6年)	97.6% 98.8%	策定時より改善	男性 18.50 女性 21.28 (R8年)



≪ 指標の説明 ≫

65歳に到達した人が健康で自立した生活を送ることができる期間(要介護2以上になるまでの期間)。
各年の変動を踏まえ、長期的な視点から過去10年間(平成22年～令和元年)の実績値の伸び(年平均 男0.11年 女0.10年)を踏まえ、目標値を設定。

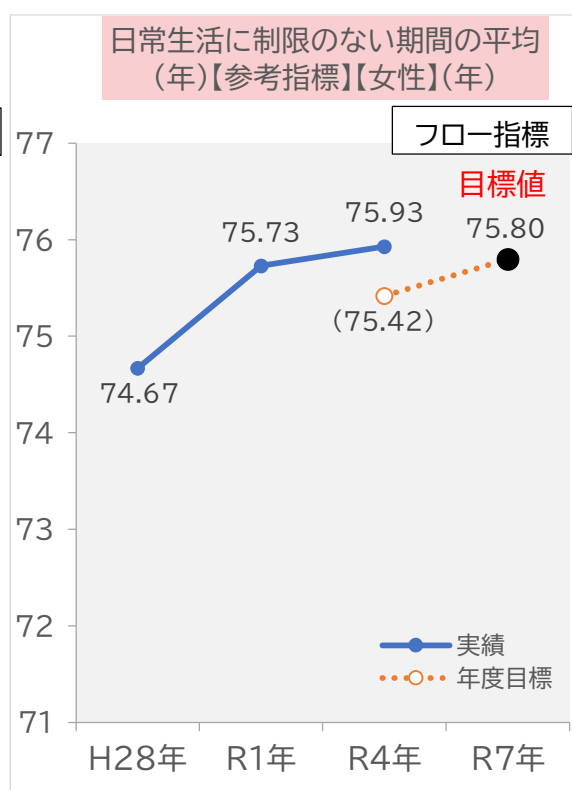
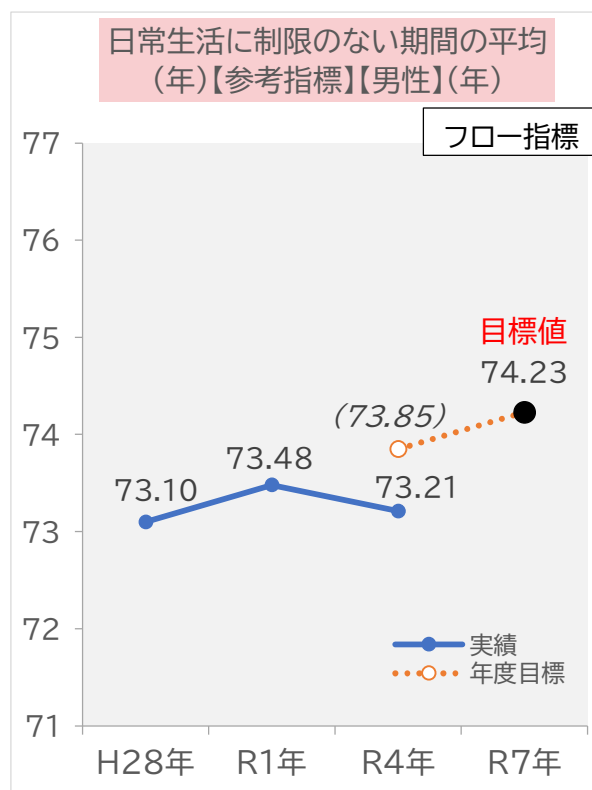
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 健康寿命の算出に当たっては死亡者数、人口、介護認定者数を用いる。死亡者数の増加、人口減少、介護認定者数の増加は健康寿命を短縮させる。健康寿命が短縮した要因として、65歳以上の死亡者数の増加が影響した可能性がある。
- 健康寿命の短縮が一過性なのか注視しつつ、食塩摂取量減少の取組や健診受診等の重要性の周知等、引き続き、生活習慣病予防や健康づくりの取組強化を図っていく。

針路6 施策25 生涯を通じた健康の確保

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
52. 日常生活に制限のない期間の平均(年) 【参考指標】	年	男性 73.10 女性 74.67 (H28年)	男性 73.21 女性 75.93 (R4年)	男性 73.85 女性 75.42 (R4年)	99.1% 100.7%	策定時より改善	男性 74.23 女性 75.80 (R7年)



指標の説明

厚生労働省が実施する国民生活基礎調査において、「あなたは現在、健康の問題で日常生活に何か影響がありますか。」の質問に対し、「なし」と回答した人の割合。

国の目標(平成28年から令和22年までの24年間で3年延伸)を基準とし、その場合の1年あたりの伸び平均である0.125年を、最終年まで積み上げ、目標値を設定。

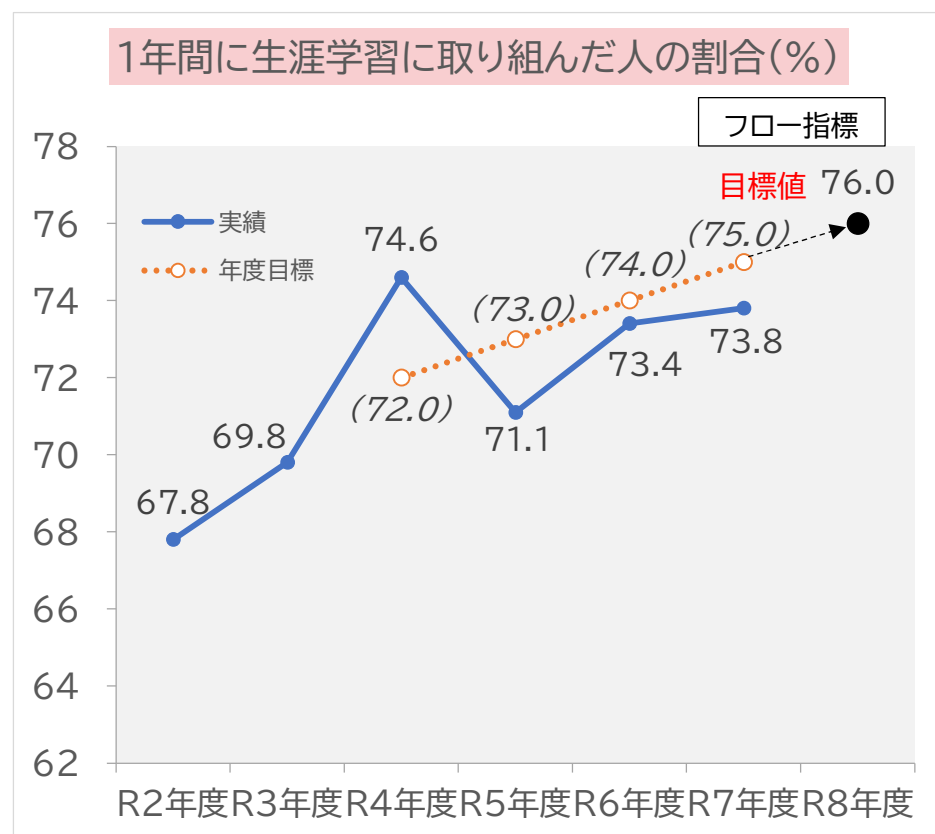
指標の進捗状況・分析

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。(女性は最終目標を上回っている。)
- 令和4年の男性値は、令和元年値と比較して短縮しており、全国値についても同様に短縮している。新型コロナウイルス感染症拡大により死亡数が増加したことが短縮の要因として考えられる。
- 食塩摂取量減少の取組や健診受診等の重要性の周知等、引き続き、生活習慣病予防や健康づくりの取組強化を図っていく。

針路6 施策26 生涯にわたる学びの推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
53. 1年間に生涯学習に取り組んだ人の割合	%	67.8 (R2年度)	73.8 (R7年度)	75.0 (R7年度)	98.4%	策定時より改善	76.0 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

県政サポーターアンケートにおいて、「この1年間に取り組んだ生涯学習活動の経験の有無」に「経験した」と回答した人の割合。「第3期埼玉県教育振興基本計画」における令和5年度の目標値(73.0%)を踏まえ、更に割合を毎年度1ポイントずつ向上させることを目指し、目標値を設定。

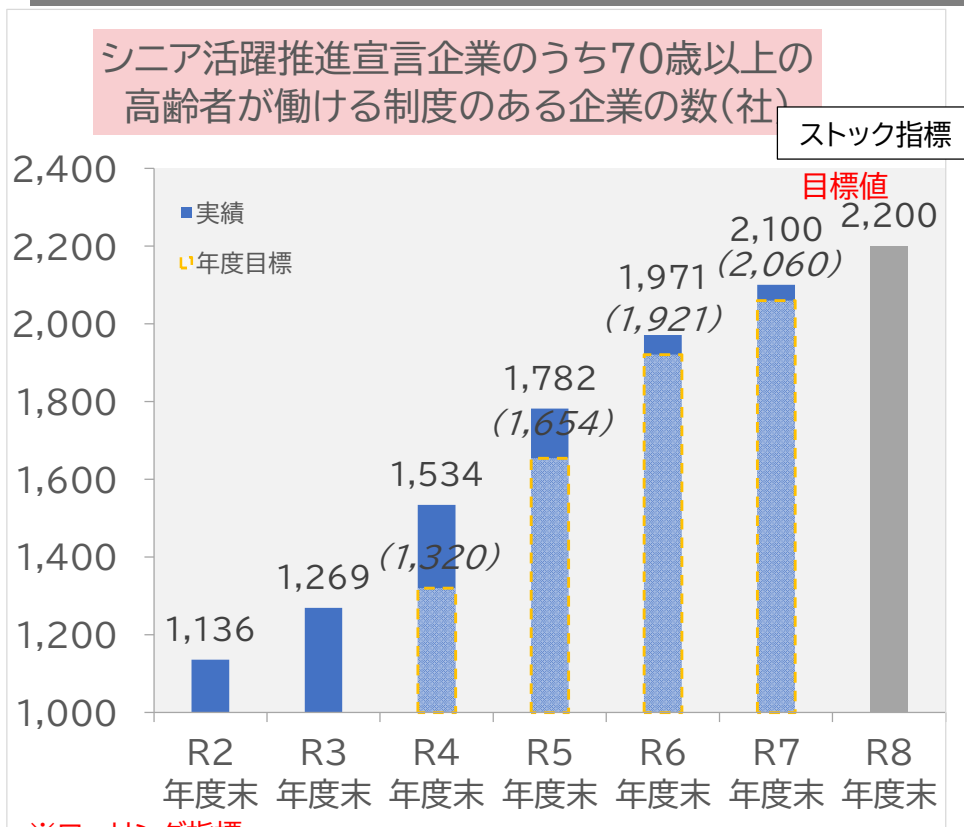
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 生涯学習活動として比較的参加しやすい分野を中心に講座・イベントの掲載数を増やしたことで、前年度より増加したが、年度目標は達成しておらず、県政サポーターアンケートでは、「仕事が忙しくて時間がない」、「きっかけがつかめない」などが活動できなかった理由として多く挙げられた。
- 引き続き県民へのアンケート調査を実施し、生涯学習に対するニーズを把握するとともに実態を分析していく。また、県ホームページ「生涯学習ステーション」による更なる情報発信に努め、県民の生涯学習活動を支援していく。

針路6 施策27 高齢者の活躍支援

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
54. シニア活躍推進宣言企業のうち70歳以上の高齢者が働ける制度のある企業の数	社	1,136 (R2年度末)	2,100 (R7年度末)	2,060 (R7年度末)	101.9%	年度目標達成	2,200 (R8年度末)



※ローリング指標

指標の説明

定年の廃止や定年・継続雇用の年齢延長、働きやすい職場環境づくりなどに取り組む、県が認定した企業のうち、70歳以上の高齢者が働ける制度のある企業の数。

70歳以上の高齢者が働ける制度のある企業数の過去2年間(令和4年～令和5年)の増加数(233社)を踏まえ、それを上回る成果を目指し、目標値を設定。

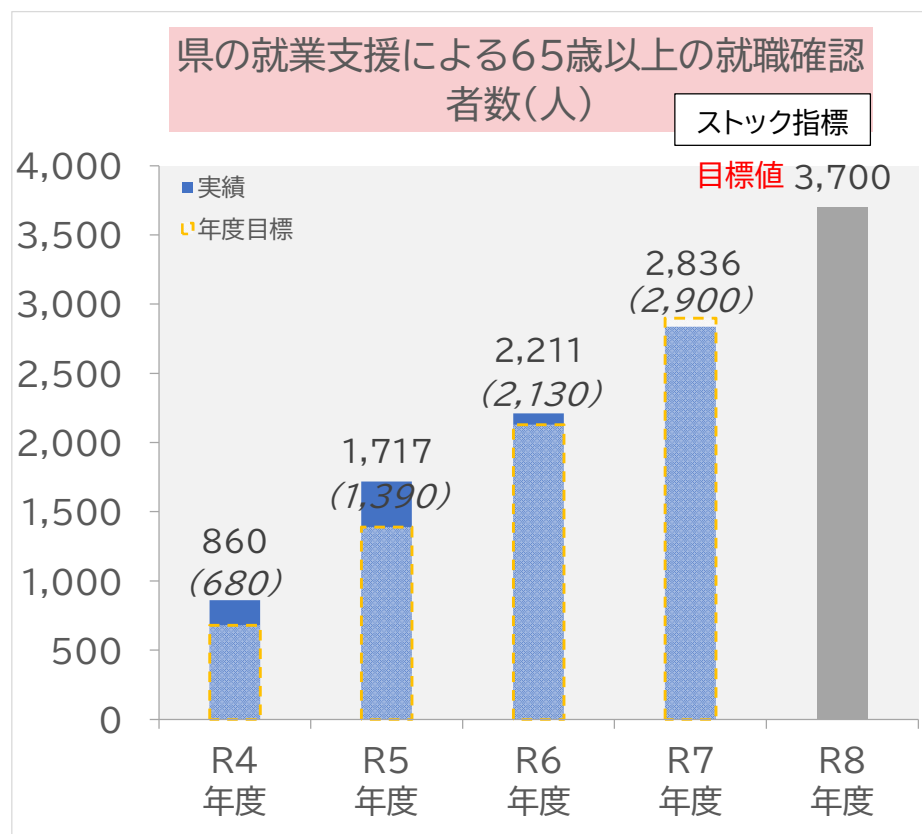
指標の進捗状況・分析

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 企業訪問(650社)や70歳雇用確保助成金の交付(37社)により、年度目標を達成した。
- 県HP働くシニア応援サイトによる相談窓口情報の提供と、企業訪問を通じたシニア活躍推進宣言企業プラスの認定企業の増加など、シニア雇用の促進により、県内で70歳以上が働ける企業の更なる増加と就業機会の拡大を図る。

針路6 施策27 高齢者の活躍支援

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
55. 県の就業支援による65歳以上の就職確認者数	人	— (-)	2,836 (R4～R7年度の累計)	2,900 (R4～R7年度の累計)	97.8%	策定時より改善	3,700 (R4～R8年度の累計)



≪ 指標の説明 ≫

埼玉しごとサポート(旧セカンドキャリアセンター)などで県の就業支援を受けた65歳以上の利用者のうち、就職が確認できた人数。
過去5年間(平成28年度～令和2年度)の推計値(3,400人)を踏まえ、それを上回る就職確認者数を目指し、目標値を設定。

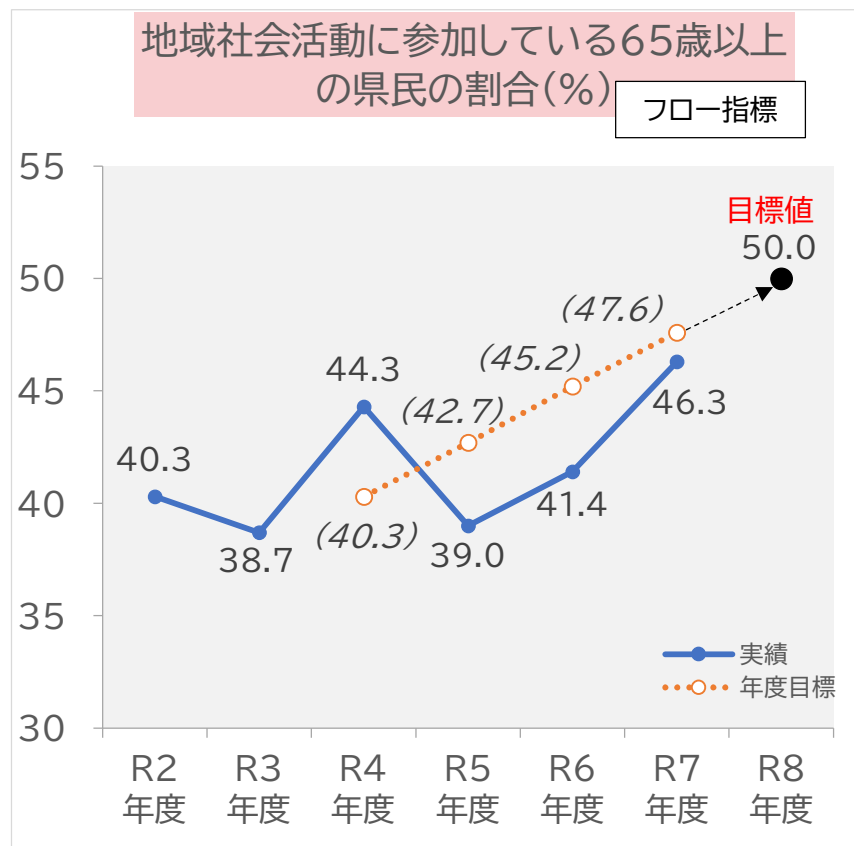
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 近年の急激な物価高による生活不安から、シニアの就労意欲が高まり、令和7年度における県の就業支援施設の利用者・相談者の数は前年度比で増加に転じた。一方、シニア向けの民間転職サイトが充実していることから、民間サービスを利用して就職するシニアも増えたため、累計目標を達成できなかったと考えられる。
- 引き続き、就職相談、情報提供、セミナー・イベントなどを通して、利用者を就職に結びつけていく。

針路6 施策27 高齢者の活躍支援

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
56. 地域社会活動に参加している65歳以上の県民の割合	%	40.3 (R2年度)	46.3 (R7年度)	47.6 (R7年度)	97.3%	策定時より改善	50.0 (R8年度)



《 指標の説明 》

県政世論調査で「過去1年間に地域社会活動(自治会、PTAなどによる地域活動及びNPO、ボランティアなどによる障害者・高齢者支援や青少年健全育成などの活動)に参加したことがある」と回答した65歳以上の県民の割合。

現状値を踏まえ、2人に1人の高齢者が参加することを目指し、目標値を設定。

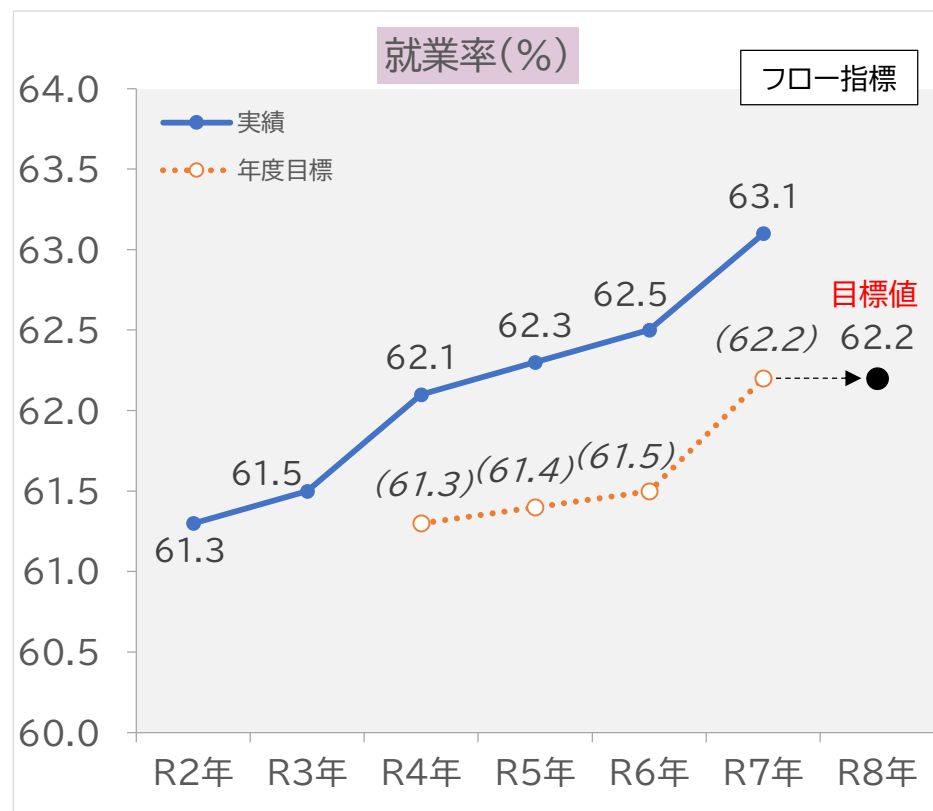
《 指標の進捗状況・分析 》

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 地域社会活動への不参加の理由は、「参加するきっかけが得られない」「興味がない」が多くなっており、参加のきっかけづくりや、団体や活動についての情報提供が不足していることが考えられる。
- 埼玉未来大学において、シニアのニーズに即したカリキュラムとなるよう随時見直しを行うとともに、無料オンライン講座や公開学習を通じて受講生の増加につなげる。また、カリキュラムにフィールドワークを取り入れるなど、地域社会活動に触れる機会を提供することで、団体や活動について知ってもらい卒業後の活動参加率を向上させていく。

針路7 施策28 就業支援と雇用環境の改善

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
57. 就業率	%	61.2 (R2年)	63.1 (R7年)	62.2 (R7年)	101.4%	最終目標を上回る	62.2 (R8年)



※国資料の修正により過去の値の修正あり。 ※ローリング指標

《 指標の説明 》

15歳以上の人口に占める就業者の割合。
令和5年の水準(62.2%)の維持を目指し、目標値を設定。

《 指標の進捗状況・分析 》

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 埼玉しごとセンター等において、求職者への就業支援を行っている。また、県内経済情勢が引き続き堅調であることから、雇用情勢も売り手市場で推移している。
- 令和8年度は、引き続き埼玉しごとセンター等において、求職者への就業支援に取り組む。

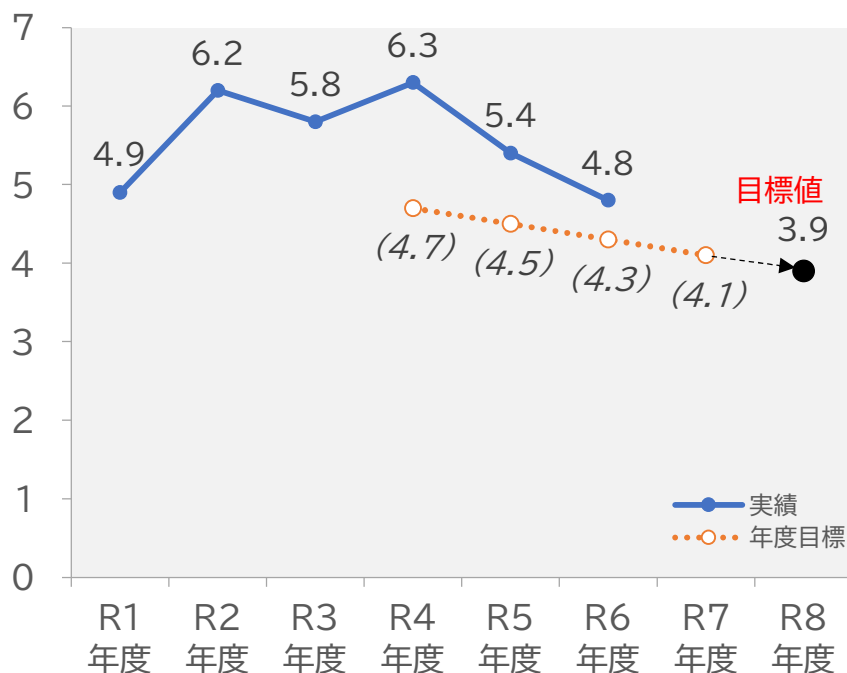
針路7 施策28 就業支援と雇用環境の改善

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
58. 県内大学新規卒業者に占める不安定雇用者の割合	%	4.9 (R1年度)	4.8 (R6年度)	4.3 (R6年度)	89.6%	策定時より改善	3.9 (R8年度)

県内大学新規卒業者に占める不安定雇用者の割合(%)

フロー指標



≪ 指標の説明 ≫

県内大学新規卒業者に占める不安定雇用者(有期雇用労働者及び臨時労働者)の割合。

令和元年度における全国平均値(3.9%)まで減少させることを目指し、目標値を設定。

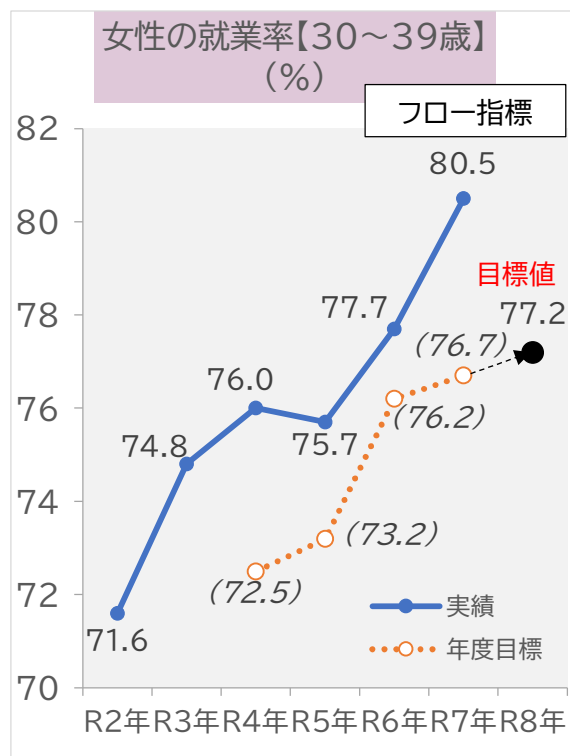
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 令和4年度実績6.3%から漸次改善しているが、最低賃金の上昇やワークライフバランスを重視した多様な働き方の浸透から、非正規雇用を選択する若者が一定数存在しており、目標達成には至っていない。
- 正社員として働くことのメリットと非正規雇用就職のデメリットを分かりやすくまとめた若者向け動画4本を公開中である。今後は、現在構築中の「埼玉県若者向け総合就職支援サイト“AIたまキャリア”」からも動画視聴ができるようにして、採用情報等とともにワンストップで就活情報を提供することで、県内企業とのマッチング支援を強化する。

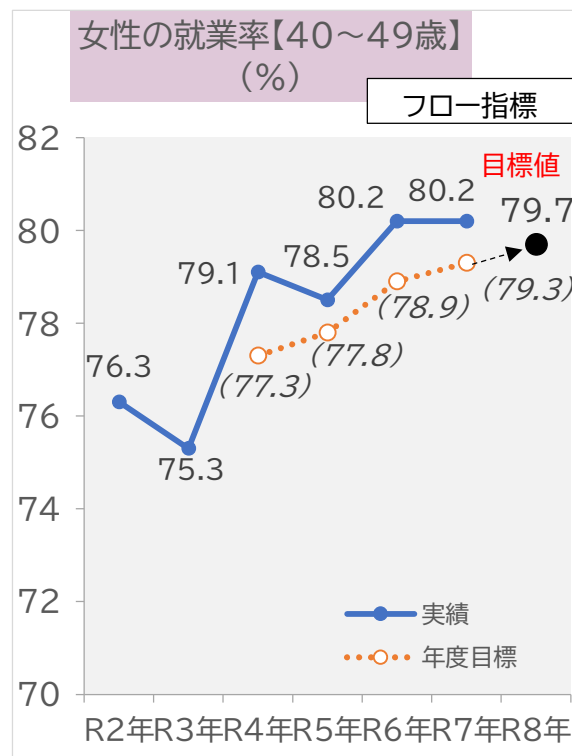
針路7 施策29 女性の活躍推進と男女共同参画の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
59. 女性(30～39歳、40～49歳)の就業率	%	30～39歳 71.6 40～49歳 76.3 (R2年)	80.5 80.2 (R7年)	76.7 79.3 (R7年)	105.0% 101.1%	最終目標を上回る	77.2 79.7 (R8年)



※ローリング指標



※ローリング指標

「指標の説明」

女性(30～39歳、40～49歳)に占める就業者の割合。
令和11年に令和5年の全国平均(30～39歳:79.0%、
40～49歳:81.1%)の水準まで引き上げることを目指し、
目標値を設定。

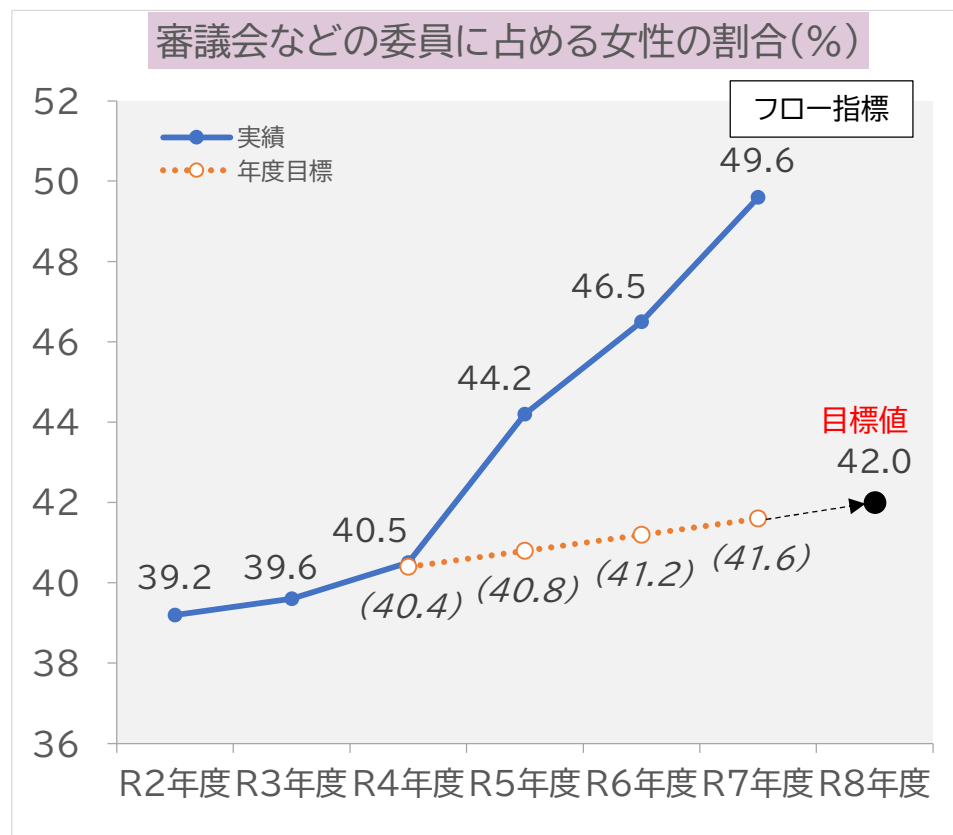
「指標の進捗状況・分析」

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 女性キャリアセンターを、働く女性のワンストップ支援拠点と位置づけ、女性の就業から就労継続、キャリアアップまでをワンストップで支援したことが就業率の向上に寄与したと考えられる。
- 同センターにおける就業、就労継続、キャリアアップ等へのきめ細かい支援や、女性のデジタル人材育成を推進していく。

針路7 施策29 女性の活躍推進と男女共同参画の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
60. 審議会などの委員に占める女性の割合	%	39.2 (R2年度)	49.6 (R7年度)	41.6 (R7年度)	119.2%	最終目標を上回る	42.0 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

県の各種審議会などにおける女性委員の割合。
国の「第5次男女共同参画基本計画」において、令和7年までに女性委員の割合を40%以上60%以下にすることを目指していることを踏まえ、目標値を設定。

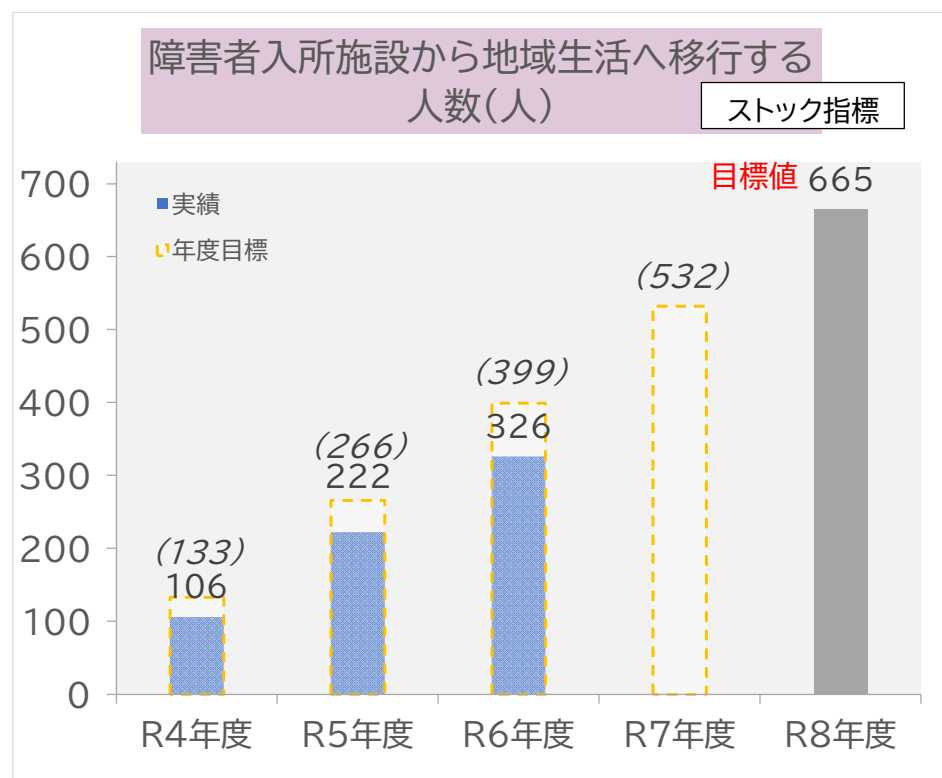
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 審議会等における女性委員の割合が令和8年度末の達成目標値である42%に満たず審議会委員を委嘱する場合には、任命の前に協議を行い、できる限り女性の適任者の登用に努めた。
- 引き続き、女性委員の割合が令和8年度末の達成目標値(42%)を下回る審議会等を所管する部局に対して、法令に定めがあるものを除き、委員の充て職や推薦団体の変更などの委員の選任に係る運用の見直しや設置要綱等の改正に係る検討を部局長に対し依頼し、女性委員の登用促進に努める。

針路7 施策30 障害者の自立・生活支援

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
61. 障害者入所施設から地域生活へ移行する人数	人	— (-)	326 (R4～R6年度の累計)	399 (R4～R6年度の累計)	81.7%	策定時より改善	665 (R4～R8年度の累計)



◀ 指標の説明 ▶

障害者入所施設から地域生活へ移行する人数。

国の指針において、地域生活に移行する者の令和5年度末の目標値は「令和元年度末の施設入所者数の6%以上」とされているところ、本県では「第6期埼玉県障害者支援計画」において定めた目標値である7.5%(令和3年度～5年度で399人)を踏まえ、令和6年度以降も同様の移行人数を目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

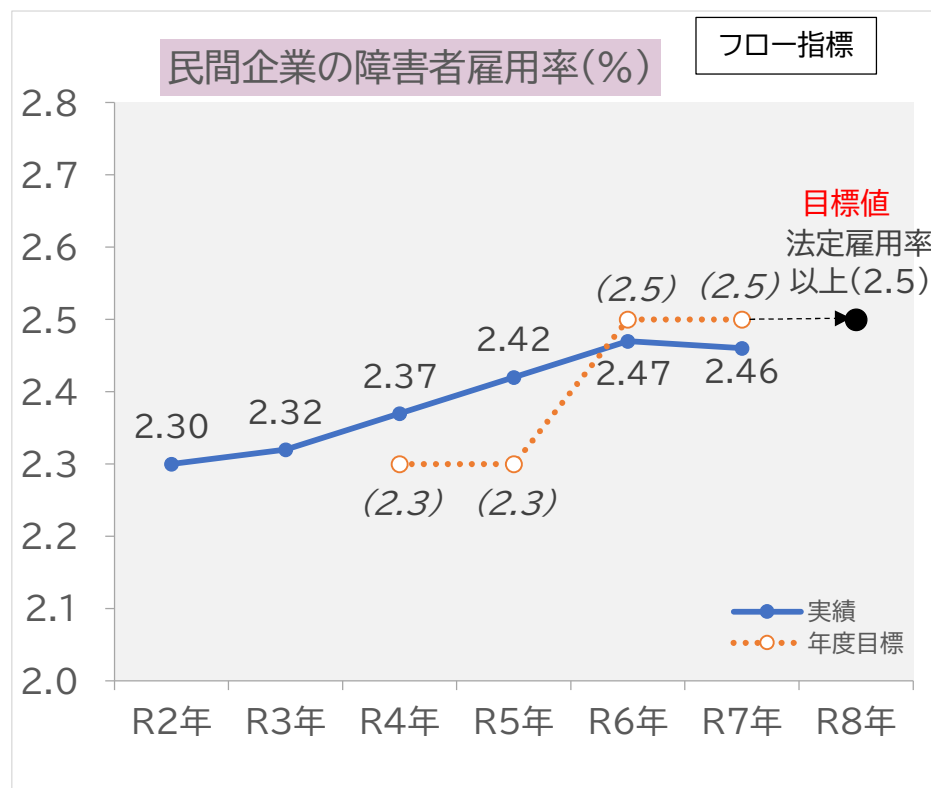
- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- これまで地域移行を推進してきた結果、19年間で3,602人が地域生活へ移行したため、地域移行を希望する入所者数が減少しているほか、現在の入所者は高齢化・重度化が進行しており、地域移行に必要な支援も高度化していることから、地域移行が進みにくい状況にあると考えられる。
- 障害者が地域での生活を送るに当たって、グループホームなど居住系サービス、就労継続支援など日中活動系サービス及びホームヘルプなど訪問系サービスの確保、充実に努める。

針路7 施策30 障害者の自立・生活支援

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
62. 民間企業の障害者雇用率	%	2.30 (R2年)	2.46 (R7年)	2.5 * (R7年)	98.4%	策定時より改善	法定雇用率以上* (R8年)

* 各年6月1日時点の法定雇用率以上



指標の説明

「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づく、民間企業における障害者の雇用率。

「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、民間企業に対し義務づけられている法定雇用率以上を目指し、目標値を設定。

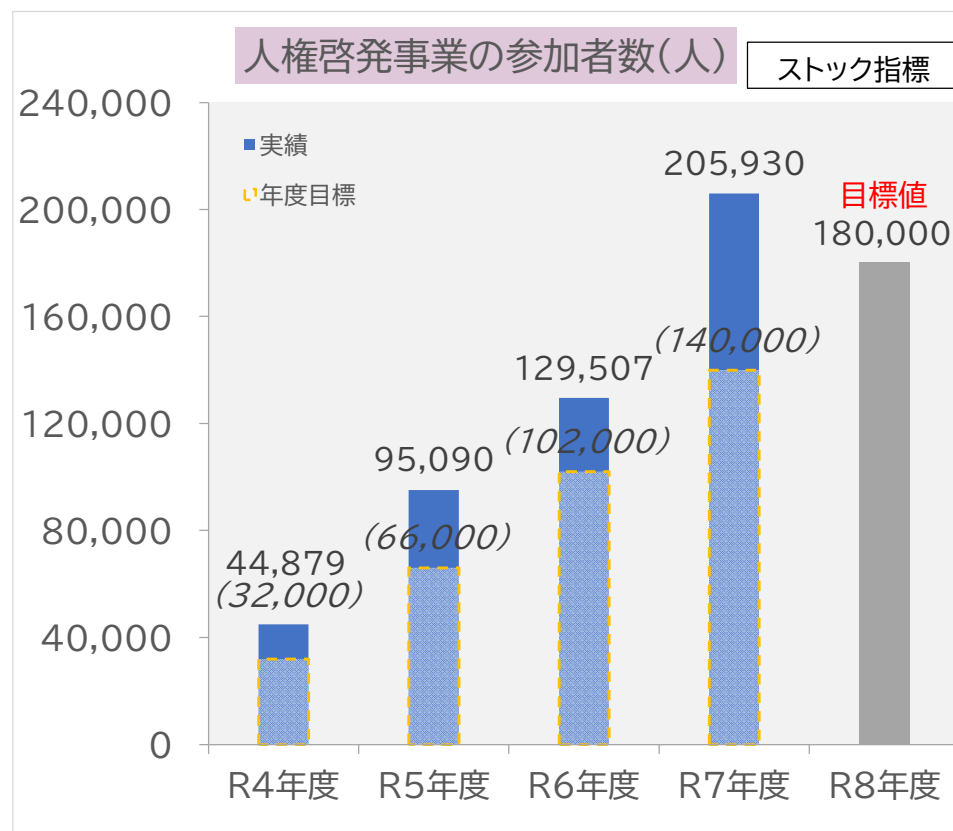
指標の進捗状況・分析

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 障害者雇用率は全国平均(2.41%)を上回っているが、令和7年4月1日からの除外率引下げの影響により、障害者の就業が一般的に困難であると認められた業種に新たな雇用義務が生じたことなどにより、年度の目標を下回った。
- 民間企業の法定雇用率が令和8年7月1日に2.7%に引き上げられたことから、法定雇用率の引上げにより未達成となる可能性がある企業を抽出し、法定雇用率の達成に必要な支援を実施する。支援に当たっては、ハローワークや地域の障害者就労支援機関など関係機関とも連携し、法定雇用率の達成に取り組む。

針路7 施策31 人権の尊重

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
63. 人権啓発事業の参加者数	人	— (-)	205,930 (R4～R7年度の累計)	140,000 (R4～R7年度の累計)	147.1%	最終目標を上回る	180,000 (R4～R8年度の累計)



≪ 指標の説明 ≫

人権尊重社会をめざす県民運動の各種事業や市町村・企業向け講師派遣研修会などへの参加者数の累計。

人権啓発事業の参加者数について、過去5年間(平成28年度～令和2年度)の最高値(27,214人)を上回る30,000人から、令和4年度以降更に毎年度2,000人ずつ増加させることを目指し、目標値を設定。

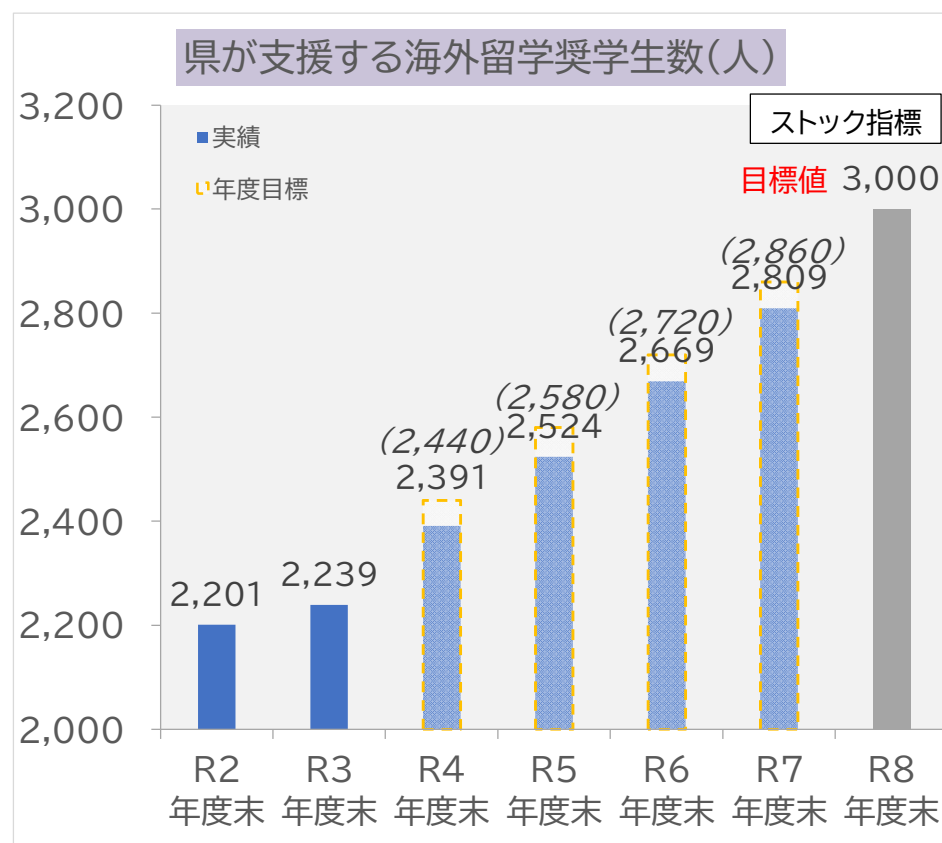
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- オンラインの活用、イベント実施会場の選定に加え、関心の高いテーマの設定などにより、より多くの方に人権啓発事業に参加いただくことができた。
- 人権啓発事業の実施方法や内容等への工夫に加え、あらゆる広報手段を用いてより多くの方への周知を図る。

針路8 施策32 多文化共生と国際交流のSAITAMAづくり

施策指標の進捗状況

	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
64. 県が支援する海外留学奨学生数	人	2,201 (R2年度末)	2,809 (R7年度末)	2,860 (R7年度末)	98.2%	策定時より改善	3,000 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

「埼玉発世界行き」奨学生数と姉妹友好州省派遣者数の累計。
過去の実績(毎年度140人程度)を踏まえ、同水準の若者の留学支援を継続することを目指し、目標値を設定。

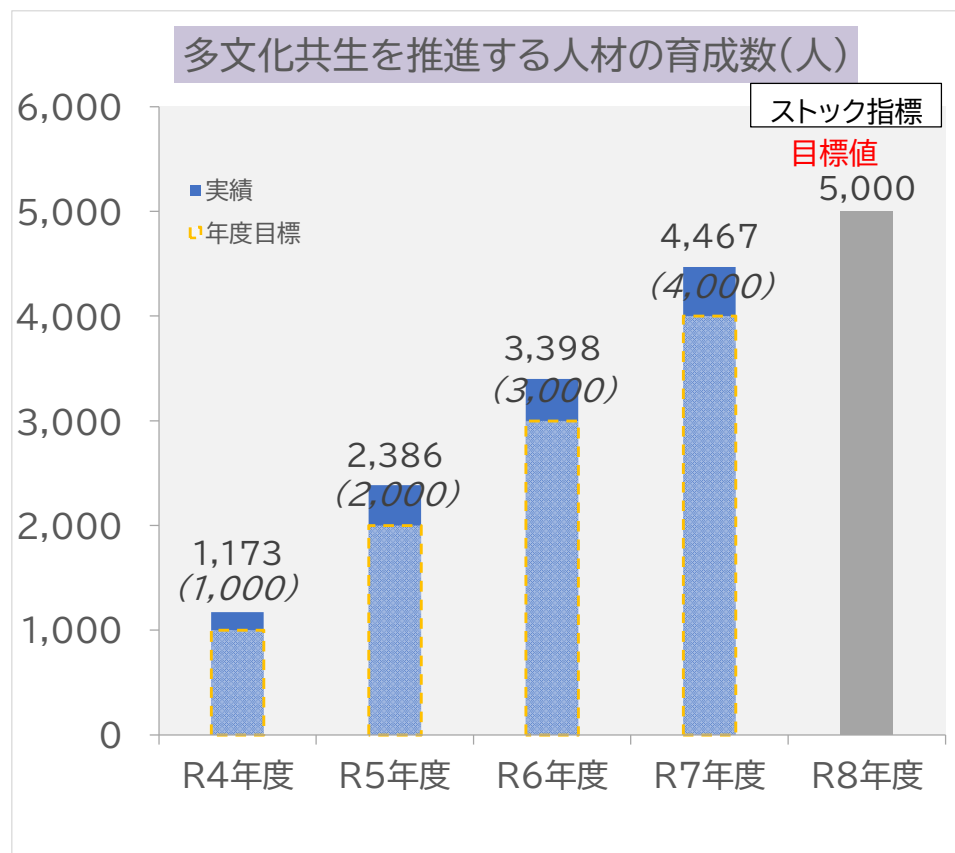
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により海外への渡航が制限されたことから、令和2年度及び令和3年度は県が支援する海外留学奨学生は少なかったが、令和4年度以降、急激な円安等の影響があるものの、年度目標に近い留学生を海外に送り出すことができた。
- 海外情勢を考慮しながら柔軟な対応をすることで、引き続き若者の留学を支援していく。

針路8 施策32 多文化共生と国際交流のSAITAMAづくり

施策指標の進捗状況

	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
65. 多文化共生を推進する人材の育成数	人	— (-)	4,467 (R4～R7年度の累計)	4,000 (R4～R7年度の累計)	111.7%	年度目標達成	5,000 (R4～R8年度の累計)



指標の説明

県が実施する「やさしい日本語講座」や「日本語学習支援者研修」などを受講した人数の累計。
毎年度約1,000人に対し研修等を実施し、外国人住民が求める支援を行う人材を増やすことを目指し、目標値を設定。

指標の進捗状況・分析

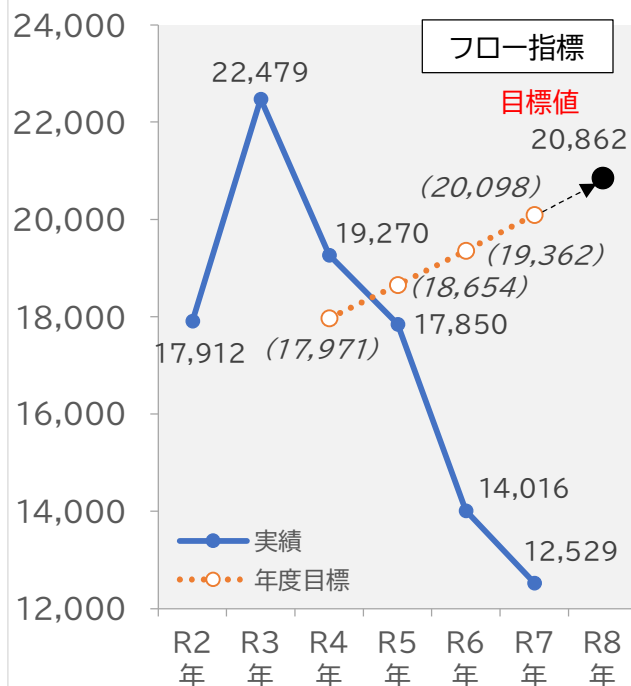
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 研修を県内2地域で開催したこと、オンラインでの開催を組み合わせたこと、オンライン研修の回数を増やしたことで、県内の様々な地域の県民が参加できたことにより、年度目標を上回った。
- 引き続き、研修のオンライン対応を進めるとともに、県内の学校や企業にも受講を働きかけ、幅広い年代の人材の育成を目指していく。

針路8 施策33 地域の魅力創造発信と観光振興

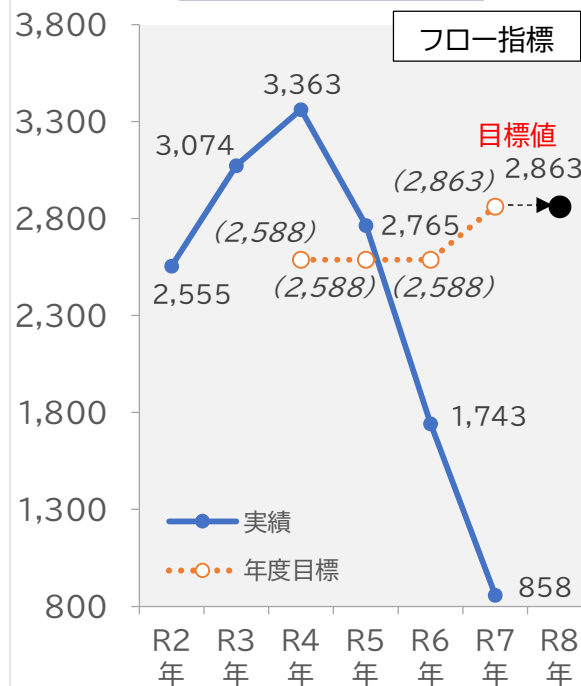
施策指標の進捗状況

	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
66. 人口の社会増の維持	人	全年齢17,912 0～14歳2,555 (R2年)	12,529 858 (R7年)	20,098 2,863 (R7年)	62.3% 30.0%	策定時より後退	20,862 2,863 (R8年)

人口の社会増の維持【全年齢】(人)



人口の社会増の維持【0～14歳】(人)



※ローリング指標

指標の説明

本県への転入者数と転出者数の差。
全年齢は、過去5年間(平成28年～令和2年)の平均値及び伸び率を踏まえ、増加させることを目指し、目標値を設定。
0～14歳は、少子化が見込まれる中、過去5年間(令和元年～令和5年)の平均値を維持することを旨とし、目標値を設定。

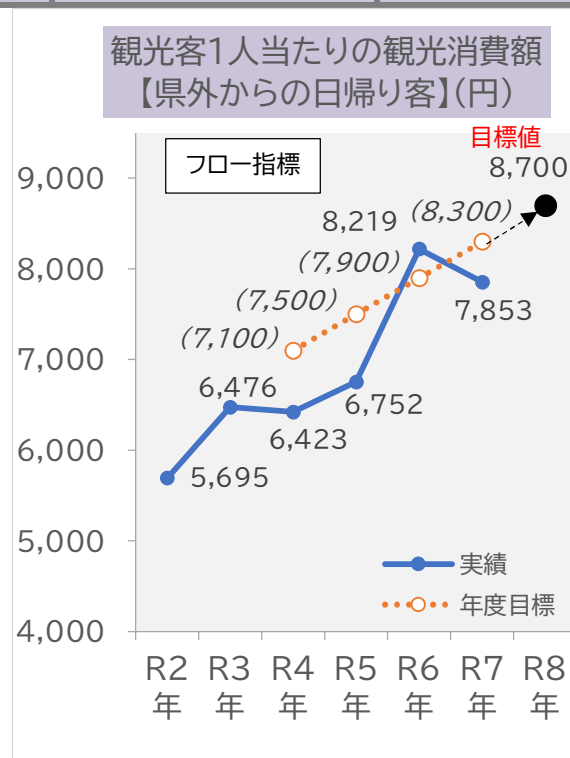
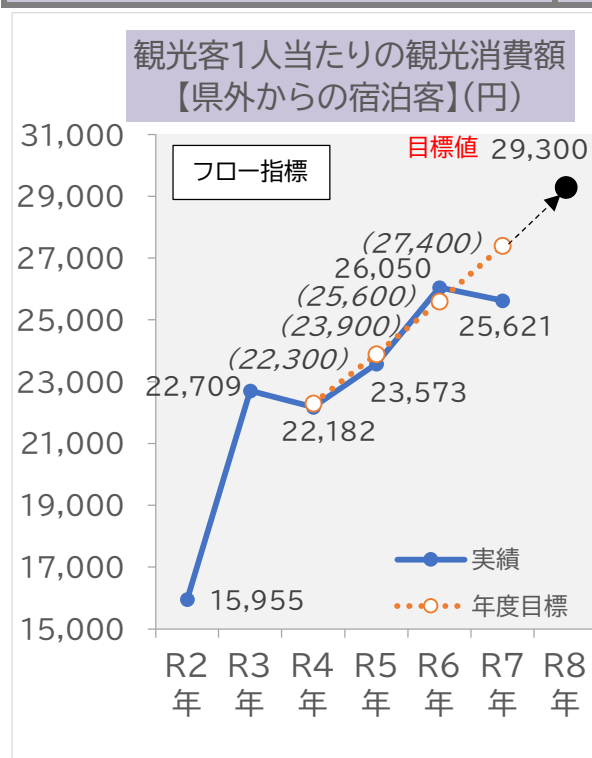
指標の進捗状況・分析

- 最新値は計画策定時の値より後退しており、より一層の努力を要する。
- コロナ禍においては、本県を含む東京近郊の居住者が東京都への移動を控え、また、テレワークの浸透に伴い、東京都の居住者が東京都へのアクセスが比較的便利な地域へ住み替える状況があった。しかしながら、コロナ禍が収束した令和5年度以降、東京都が大幅な転入超過に戻ったことなどを背景として社会増の数が減少したと考えられる。
- 令和8年度は改めて県政世論調査の定住意向調査及び課題調査(県内外からの移住について)等を通じて社会増の要因を分析する予定である。分析結果を踏まえ、県内への転入増加に向けた取組を引き続き進めていくとともに、更なる取組の必要性を検討する。

針路8 施策33 地域の魅力創造発信と観光振興

施策指標の進捗状況

	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
67. 観光客1人当たりの観光消費額	円	県外からの宿泊客 15,955	25,621	27,400	93.5%	策定時より改善	29,300
		県外からの日帰り客 5,695 (R2年)	7,853 (R7年)	8,300 (R7年)	94.6%		8,700 (R8年)



《 指標の説明 》

県外からの宿泊客及び日帰り客1人1回当たりの旅行における消費額。

令和4年に平成30年と令和元年の平均値まで回復させた上で、平成23年から令和元年の実績値の伸びを踏まえ、宿泊客は毎年7%、日帰り客は毎年5%増やすことを目指し、目標値を設定。

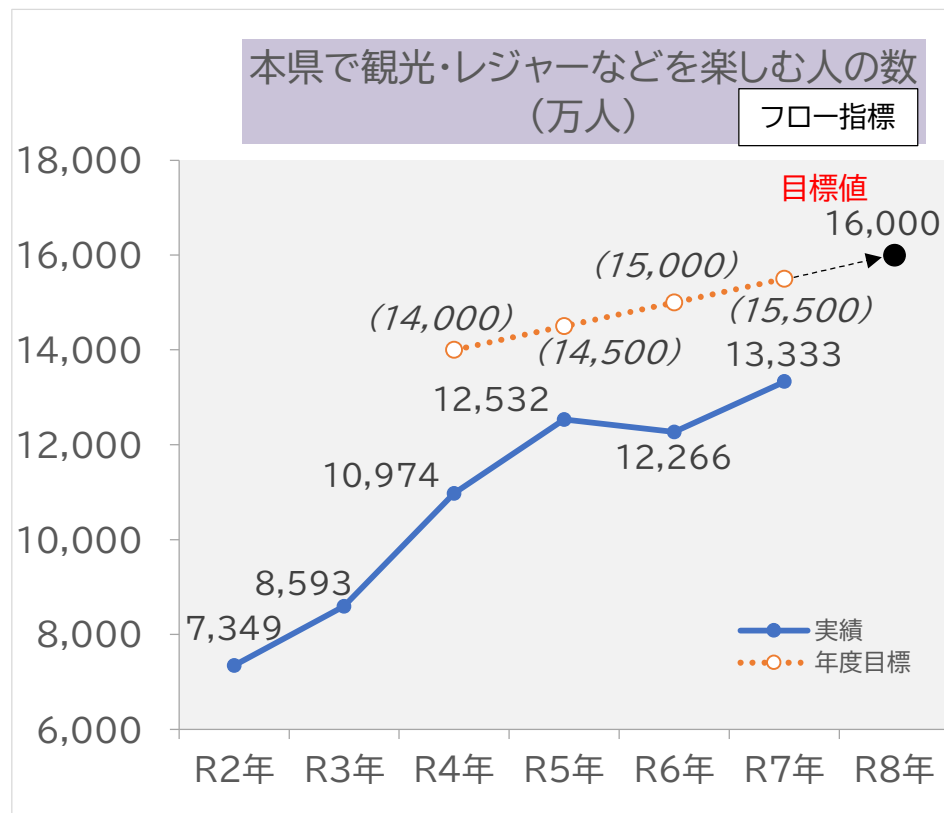
《 指標の進捗状況・分析 》

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 観光客1人当たりの観光消費額(県外からの宿泊客)は、物価高によって宿泊料等は上昇したが、現地での消費が控えられたことなどから、年度目標を下回った。観光客1人当たりの観光消費額(県外からの日帰り客)は、日帰り客数は増えたものの、物価高によって現地での消費が控えられたことなどから、年度目標を下回った。
- 埼玉の「花」や温浴施設、グルメなど本県の強みを生かした観光プロモーションを実施することで県内の周遊を促し、観光消費額の増加を図っていく。

針路8 施策33 地域の魅力創造発信と観光振興

施策指標の進捗状況

	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
68. 本県で観光・レジャーなどを楽しむ人の数	万人	7,349 (R2年)	13,333 (R7年)	15,500 (R7年)	86.0%	策定時より改善	16,000 (R8年)



≪ 指標の説明 ≫

県内の観光地及び祭り、イベントなどに訪れた人数の合計(観光入込客の数)。

令和4年に平成30年と令和元年の平均値まで回復させた上で、平成23年から令和元年の実績値の伸びを踏まえ、毎年3%増やすことを目指し、目標値を設定。

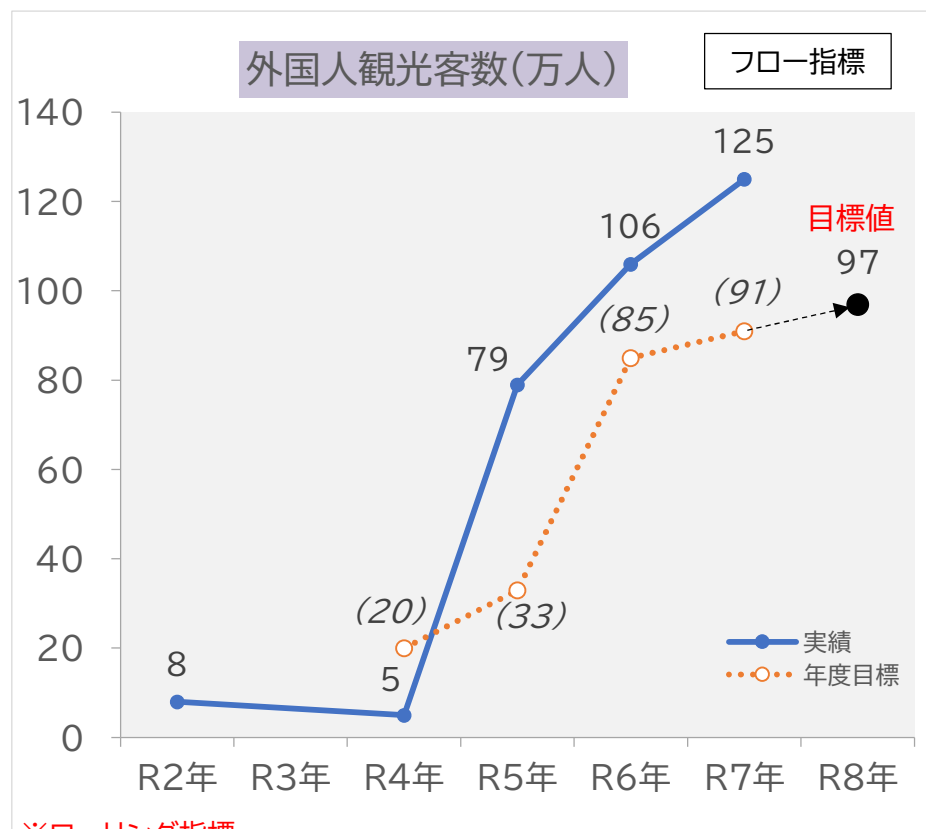
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 観光誘客に向けた取組の効果などにより、前年よりも本県で観光・レジャーなどを楽しむ人の数は増加したが、年度目標を下回った。県内の日帰り客数は増加したものの、物価高の影響により、遠方より近場の旅行先を選ぶ方が増え、県外からの日帰り客数が伸び悩んだことが原因と考えられる。
- 埼玉の「花」や温浴施設、グルメなど本県の強みを生かした観光プロモーションを実施することで観光客の増加を図っていく。

針路8 施策33 地域の魅力創造発信と観光振興

施策指標の進捗状況

	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
69. 外国人観光客数	万人	8 (R2年)	125 (R7年)	91 (R7年)	137.4%	最終目標を上回る	97 (R8年)



《 指標の説明 》

1年間に本県を訪れた外国人観光客数(推計)。
平成30年から令和5年までの増加数12万人(コロナ禍の期間(令和2年～令和4年)を除く)を踏まえ、目標値を設定。

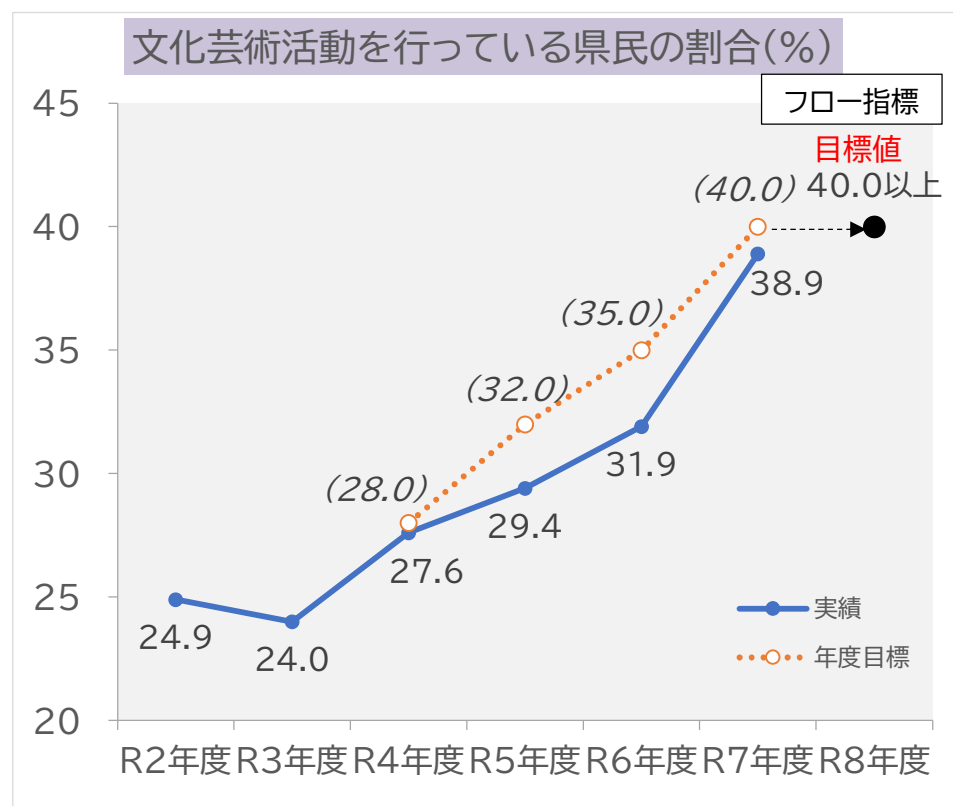
《 指標の進捗状況・分析 》

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 国全体では年間で過去最高を更新している。このような全国的な潮流や、県として台湾、米国を重点的にプロモーションするなどにより、外国人観光客の増加に繋がった。
- インバウンド向けのプロモーション等を実施し、誘客を図っていく。

針路8 施策34 文化芸術の振興

施策指標の進捗状況

	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
70. 文化芸術活動を行っている県民の割合	%	24.9 (R2年度)	38.9 (R7年度)	40.0 (R7年度)	97.3%	策定時より改善	40.0以上 (R8年度)



《 指標の説明 》

県政世論調査で「1年間に文化芸術活動を行ったことがある」と回答した県民の割合。

国の「文化芸術推進基本計画(第1期)」において、鑑賞以外の文化芸術活動をする者の割合が約40%まで増加することを目指していることを踏まえ、目標値を設定。

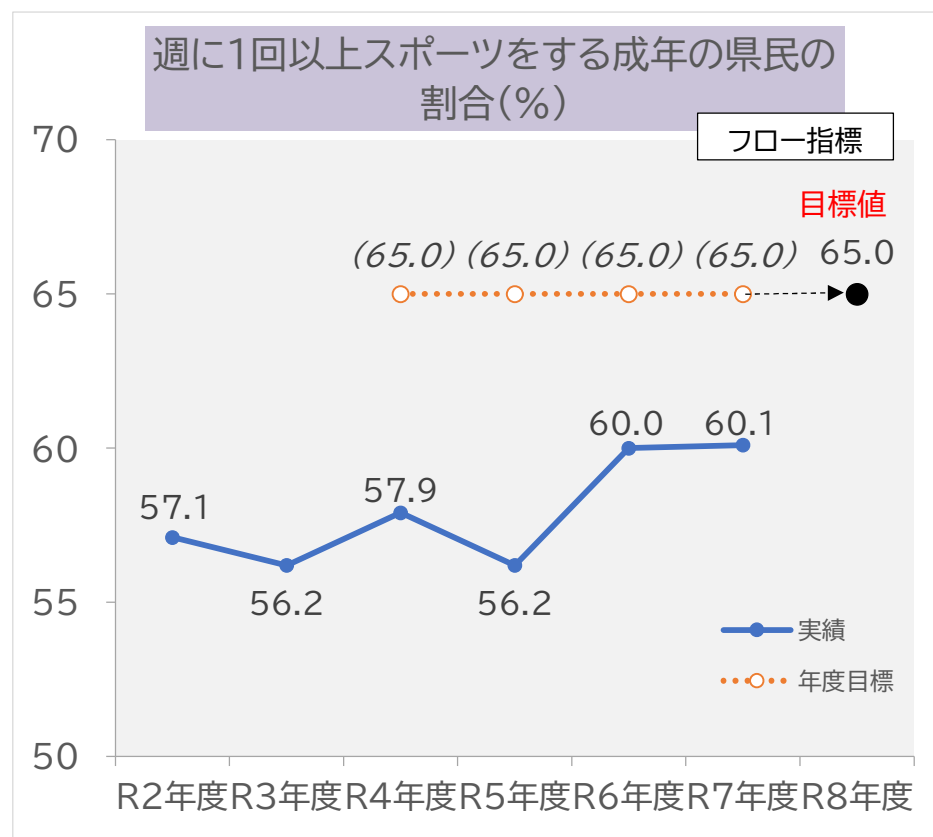
《 指標の進捗状況・分析 》

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 指標は年度目標(40%)に届かなかったものの、令和7年度に導入した埼玉県文化アプリ「ぶんたま」による情報発信の充実や、前年度を超える件数の助成を実施するなどの支援に努めた結果、達成率は9割を超えた。
- 県民の自発的な文化芸術活動を後押しするため、文化振興基金を活用した助成や、埼玉県文化アプリ「ぶんたま」による体験機会のきっかけづくりなどを通して、文化芸術活動を行う県民の拡大を図る。

針路8 施策35 スポーツの振興

施策指標の進捗状況

	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
71. 週に1回以上スポーツをする成年の県民の割合	%	57.1 (R2年度)	60.1 (R7年度)	65.0 (R7年度)	92.5%	策定時より改善	65.0 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

県政世論調査で「週に1回以上スポーツをする」と回答した成年の県民の割合。

国の「スポーツ基本計画」において、成年の週1回以上のスポーツ実施率が65%程度となることを目指していることを踏まえ、目標値を設定。

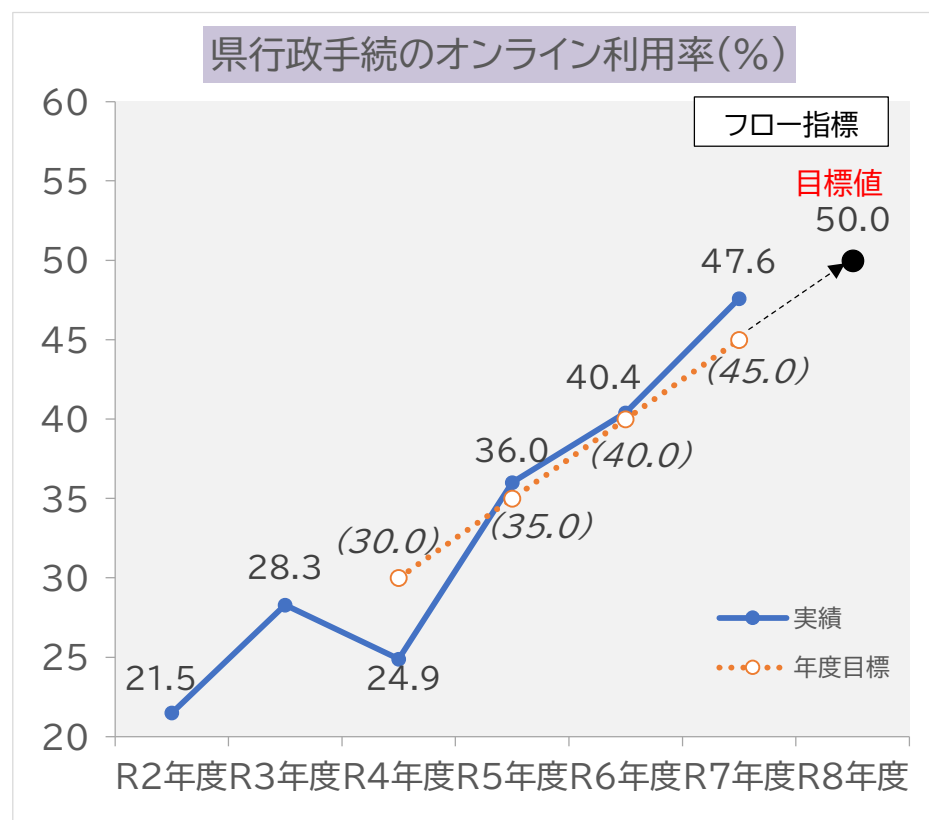
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 県政世論調査の結果によると、スポーツ・レクリエーション活動をする機会がなかった理由として、仕事や家事・育児等で忙しいことを挙げた回答者が最も多い傾向が続いている。
- 忙しく時間がない働き盛り・子育て世代(30～50歳代)も参加しやすいよう、県内各地域でのイベントの実施や、プロ・トップチームと連携した親子スポーツ教室など、身近で気軽にスポーツに触れる機会を提供し、幅広い世代がスポーツに親しめる施策を推進する。

針路8 施策36 デジタル技術を活用した県民の利便性の向上

施策指標の進捗状況

	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
72. 県行政手続のオンライン利用率	%	21.5 (R2年度)	47.6 (R7年度)	45.0 (R7年度)	105.8%	年度目標達成	50.0 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

県の行政手続の総申請件数に対する、オンライン申請件数の割合。
国の「規制改革実施計画」における、各省庁の所管する行政手続のオンライン利用率の引上げについての方針を踏まえ、県の現状値を勘案し、目標値を設定。

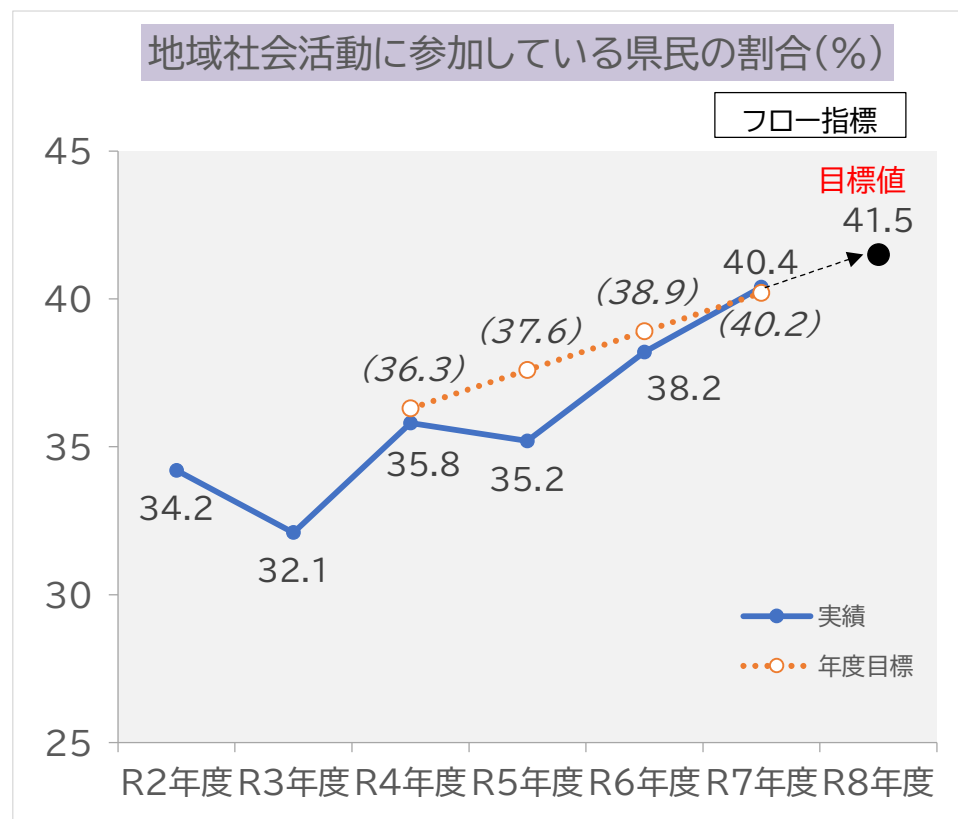
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 各事業課による個別手続の運用見直しにより手続のオンライン化が着実に進むとともに、オンライン申請に係る利用案内等を促進したことにより、年度目標を達成した。
- DXの第2ステップ「業務プロセス改革」を通じて、紙で提出する必要がある手続等の見直しを行い、手続のオンライン化を進めるとともに、ユーザビリティに配慮したシステム構築や広報・普及啓発等の取組を一体的に推進することにより、更なるオンライン利用率の向上を図る。

針路8 施策37 多様な主体による地域社会づくり

施策指標の進捗状況

	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
73. 地域社会活動に参加している県民の割合	%	34.2 (R2年度)	40.4 (R7年度)	40.2 (R7年度)	100.5%	年度目標達成	41.5 (R8年度)



《 指標の説明 》

県政世論調査で「過去1年間に地域社会活動(自治会、PTAなどによる地域活動及びNPO、ボランティア活動など)に参加したことがある」と回答した県民の割合。

過去最高値(平成26年度 41.5%)まで回復させることを目指し、目標値を設定。

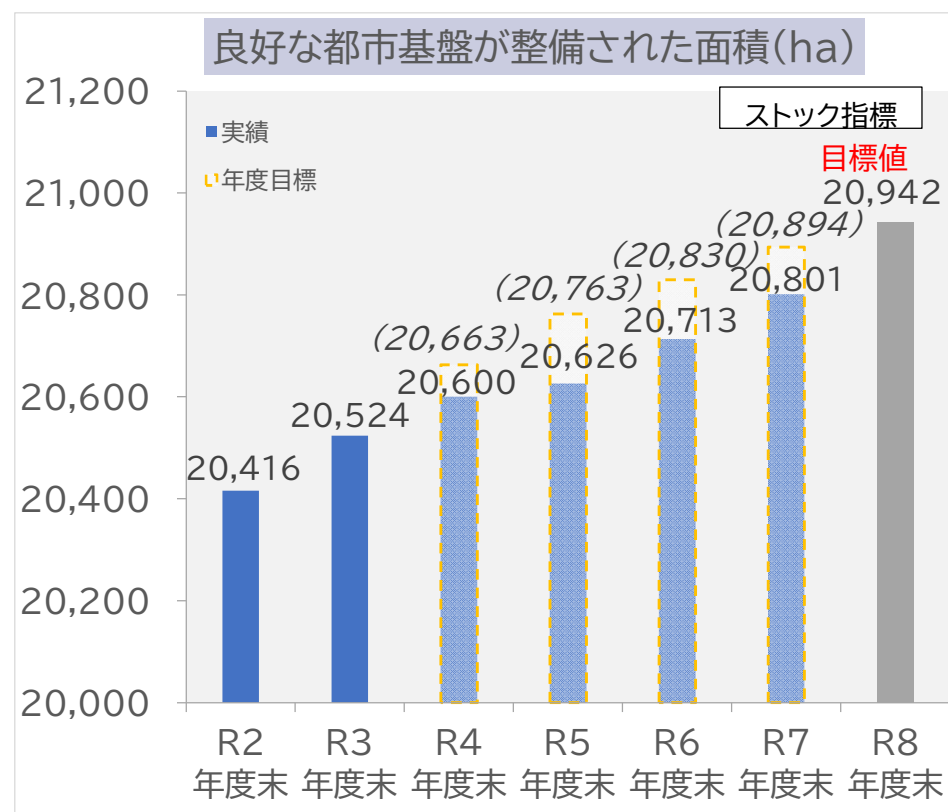
《 指標の進捗状況・分析 》

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- コロナ禍により縮小していた地域活動の再開・正常化が進み、令和7年度は、その動きが定着したことに加え、能登半島地震などを契機とした防災や地域コミュニティへの関心の高まりにより、地域課題に対する意識が向上したことなどから、地域社会活動への参加率が上昇し、年度目標を達成する結果につながったものと考えられる。
- ホームページのほかSNSなどを活用し、地域社会活動に関する情報を提供するとともに、地域のNPOや企業などが一堂に集まるイベントなどを定期的で開催し、地域社会活動への参加意識を醸成していく。

針路9 施策38 住み続けられるまちづくり

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
74. 良好な都市基盤が整備された面積	ha	20,416 (R2年度末)	20,801 (R7年度末)	20,894 (R7年度末)	99.6%	策定時より改善	20,942 (R8年度末)



◀ 指標の説明 ▶

土地区画整理事業、市街地再開発事業により、良好な都市基盤(住宅地や商業地)が整備され、災害対応力が向上した土地の面積。
各事業主体が令和8年度までに予定している住宅地や商業地の整備を着実に推進することを目指し、目標値を設定。

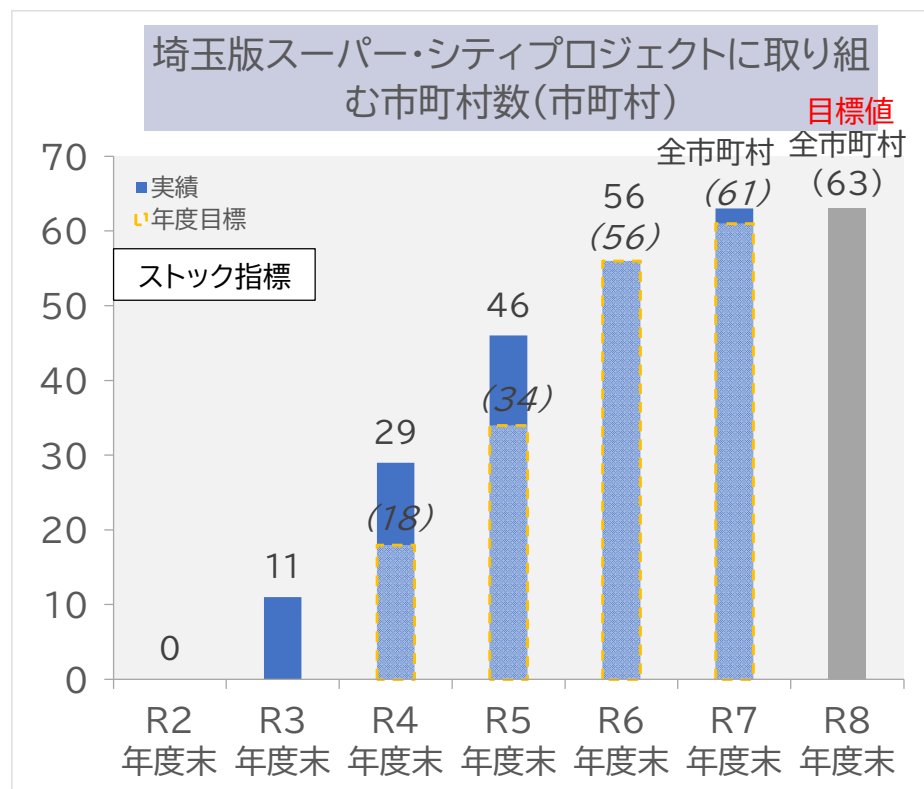
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 土地区画整理事業や市街地再開発事業に対して一部補助を行い、事業の実施と促進に取り組んだ結果、各地区で一定の進展は見られたものの、移転交渉の長期化などの影響で一部の地区では事業が遅れている。
- 引き続き、円滑な事業の実施と促進に取り組んでいく。

針路9 施策38 住み続けられるまちづくり

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
75. 埼玉版スーパー・シティプロジェクトに取り組む市町村数	市町村	0 (R2年度末)	全市町村 (R7年度末)	61 (R7年度末)	103.3%	最終目標を上回る	全市町村 (R8年度末)



※ローリング指標

◀ 指標の説明 ▶

「埼玉版スーパー・シティプロジェクトの基本的な考え方(骨格)」に基づくまちづくりの検討に着手した市町村の数。

令和6年度に実施した市町村意向調査で取組意向を示した県内全ての市町村において、プロジェクトに基づくまちづくりが進むことを目指し、目標値を設定。

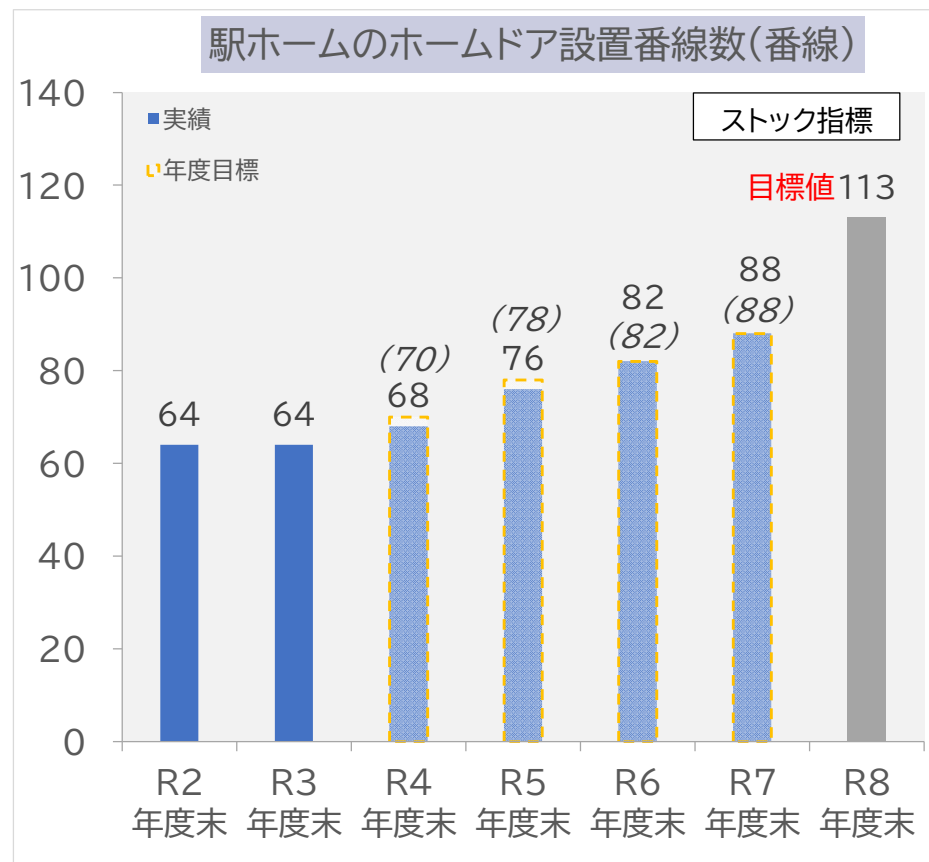
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- ワンストップ窓口において各市町村からの相談に一括して対応するとともに、市町村説明会等を通じてプロジェクトに関する説明を行ったことで、県内全63市町村にプロジェクトに参加いただいた。また、市町村を個別訪問し、今後のまちづくりに向けた意見交換を行ったほか、市町村と企業等の交流機会の拡大及びマッチング強化の取組を実施した。
- プロジェクトに取り組む市町村に対して、関係課で構成する事業化支援チームにより市町村のまちづくりの具体化を支援するとともに、財政支援や技術支援、企業等とのマッチング支援等を実施していく。

針路9 施策39 埼玉の価値を高める公共交通網の充実

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
76. 駅ホームのホームドア設置番線数	番線	64 (R2年度末)	88 (R7年度末)	88 (R7年度末)	100.0%	年度目標達成	113 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

ホームドアが設置されている駅の番線数。
鉄道事業者が作成したホームドア整備計画に基づき、目標値を設定。

≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

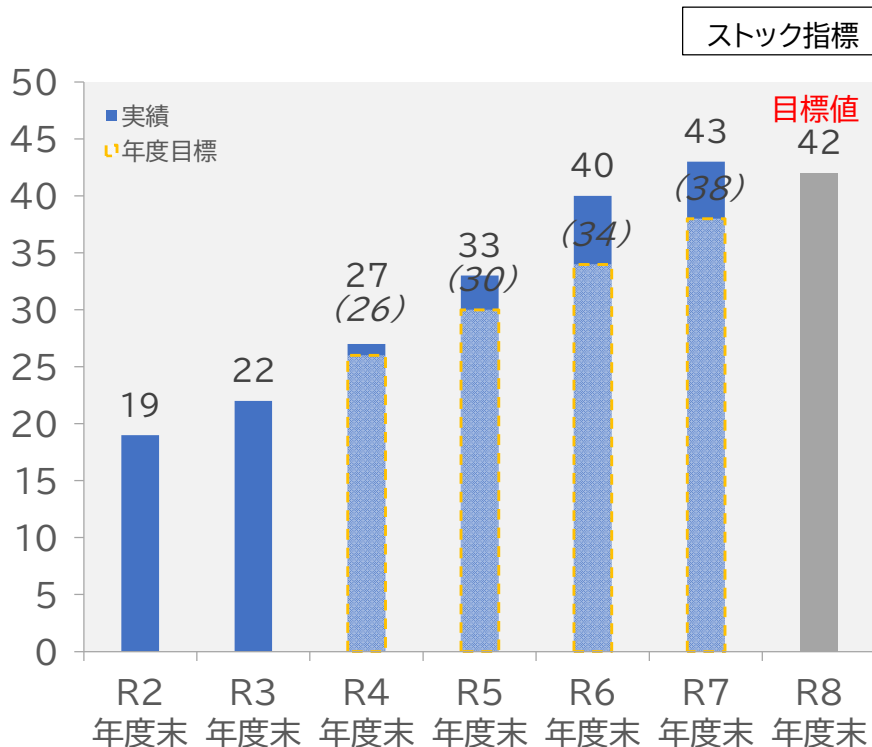
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 鉄道事業者が行うホームドアの整備に対し、沿線自治体が補助金による支援を行うなどした結果、年度目標に到達した。県では、鉄道沿線活性化連絡会議において鉄道事業者及び県内市町村に対して補助制度の周知を行い、さらに、鉄道整備要望等を通じて、ホームドアの早期整備を鉄道事業者に働きかけた。
- 市町村と連携してホームドアの整備を行う鉄道事業者を支援していくなど、令和8年度においても引き続き取組を進めていく。

針路9 施策39 埼玉の価値を高める公共交通網の充実

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
77. 地域公共交通計画の策定市町村数	市町村	19 (R2年度末)	43 (R7年度末)	38 (R7年度末)	113.2%	最終目標を上回る	42 (R8年度末)

地域公共交通計画の策定市町村数(市町村)



≪ 指標の説明 ≫

「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」において、努力義務とされている地域公共交通計画(マスタープラン)を策定した市町村数。平成26年度から令和2年度までの策定実績を踏まえ、毎年度4件ずつ増加させることを目指し、目標値を設定。

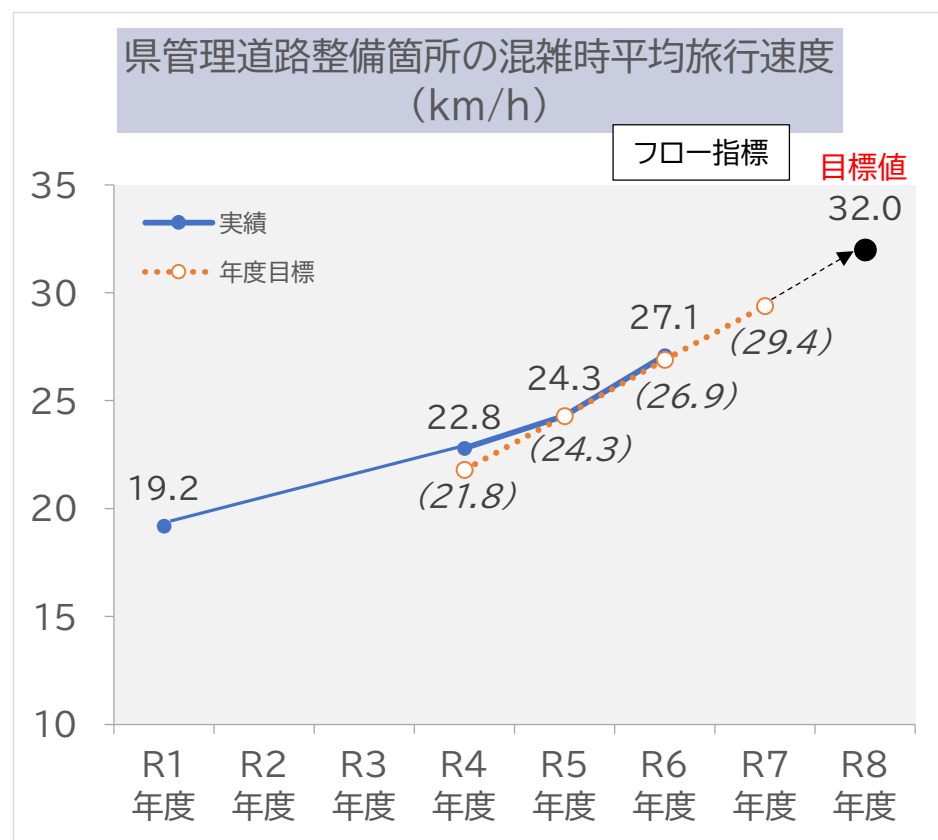
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 市町村が地域公共交通計画を策定するインセンティブとして、地域公共交通計画に基づく取組への財政支援を行うとともに、市町村向けの研修会や市町村の地域公共交通会議などを通して積極的に市町村に働きかけた結果、目標値を上回った。
- 引き続き、地域公共交通計画策定のインセンティブとなる財政支援、研修会や交通会議を通じた市町村への積極的な働きかけによって、地域公共交通計画の策定促進を図る。併せて、地域公共交通計画未策定の市町村に対して個別に訪問し、策定を促す。

針路9 施策40 埼玉の活力を高める道路ネットワークの構築

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
78. 県管理道路整備箇所の混雑時平均旅行速度	km/h	19.2 (R1年度)	27.1 (R6年度)	26.9 (R6年度)	100.7%	年度目標達成	32.0 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

朝夕ピーク時の混雑などを解消するために整備を進めている県管理道路における混雑時平均旅行速度。

自動車が円滑に走行できるよう道路整備を進めて渋滞が緩和し、全国平均(32.0km/h)水準まで改善することを目指し、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

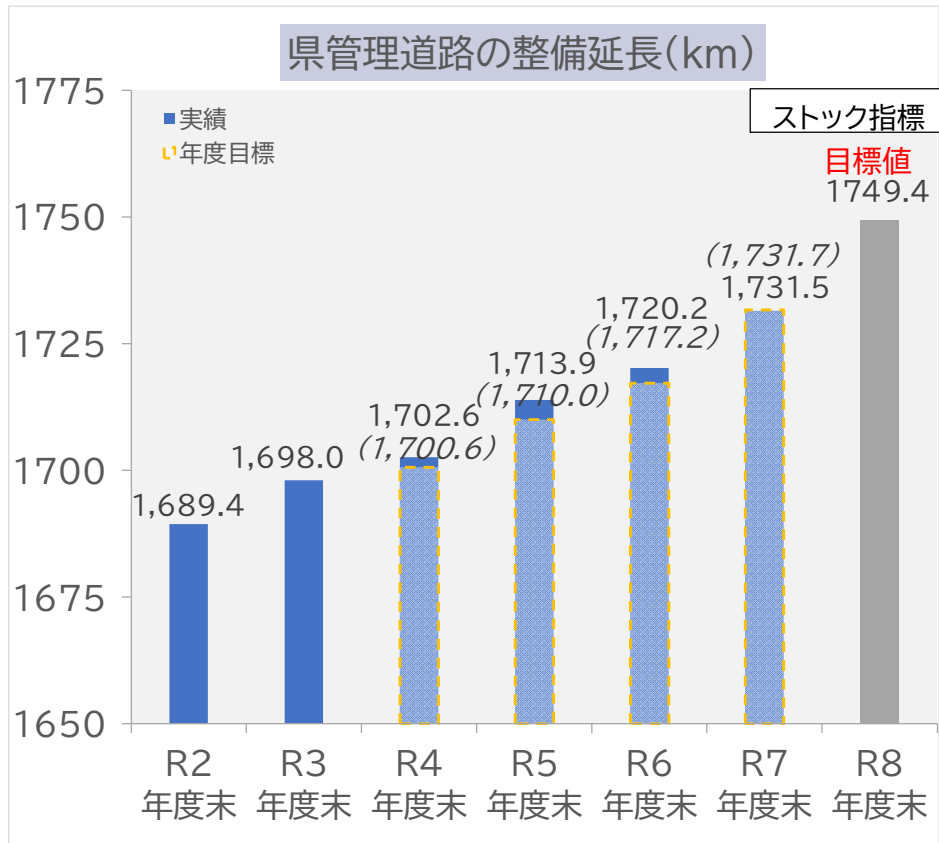
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 県管理道路の整備延長については、着実に達成しているため、旅行速度についても改善され、年度目標を達成した。
- 旅行速度改善のために、引き続き県管理道路の整備などに取り組む。

針路9

施策40 埼玉の活力を高める道路ネットワークの構築

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
79. 県管理道路の整備延長	km	1,689.4 (R2年度末)	1,731.5 (R7年度末)	1,731.7 (R7年度末)	99.9%	策定時より改善	1,749.4 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

バイパス整備、現道拡幅及び交差点改良が行われた距離の累計。
過去5年間(平成28年度～令和2年度)の実績を踏まえ、同水準の整備延長を完了することを目指し、目標値を設定。

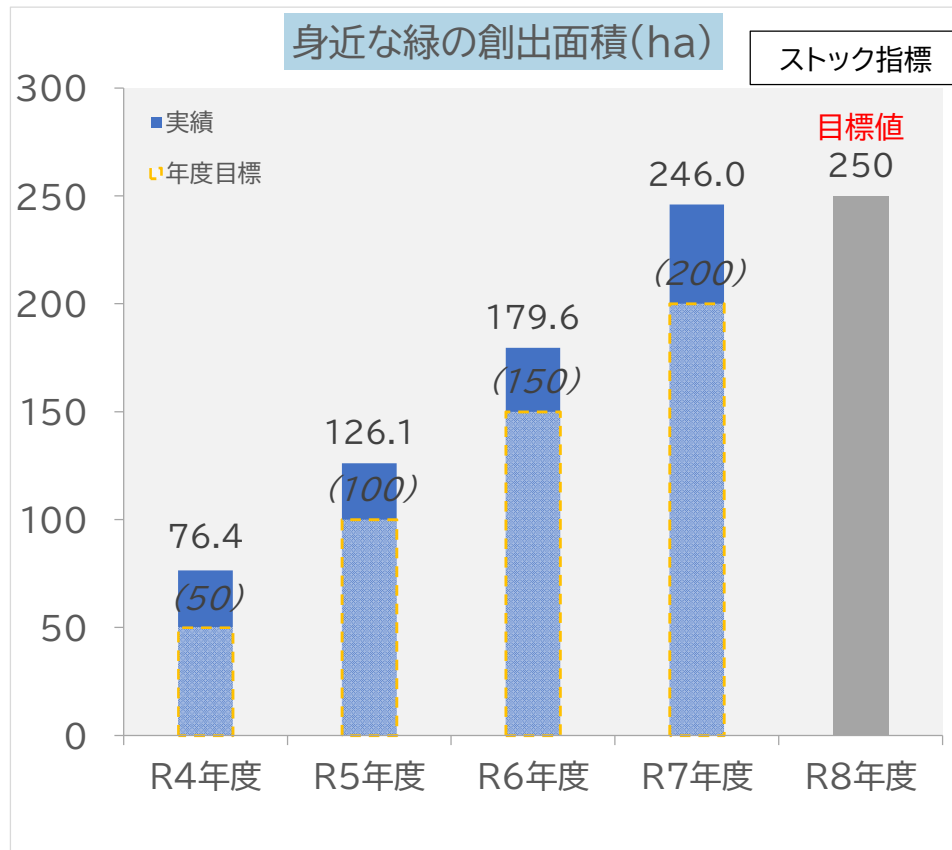
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 用地買収の難航等により工事に着手できず、年度目標をやや下回った。
- 令和8年度は当初予定していた箇所に加え、令和7年度に未達成となった箇所についても工事を行う。引き続き、関係機関との調整や工事の進捗管理を行い、目標達成に向けスピードアップを図る。

針路10 施策41 みどりの保全と創出

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
80. 身近な緑の創出面積	ha	— (—)	246.0 (R4～R7年度の累計)	200 (R4～R7年度の累計)	123.0%	年度目標達成	250 (R4～R8年度の累計)



≪ 指標の説明 ≫

県や市町村の条例に基づく緑化計画届出制度等による緑化面積及び園庭・校庭の芝生化などによる緑の創出面積の合計。

類似制度を持つ都府県の中でトップクラスの創出面積を目指し、毎年50haを目標値に設定。

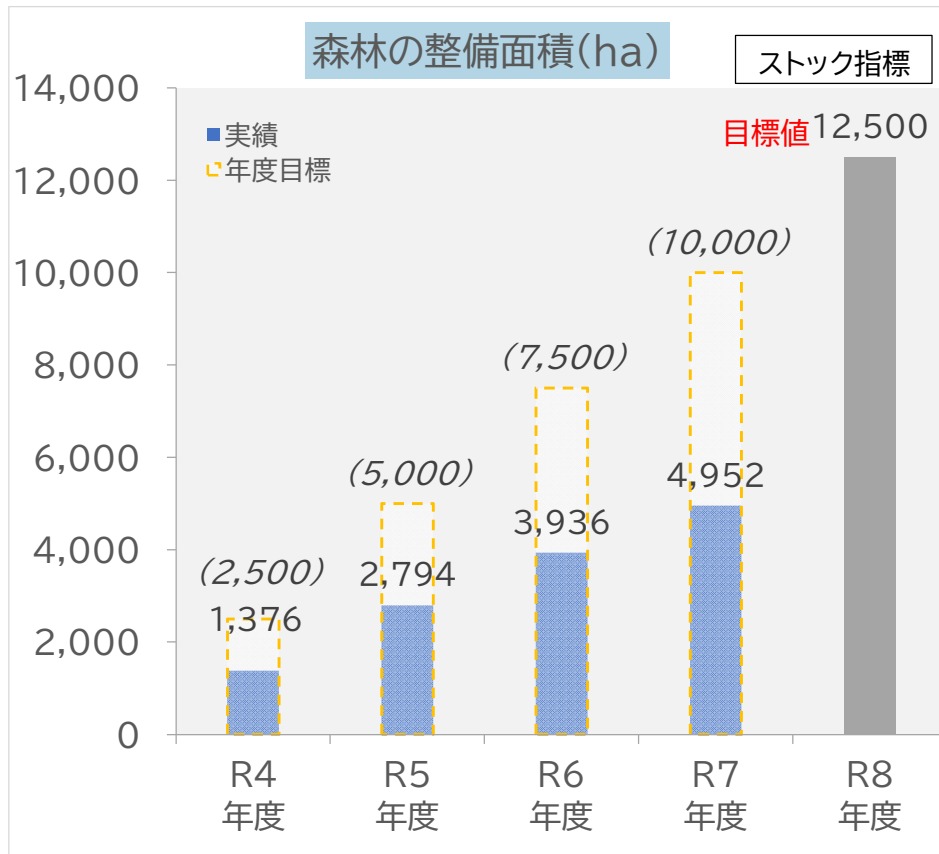
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 事業者が緑化計画届出書を提出するに当たり、環境管理事務所が指導や助言を適宜行っていることや、優良な緑化計画の認定及び表彰を行っていることなどにより、事業者の緑化への意識向上が図られていることが目標達成の要因と考えている。
- 今後も事業者が緑化計画届出書を提出するに際し、環境管理事務所による適切な指導や助言を継続するとともに、優良な緑化計画の認定といった表彰制度により事業者の緑化への意識向上につながるよう引き続き取り組む。

針路10 施策41 みどりの保全と創出

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
81. 森林の整備面積	ha	— (—)	4,952 (R4～R7年度の累計)	10,000 (R4～R7年度の累計)	49.5%	策定時より改善	12,500 (R4～R8年度の累計)



≪ 指標の説明 ≫

間伐や植栽、下刈りなどの森林整備を実施した面積。
将来にわたり森林を適正に維持していくため、間伐や植栽、下刈り、獣害等による被害地の再生などの森林整備を、年間2,500ha実施することを目指し、目標値を設定。

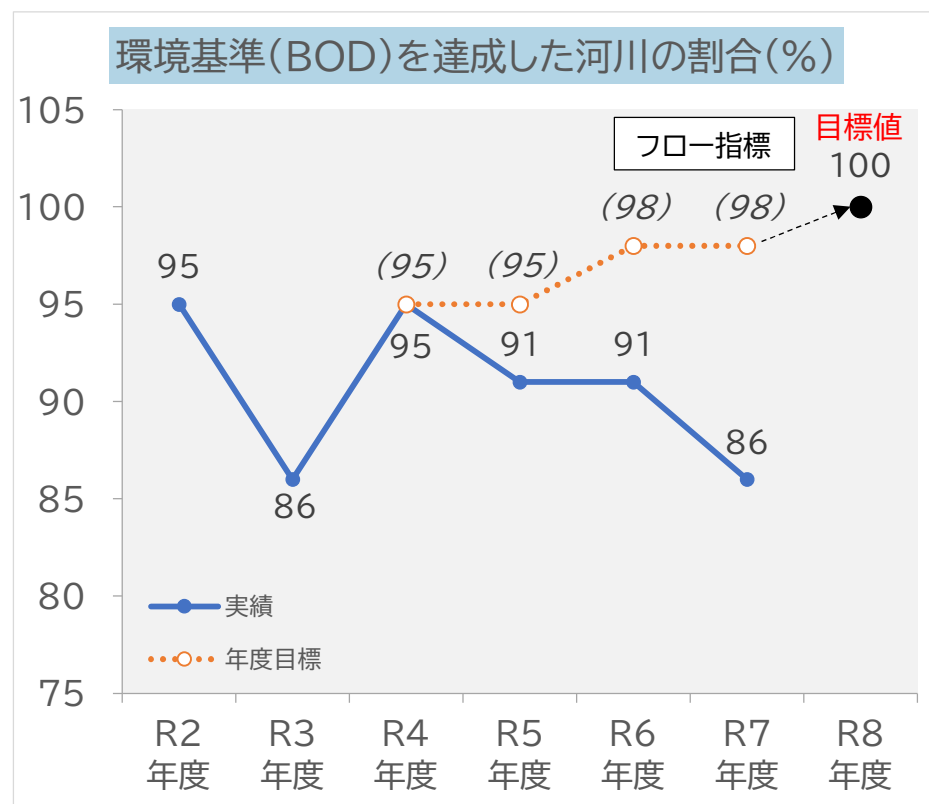
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 林業従事者数が減少している中、近年は搬出間伐や皆伐・再造林、ナラ枯れ対策など、面積あたりの労働力がより多く必要とされる施策が進められているため、年度目標を下回った。
- ナラ枯れ対策や森林環境譲与税を活用した森林整備に取り組む市町村を支援することで森林整備面積の向上を図る。

針路10 施策42 恵み豊かな川との共生

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
82. 環境基準(BOD)を達成した河川の割合	%	95 (R2年度)	86 (R7年度)	98 (R7年度)	87.8%	策定時より後退	100 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

「埼玉県公共用水域水質測定計画」に基づく測定を行う河川におけるBOD(生物化学的酸素要求量)の環境基準の達成率。
測定対象の全ての河川で環境基準を達成することを目指し、目標値を設定。

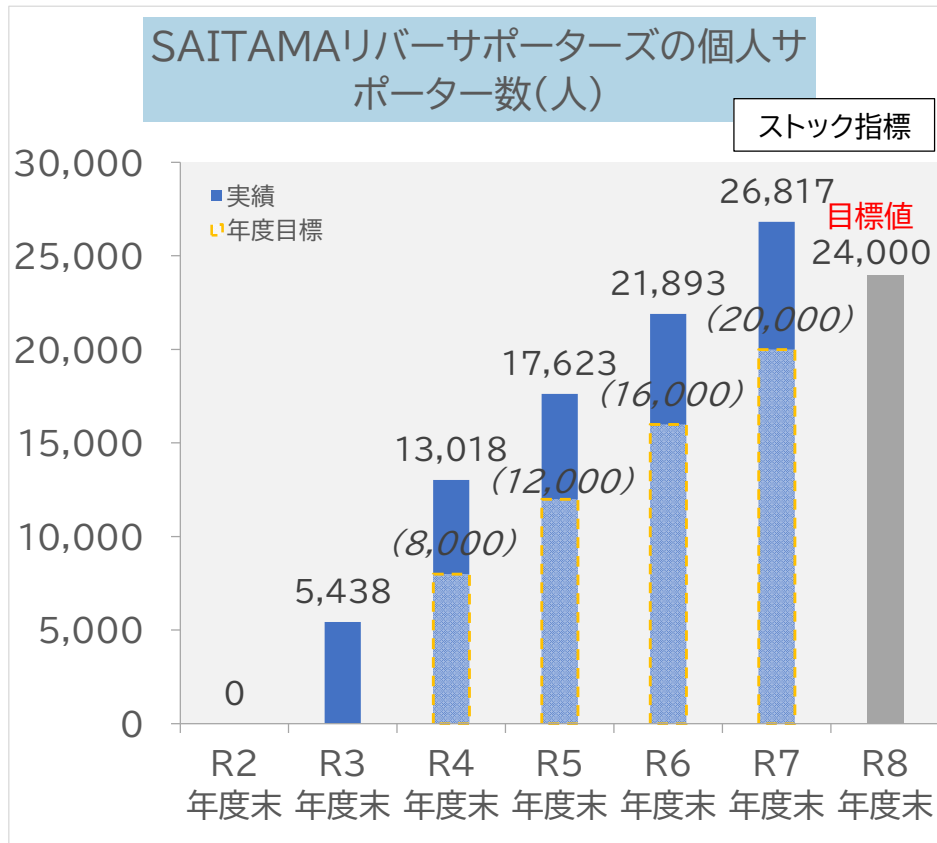
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は計画策定時の値より後退しており、より一層の努力を要する。
- 河川水質改善の主な要因である生活排水処理率は向上しているものの、令和7年度は汚濁希釈効果のある降水量が30年ぶりの低水準となる極端な少雨であったため、年度目標値に到達しなかった。
- 引き続き、下水道、農業集落排水施設、合併処理浄化槽の整備による生活排水処理率の向上を図っていく。

針路10 施策42 恵み豊かな川との共生

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
83. SAITAMAリバーサポーターズの個人サポーター数	人	0 (R2年度末)	26,817 (R7年度末)	20,000 (R7年度末)	134.1%	最終目標を上回る	24,000 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

川との共生や保全に取り組むSAITAMAリバーサポーターズの個人サポーター数。

過去の市町村や環境団体によるイベント等への参加者数の年平均2,700人を踏まえ、それを上回る数の個人サポーターの増加(年間4,000人)を目指し、目標値を設定。

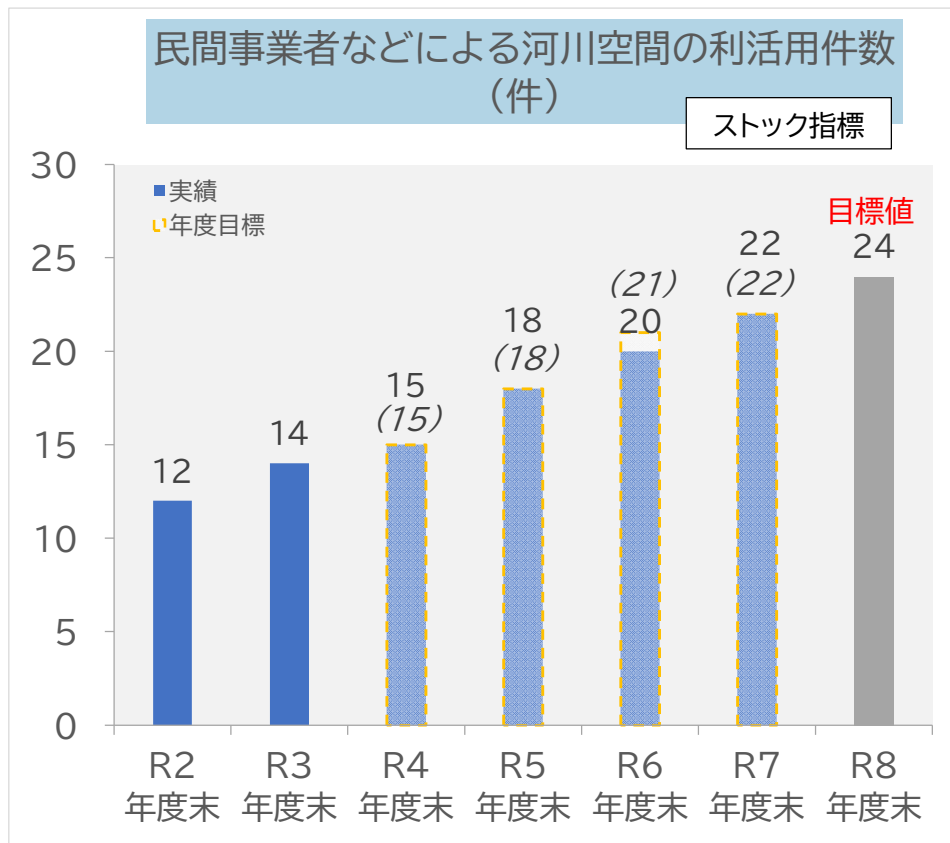
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 新規登録促進や登録継続のため、生き物調査、川遊びイベントなどの情報発信、河川清掃活動の協力者募集や川の国応援団の活動の発信などを行った。また、水辺に関する施設やイベントに参加するとポイントが貯まり、特典が得られる「リバサポ・クエスト」を実施し、個人サポーターの拡大を図った。
- これまでの取組を継続して行うほか、企業サポーターや川の国応援団が連携して実施する、生物多様性の確保につながるイベントの支援を通じて住民の参加を促す取組を拡大していく。

針路10 施策42 恵み豊かな川との共生

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
84. 民間事業者などによる河川空間の利活用件数	件	12 (R2年度末)	22 (R7年度末)	22 (R7年度末)	100.0%	年度目標達成	24 (R8年度末)



◀ 指標の説明 ▶

県管理河川において民間事業者などが河川空間を安らぎとにぎわいの場として利活用する件数。

民間事業者などと連携して新たに河川空間を利活用する件数として、これまでの取組実績などを踏まえ、目標値を設定。

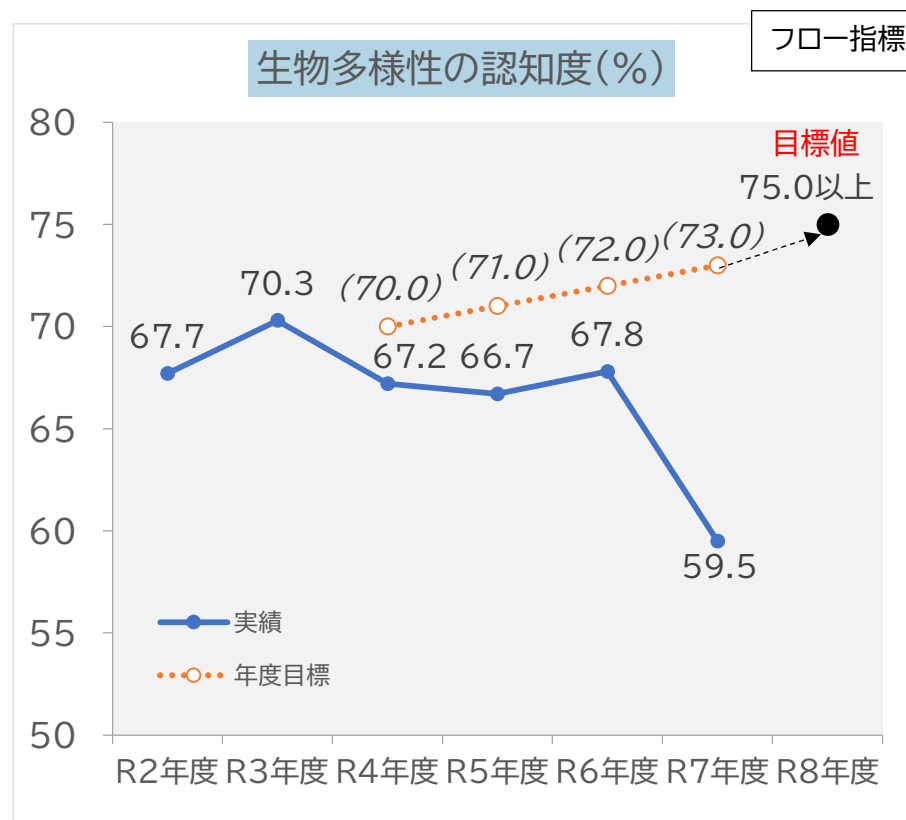
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 民間事業者と連携して河川空間を活用する事業スキームには、県のハード整備を伴わない「水辺空間とことん活用プロジェクト」と県が河川施設の整備を行う「水辺deベンチャーチャレンジ」の2つがある。それぞれ、市町村、民間企業と調整を進め年度目標を達成した。
- 水辺deベンチャーチャレンジについては、市町村から申込のあった箇所について具体的な利活用計画の検討を行うとともに、利活用計画が具体化した箇所については設計や工事を進める。水辺空間とことんプロジェクトについては水辺の利活用を図りたい市町村との対話を進め水辺空間の利活用件数の増加を図る。

針路10 施策43 生物多様性の保全

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
85. 生物多様性の認知度	%	67.7 (R2年度)	59.5 (R7年度)	73.0 (R7年度)	81.5%	策定時より後退	75.0以上 (R8年度)



指標の説明

県政世論調査で「生物多様性」という言葉について、言葉の意味も含め知っている又は言葉は聞いたことがあると回答した県民の割合。

国の「生物多様性国家戦略」の数値目標に合わせて設定した「埼玉県生物多様性保全戦略」の目標値(75.0%以上)を踏まえ、目標値を設定。

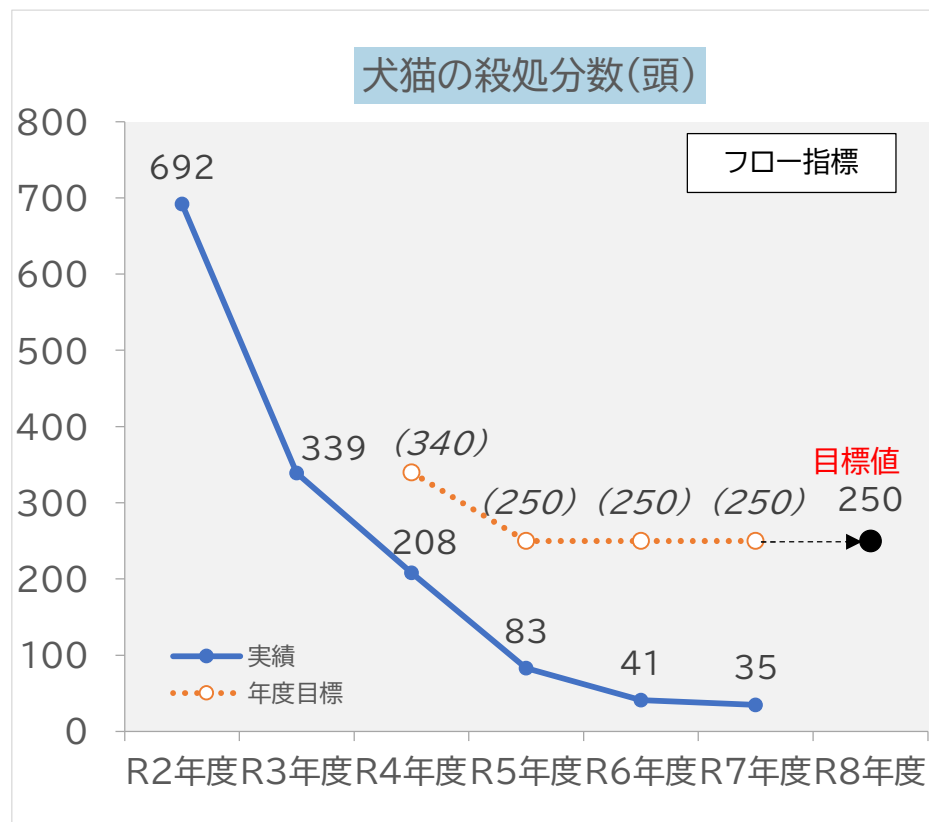
指標の進捗状況・分析

- 最新値は計画策定時の値より後退しており、より一層の努力を要する。
- これまでは、自然ふれあい施設などの自然環境のフィールド体験を通じた広報を中心に行ってきたが、参加者への限られた情報発信にとどまり、認知度向上には十分ではなかった。特に30～50歳代の現役世代の認知が低く、この層へのアプローチが不足していた。
- 特定外来生物など身近な課題を自分ごととして考えられるようなテーマを選定するとともに、彩の国だよりでの特集や広報アンバサダーによるSNS投稿など様々なツールを活用した情報発信に取り組む。また、より広い層に届くよう、多くの人が集まるイベントへの出展による広報にも取り組む。さらに、特に30歳～50歳代の現役世代の認知度が低い状況を踏まえ、企業向けセミナーやメールマガジンなどを積極的に活用していく。

針路10 施策43 生物多様性の保全

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
86. 犬猫の殺処分数	頭	692 (R2年度)	35 (R7年度)	250 (R7年度)	714.3%	最終目標を上回る	250 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

県(指定都市及び中核市を含む)が収容した犬猫のうち殺処分された数。

「埼玉県動物愛護管理推進計画(第二次改定版)」において、令和12年度末までに犬猫の殺処分数ゼロの達成を目指していることを踏まえ、目標値を設定。

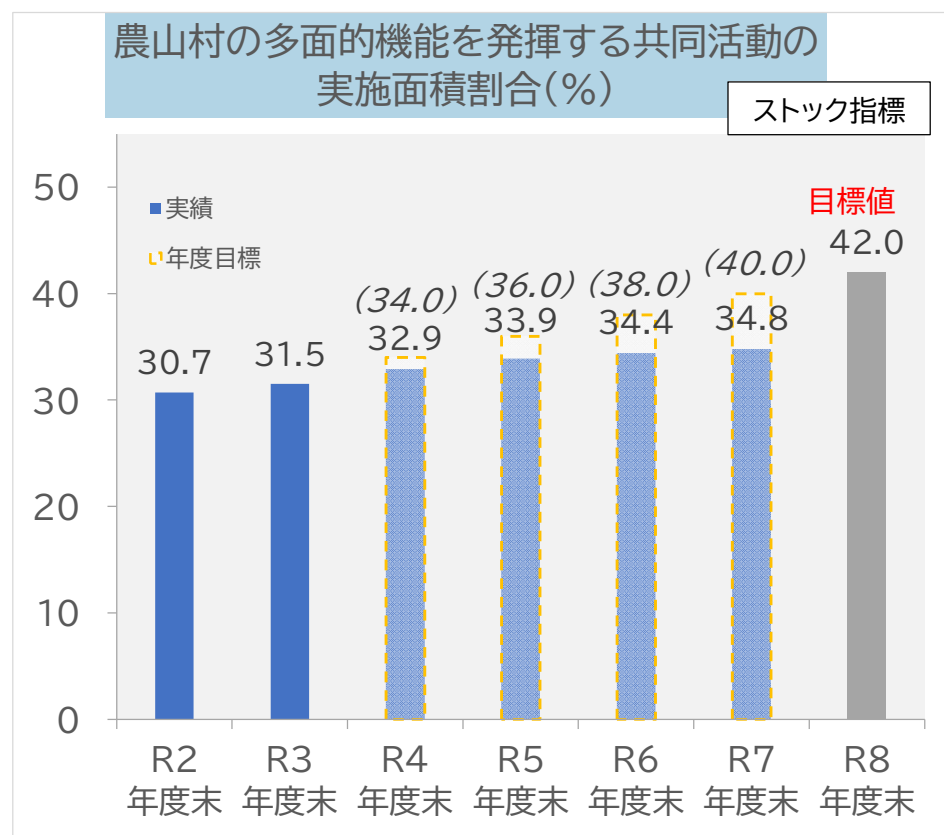
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 終生飼養の徹底、地域猫活動・TNR(不妊去勢手術)補助事業の実施により収容頭数を減らす「入口対策」と、返還・譲渡推進による「出口対策」を一体的に進めた結果、殺処分数が減少したものと考えられる。
- 今後も、終生飼養の徹底や繁殖抑制による収容頭数の削減に取り組むとともに、収容動物情報の発信、マイクロチップの普及啓発、譲渡会の開催など、返還及び譲渡を促進する取組を継続的に実施することにより、犬猫の殺処分削減をさらに推進していく。

針路10 施策44 活力ある農山村の創造

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
87. 農山村の多面的機能を発揮する共同活動の実施面積割合	%	30.7 (R2年度末)	34.8 (R7年度末)	40.0 (R7年度末)	87.0%	策定時より改善	42.0 (R8年度末)



《 指標の説明 》

農振農用地(田畑)に占める、農地や農業用排水路の草刈りや泥上げなど地域の共同活動を実施した面積の割合。

過去5年間(平成28年度～令和2年度)の実績値の伸び(年平均約2ポイント)を踏まえ、同等の伸びを維持することを目指し、目標値を設定。

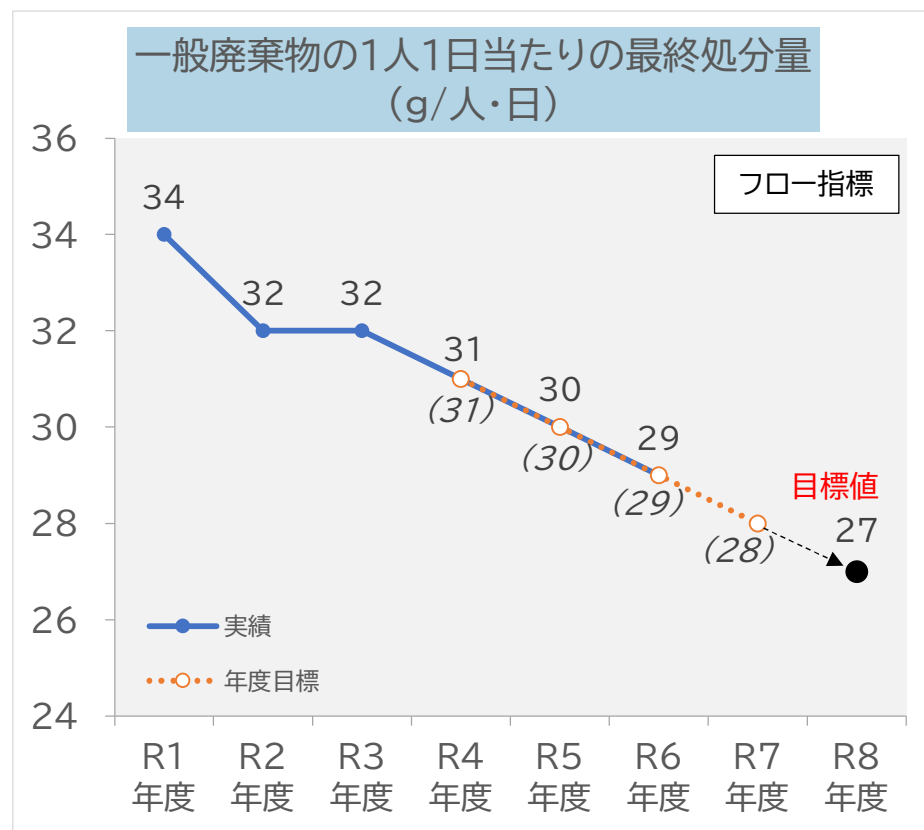
《 指標の進捗状況・分析 》

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 説明会やPR活動を実施したものの、高齢化等により地域のリーダーや活動を行う人材の確保が難しい状況もあり、年度目標に及ばなかった。
- 目標達成に向け、各市町村に重点推進地区を設定し、地域の実情に応じて推進するとともに、説明会の実施やPR活動を行い、制度への理解を進め、事業の拡大を図っていく。

針路10 施策45 資源の有効利用と廃棄物の適正処理の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
88. 一般廃棄物の1人1日当たりの最終処分量	g/人・日	34 (R1年度)	29 (R6年度)	29 (R6年度)	100.0%	年度目標達成	27 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

1人1日当たりの一般廃棄物の最終処分(埋立処分)量。
国の基本方針における削減目標を踏まえて設定した「第9次埼玉県廃棄物処理基本計画」における令和7年度の目標値(28g/人・日)を更に削減することを目指し、目標値を設定。

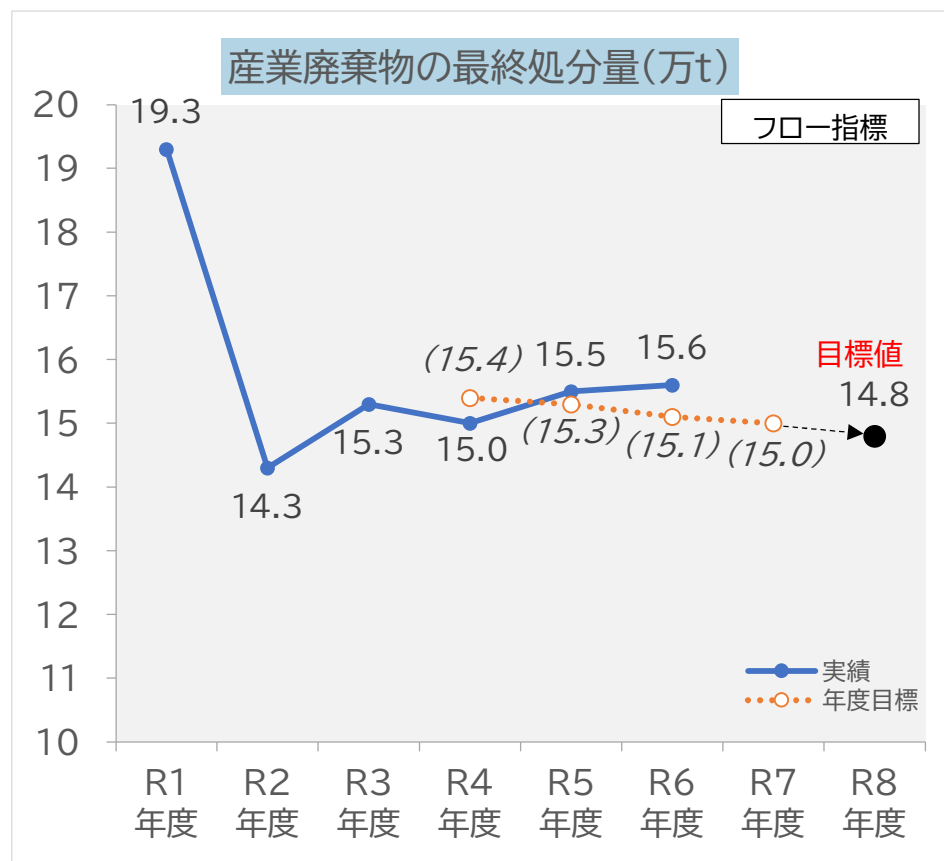
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 製品の省資源・省包装化や分別排出行動の進捗により廃棄物の排出抑制が進んでいることに加え、再生紙、金属原料及びセメント原料などに再生利用されることにより、最終処分量も順調に削減が進んでいる。
- 親子3R講座やプラごみゼロウィークなどのイベント等を通じて県民の理解と行動変容を促すとともに、市町村の広報や啓発活動を支援する。また、県民へのサーキュラーエコノミー型製品の理解・販売促進を図る取組により、再生利用されやすい製品の利用促進や廃棄物の排出抑制につなげていく。さらに、一般廃棄物処理施設から発生する焼却灰やばいじん等についても、再生利用を促進する。

針路10 施策45 資源の有効利用と廃棄物の適正処理の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
89. 産業廃棄物の最終処分量	万t	19.3 (R1年度)	15.6 (R6年度)	15.1 (R6年度)	96.8%	策定時より改善	14.8 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

年間の産業廃棄物の最終処分(埋立処分)量。
国の基本方針における削減目標を踏まえて設定した「第9次埼玉県廃棄物処理基本計画」における令和7年度の目標値(15万t)を更に削減することを目指し、目標値を設定。

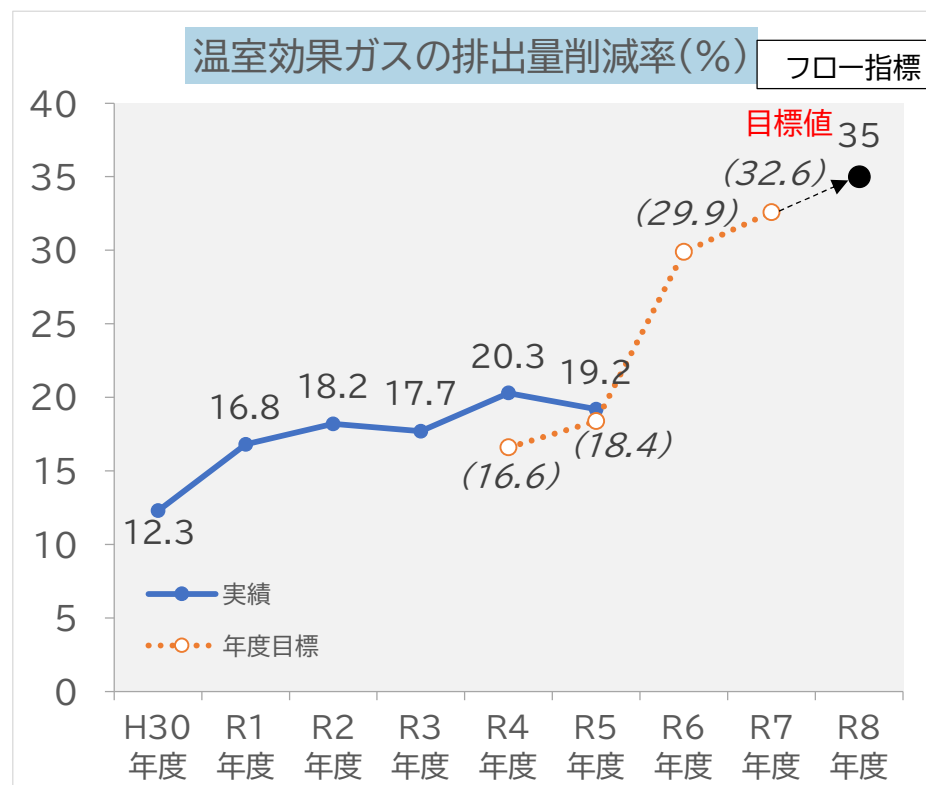
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 産業廃棄物の最終処分量は、長期的には減量化や再資源化により減少傾向にあるが、現状ではコストや処理体制の問題から再資源化が進んでいないものもあり、近年は横ばいとなっている。
- 廃棄物処理業者等の高度な再資源化設備等の導入補助事業により、サーキュラーエコノミーに関する取組をさらに進める。さらに、建設リサイクル法等各種リサイクル法が適正に運用されるよう事業者への直接指導を行うことで、最終処分量の削減を進めていく。

針路10 施策46 地球環境に優しい社会づくり

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
90. 温室効果ガスの排出量削減率	%	12 (H30年度)	19.2 (R5年度)	18.4 (R5年度)	104.3%	年度目標達成	35 (R8年度)



◀ 指標の説明 ▶

県全体の温室効果ガス排出量の削減率(平成25年度(2013年度)比)。
令和32年(2050年)までの脱炭素社会の実現を旨とした「地球温暖化対策の推進に関する法律」の改正及び国の「地球温暖化対策計画」の改定を踏まえ、目標値を設定。

◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

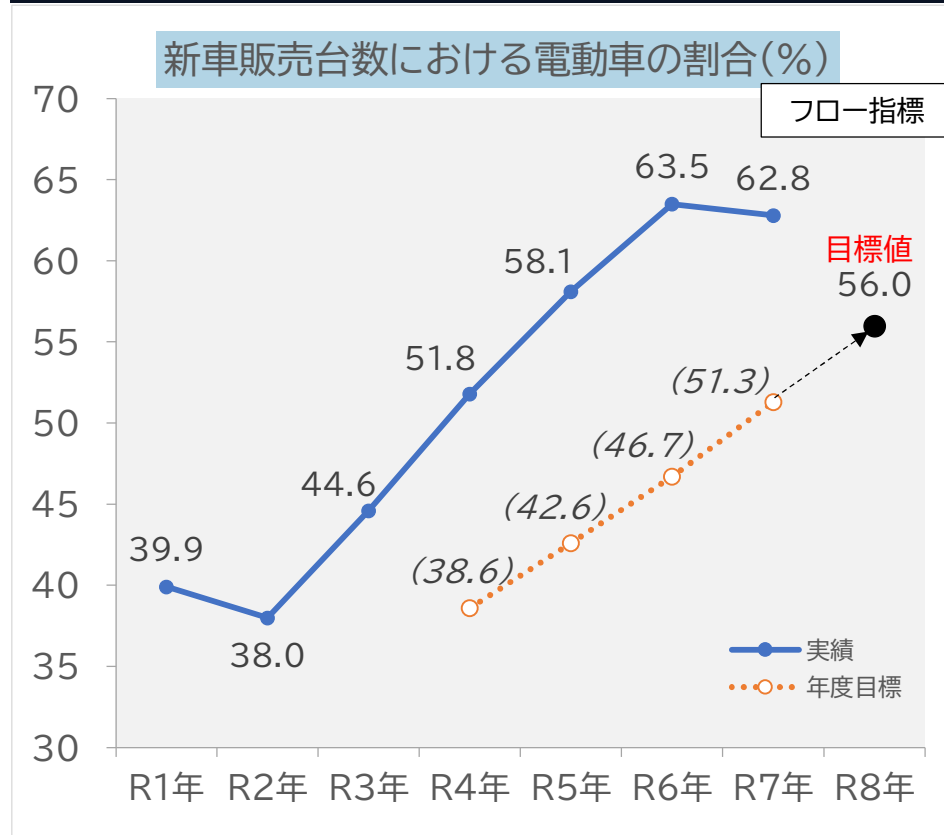
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 企業の生産量の増加や猛暑に伴う冷房需要の増加等により産業部門と家庭部門でのエネルギー消費量が増加するとともに、供給側の脱炭素化が年度目標値の目安に比べて進んでいないため、昨年度と比較して排出量が増加した。
- 2050年カーボンニュートラル実現に向けて、引き続き、あらゆる施策を総動員して、温室効果ガスの削減に取り組んでいく。

※国資料の修正により過去の値の修正あり。 ※ローリング指標

針路10 施策46 地球環境に優しい社会づくり

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
91. 新車販売台数における電動車の割合	%	39.9 (R1年)	62.8 (R7年)	51.3 (R7年)	122.4%	最終目標を上回る	56.0 (R8年)



指標の説明

乗用車の新車販売における電動車(ハイブリッド自動車、プラグインハイブリッド自動車、電気自動車及び燃料電池自動車)の割合。
 国の「グリーン成長戦略」の目標(2030年代半ばまでに、乗用車新車販売で電動車100%を実現)を踏まえ、令和17年(2035年)までに電動車の割合100%を達成することを目指し、目標値を設定。

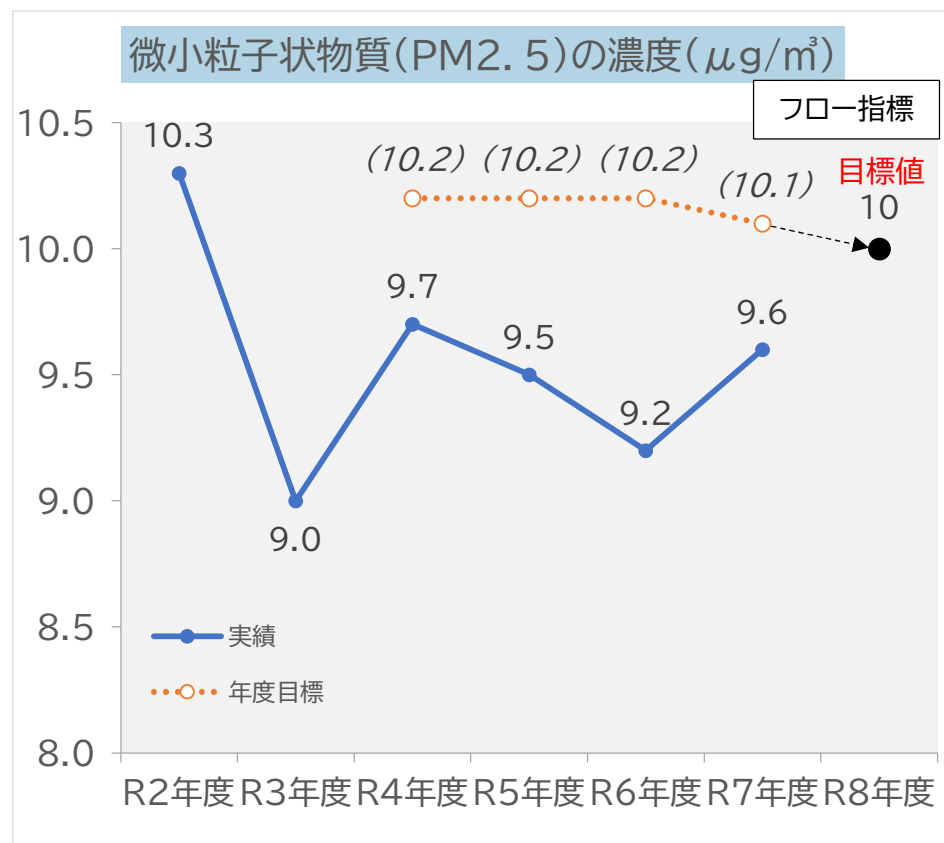
指標の進捗状況・分析

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 国のクリーンエネルギー自動車導入促進補助金等の影響により、全国的に乗用車の新車販売台数における電動車割合が上昇した。(埼玉県 R3:44.6% → R7:62.8%、全国 R3:44.7% → R7:63.6%)
- 令和4年度から開始した電気自動車等導入費補助事業は令和7年度をもって廃止した。引き続き、自動車を多数使用する事業者に対して低燃費車の導入を義務付けることにより、電気自動車等の導入を促進する。また、民間事業者の資金を活用して県有施設に設置したEV、PHV用充電設備の利用を促進する。

針路10 施策47 公害のない安全な地域環境の確保

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
92. 微小粒子状物質(PM2.5)の濃度	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	10.3 (R2年度)	9.6 (R7年度)	10.1 (R7年度)	105.2%	最終目標を上回る	10 (R8年度)



≪ 指標の説明 ≫

大気中の微小粒子状物質(PM2.5)の年平均濃度。
世界保健機関(WHO)のガイドライン値($5\mu\text{g}/\text{m}^3$)を見据え、国内の環境基準($15\mu\text{g}/\text{m}^3$)より厳しく、近隣都県が掲げる最も厳しい目標値である $10\mu\text{g}/\text{m}^3$ の達成を目指し、目標値を設定。

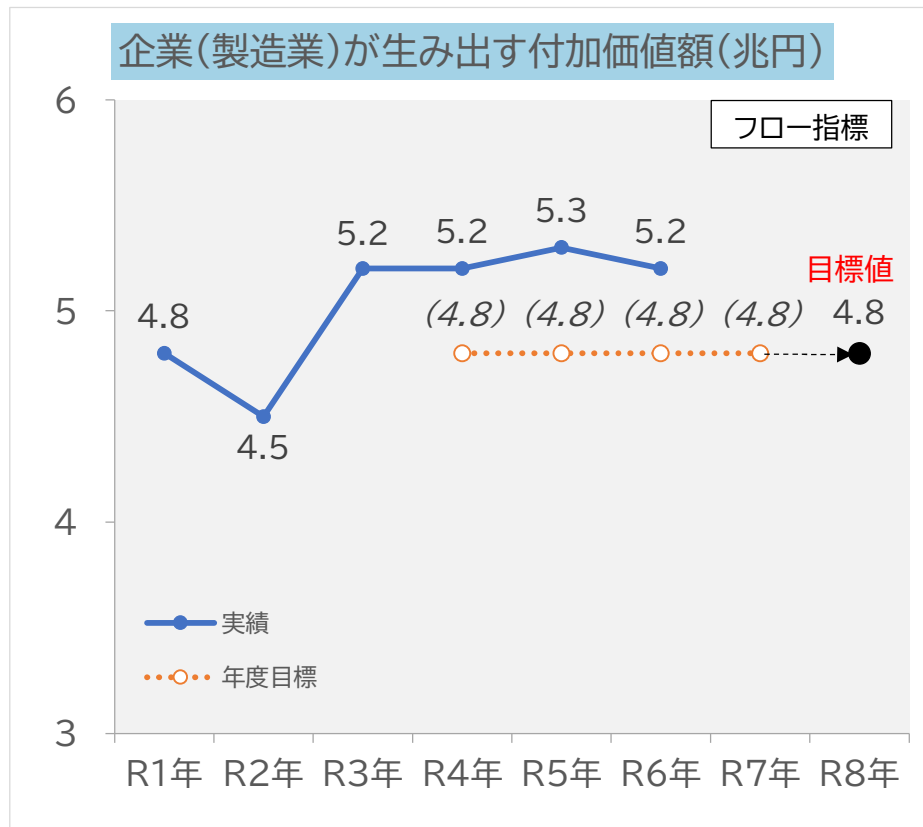
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 県では工場・事業場及びディーゼル車等からの排出ガスに対する規制遵守を法令に基づき指導するとともに、揮発性有機化合物(VOC)の排出抑制の自主的取組を支援してきた。また、平成30年度に初めて環境基準達成率が100%となり、令和3年度以降目標値($10\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下)を継続して達成している。
- 引き続き、ばい煙規制、自動車排ガス対策を実施するとともに、規制対象を含めてVOCを取扱う事業者による自主的な排出量削減に向けた取組への支援等を実施していく。

針路11 施策48 新たな産業の育成と企業誘致の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
93. 企業(製造業)が生み出す付加価値額	兆円	4.8 (R1年)	5.2 (R6年)	4.8 (R6年)	108.3%	最終目標を上回る	4.8 (R8年)



≪ 指標の説明 ≫

従業者4人以上の製造業を営む事業所が生み出す付加価値額(事業所の生産活動において新たに生み出された価値。製造品出荷額などから原材料費や減価償却費などを差し引いたもの)。

成長が見込まれる分野の育成などの取組により、過去5年間の最大値(平成30年4.8兆円)の達成を目指し、目標値を設定。
※新型コロナウイルス感染症の大きな影響からの回復を目指す目標値。

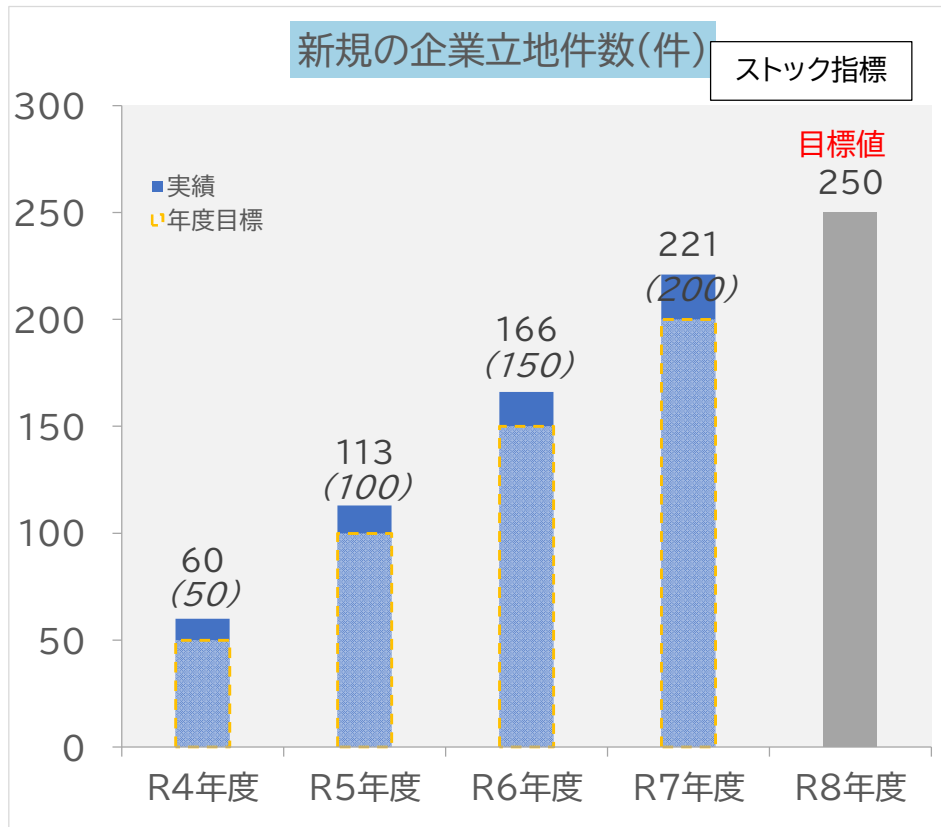
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 次世代産業として成長が期待できる分野に参入する企業を支援し、企業の持続的な成長を促すことで、引き続き目標値の達成を目指す。
- 引き続き、成長が見込まれる分野の育成などに取り組む。

針路11 施策48 新たな産業の育成と企業誘致の推進

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
94. 新規の企業立地件数	件	— (—)	221 (R4～R7年度の累計)	200 (R4～R7年度の累計)	110.5%	年度目標達成	250 (R4～R8年度の累計)



≪ 指標の説明 ≫

令和4年度以降、県内に立地した工場・研究所などの累計件数。
過去5年間(平成28年度～令和2年度)の実績を踏まえ、産業団地など
適地への立地を進め、毎年度50件の企業立地を目指し、目標値を設定。

≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

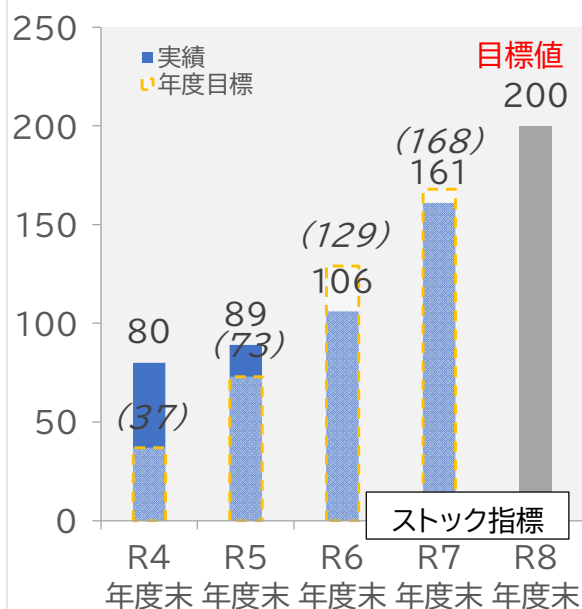
- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 建築資材の高騰など物価高の影響はあるが、圏央道の暫定2車線区間の4車線化など交通利便性の更なる向上等を背景に、引き続き多くの企業から立地ニーズがあり、またオンラインも活用した積極的な企業誘致活動を行った結果、年度目標を達成した。
- 引き続き、市町村や金融機関等と連携したオール埼玉での企業誘致に取り組んでいく。

針路11 施策48 新たな産業の育成と企業誘致の推進

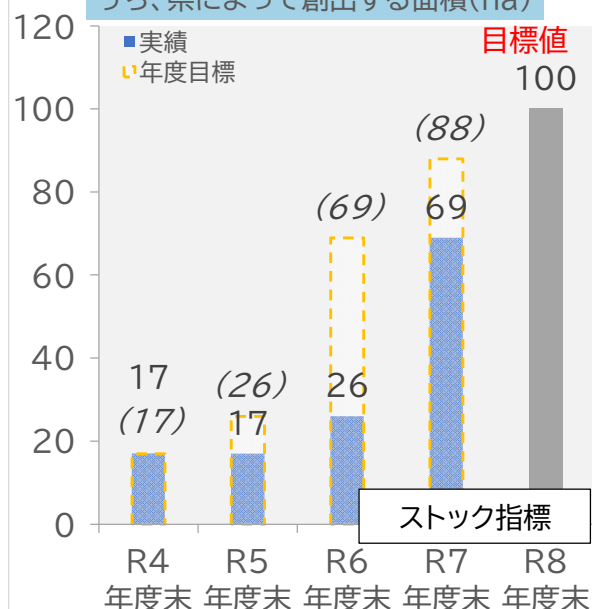
施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
95. 豊かな田園環境と調和した産業基盤の創出面積	ha	—	161	168	95.8%	策定時より改善	200
		(うち、県によって創出する面積)	69	88	78.4%		100
		(—)	(R4～R7年度の累計)	(R4～R7年度の累計)			(R4～R8年度の累計)

豊かな田園環境と調和した産業基盤の創出面積(ha)



豊かな田園環境と調和した産業基盤の創出面積のうち、県によって創出する面積(ha)



指標の説明

計画的な開発により新たに整備された産業基盤の面積。各事業主体が令和8年度までに予定している産業基盤の整備などを着実に推進することを目指し、目標値を設定。

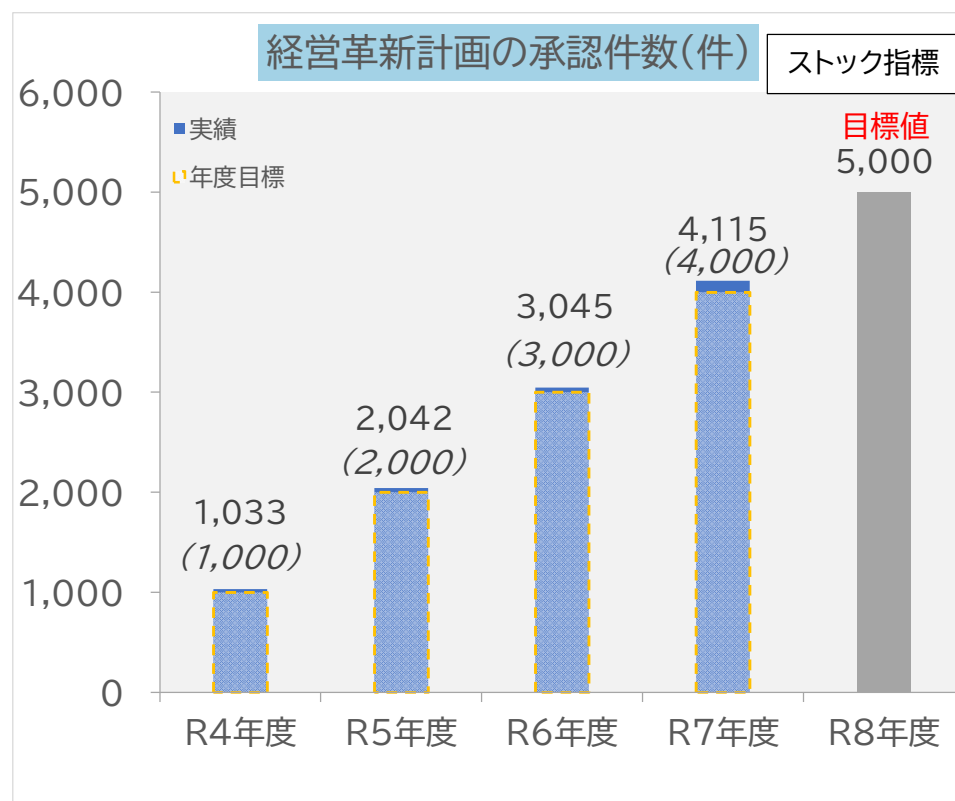
指標の進捗状況・分析

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 県によって創出する面積について、1地区の産業団地において工事が予定されていた令和7年度中に完了しなかった。
- 「埼玉の持続的成長を支える産業基盤づくり取組方針」に基づき、引き続き豊かな田園環境と調和した産業基盤を創設する。令和7年度中に完了しなかった県において創出する1地区の産業団地の工事を令和8年度中に完了させる。

針路11 施策49 変化に向き合う中小企業・小規模事業者の支援

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
96. 経営革新計画の承認件数	件	— (—)	4,115 (R4～R7年度の累計)	4,000 (R4～R7年度の累計)	102.9%	年度目標達成	5,000 (R4～R8年度の累計)



指標の説明

「中小企業等経営強化法」に基づく経営革新計画の知事の承認件数。
過去5年間(平成28年度～令和2年度)の実績を踏まえ、毎年度1,000件程度の経営革新計画承認支援実績を維持することを目指し、目標値を設定。

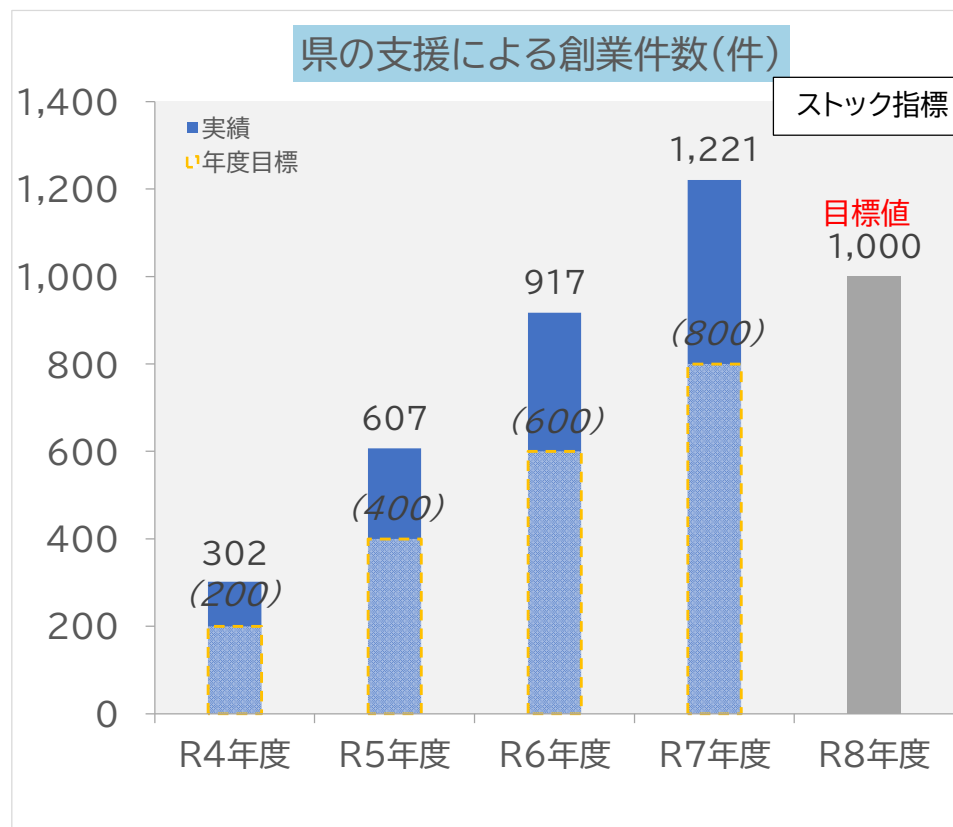
指標の進捗状況・分析

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 県では、県内の商工団体に推進事務費や専門家派遣費といった補助金(中小企業経営力向上補助金)を交付し、経営革新計画の策定から承認後のフォローアップまで一貫支援する仕組みを構築している。また、県では商工団体職員の資質向上のための研修会や、金融機関や土業団体との連携づくりにより、円滑に事務が遂行できるような環境整備に努めている。
- 引き続き、商工団体等と連携し、経営革新計画の策定から承認後のフォローアップまで一貫した支援を行っていく。

針路11 施策49 変化に向き合う中小企業・小規模事業者の支援

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
97. 県の支援による創業件数	件	— (—)	1,221 (R4～R7年度の累計)	800 (R4～R7年度の累計)	152.6%	最終目標を上回る	1,000 (R4～R8年度の累計)



≪ 指標の説明 ≫

県が支援したもので、県が把握する創業件数。
過去5年間(平成28年度～令和2年度)の実績を踏まえ、毎年度200件程度の創業支援実績を維持することを目指し、目標値を設定。

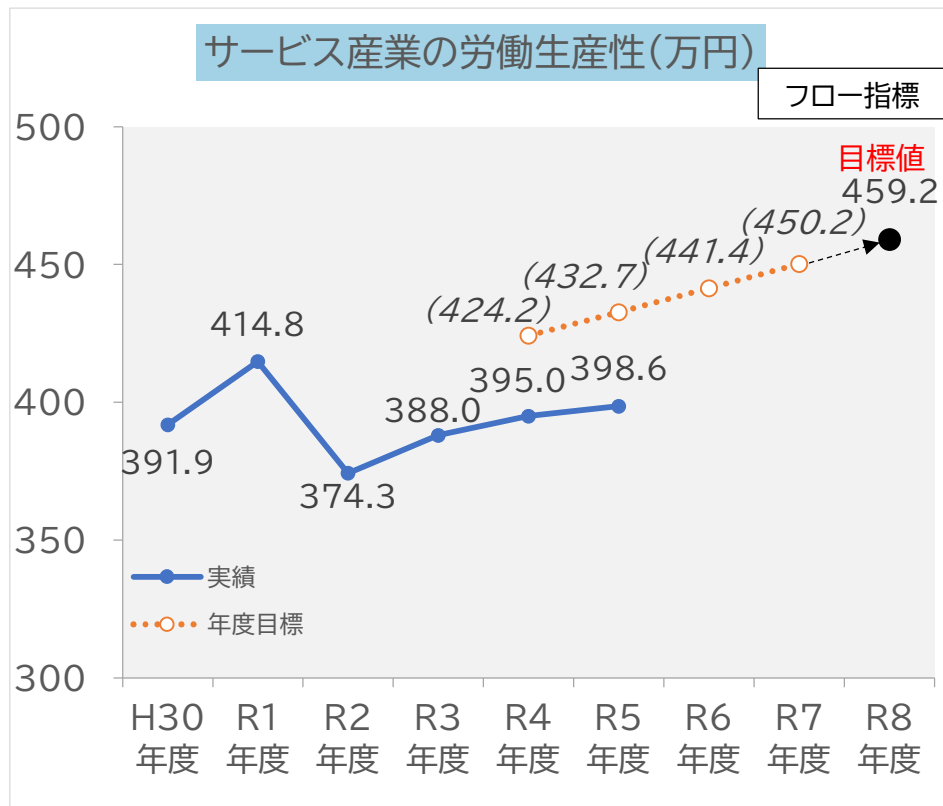
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- 創業支援センター埼玉(令和8年4月1日から改称)における、オンライン相談や女性に特化した支援など利用者のニーズに沿った支援により、創業件数について最終目標値を上回った。
- 今後は、創業希望者が県内どこでも円滑に創業を実現できるよう、市町村、商工団体等の創業支援機関と連携した支援を促進していく。

針路11 施策50 商業・サービス産業の育成

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
98. サービス産業の労働生産性	万円	391.9 (H30年度)	398.6 (R5年度)	432.7 (R5年度)	92.1%	策定時より改善	459.2 (R8年度)



《 指標の説明 》

サービス産業に従事する就業者1人当たりの県内純生産額(政府サービス・金融及びインフラ関連産業を除く)。
サービス分野の生産性向上の取組により、サービス産業に従事する就業者1人当たり県内純生産額が毎年度2%以上向上することを目指し、目標値を設定。

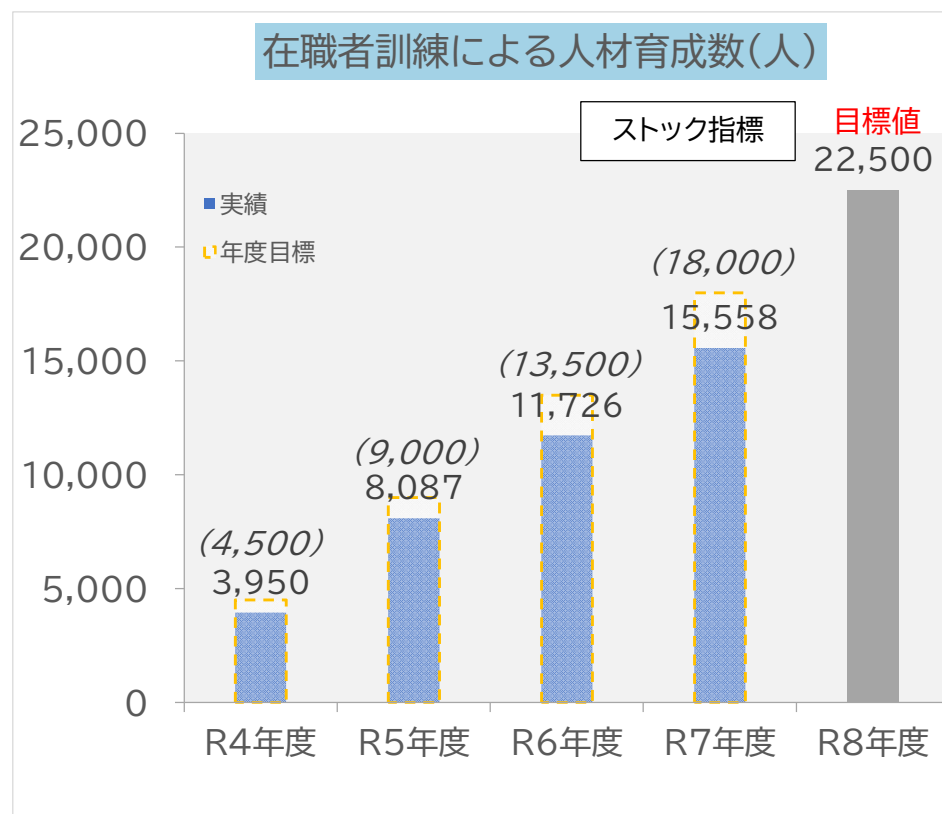
《 指標の進捗状況・分析 》

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 新型コロナウイルスの影響からは回復しているものの、物価高によるコスト増や人手不足による業務効率低下等の影響があり、年度目標を達成できなかったと考えられる。
- サービス産業の生産性向上のため、業種業態を問わず有効であるDXの取組を進めていく。特に、令和8年度は体験型DX展示会の実施や、DX導入補助金を通じて、初歩段階における事業者のDXへ向けた取組を後押ししていく。

針路11 施策51 産業人材の確保・育成

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
99. 在職者訓練による人材育成数	人	— (—)	15,558 (R4～R7年度の累計)	18,000 (R4～R7年度の累計)	86.4%	策定時より改善	22,500 (R4～R8年度の累計)



◀ 指標の説明 ▶

企業の従業員のスキルアップを図るために県が実施している技能講習を受講した人の数。

企業の従業員の人材育成支援について、令和元年度実績(4,356人)を上回る水準を維持することを目指し、目標値を設定。

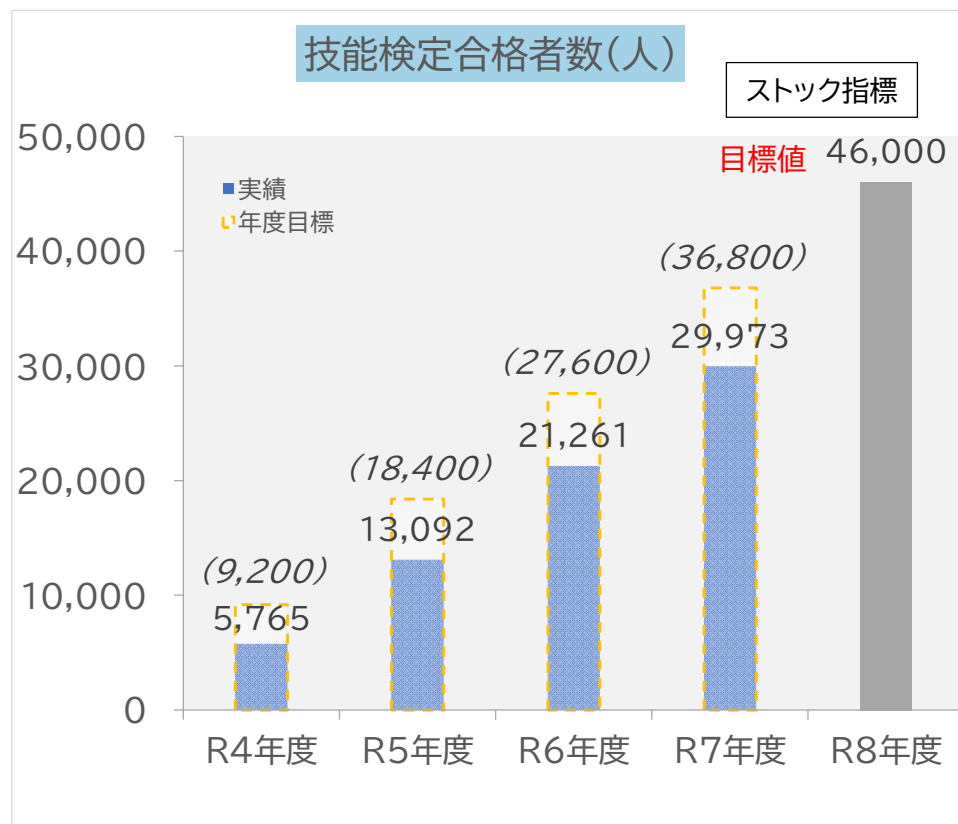
◀ 指標の進捗状況・分析 ▶

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 企業の人手不足により人材育成のための時間確保ができず、企業申込の講習が大幅に減少したため、実績が年度目標を下回ったと考えられる。
- 広報活動の強化により認知度向上を図るとともに、時代のニーズを捉えた講習内容の検討を進め、受講者数の増加を目指す。

針路11 施策51 産業人材の確保・育成

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
100. 技能検定合格者数	人	— (—)	29,973 (R4～R7年度の累計)	36,800 (R4～R7年度の累計)	81.4%	策定時より改善	46,000 (R4～R8年度の累計)



≪ 指標の説明 ≫

主にものづくり分野の技能を公証する国家検定制度である技能検定の合格者数。

技能検定合格者について、過去最高である令和元年度実績(9,238人)の水準まで回復させた上でそれを維持することを目指し、目標値を設定。

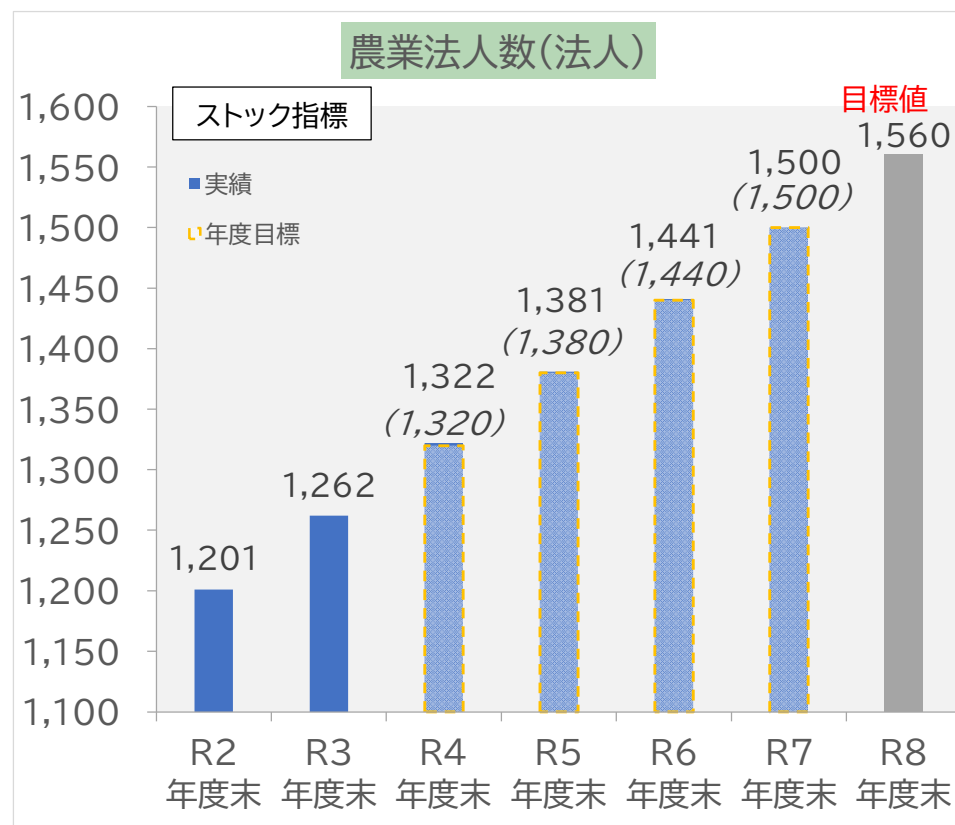
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 日本人及び技能実習生の受検者数及び合格者数は、増加傾向にあり、日本人と技能実習生を合わせた受検者数は令和元年度の水準まで回復した。しかしながら、日本人の合格者数は令和元年度の水準まで回復していない。
- 令和8年度は、技能検定受検料支援事業において、3級に加え2級の実技試験受検手数料を支援を実施している。当事業を含め、技能検定受検促進のための広報に努め、受検の働きかけを行っていく。

針路12 施策52 農業の担い手育成と生産基盤の強化

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
101. 農業法人数	法人	1,201 (R2年度末)	1,500 (R7年度末)	1,500 (R7年度末)	100.0%	年度目標達成	1,560 (R8年度末)



指標の説明

農業組合法人、定款に農業に関する事業が明示されている法人の数。

国の「日本再興戦略(改訂2015)」における令和5年度の農業法人数の目標値(5万法人)を踏まえ、県におけるこれに相当する水準(1,380法人)を達成し、更に増加させることを目指し、目標値を設定。

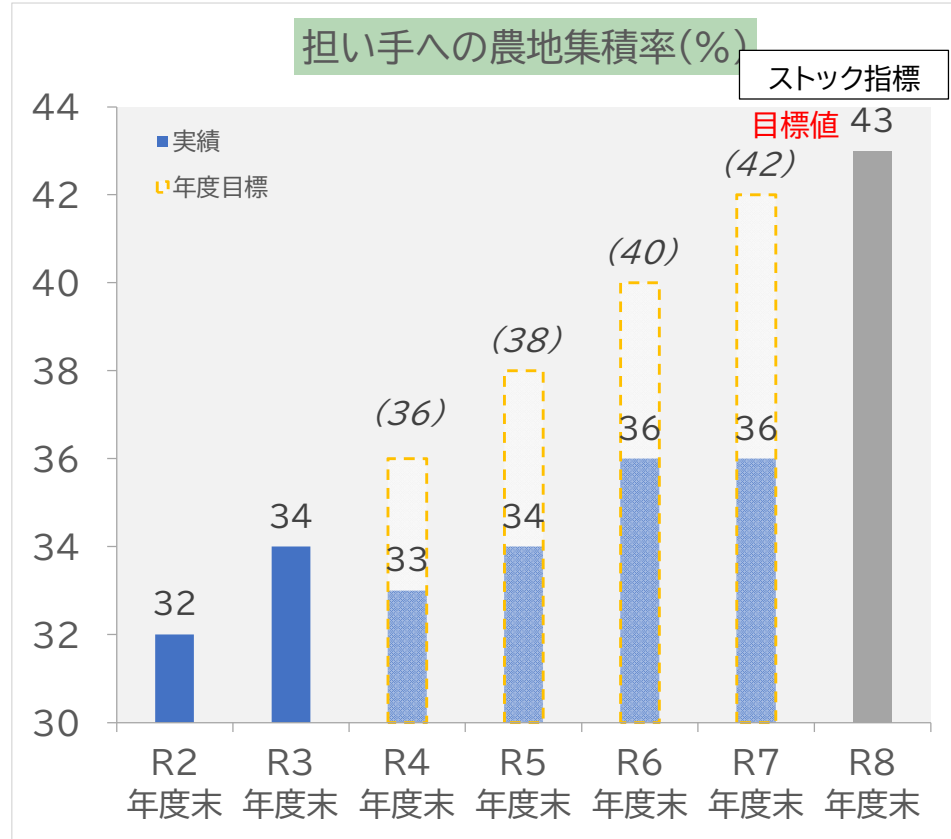
指標の進捗状況・分析

- 最新値は年度目標以上の水準にあり、順調に推移している。
- 農業経営・就農支援センターが経営相談会において、法人化を希望する経営体の掘り起こし活動を行い、さらに農業経営体に法人化支援を行った結果、円滑な法人化を支援でき、年度目標を達成した。
- 引き続き農業経営・就農支援センターによる伴走支援を行う。また、令和7年度行った掘り起こし活動を基に、法人化数を確保する。

針路12 施策52 農業の担い手育成と生産基盤の強化

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
102. 担い手への農地集積率	%	32 (R2年度末)	36 (R7年度末)	42 (R7年度末)	85.7%	策定時より改善	43 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

農業振興地域を有する市町村において、認定農業者などの担い手が利用している耕地面積の割合。

「農業経営基盤強化促進法」に基づき策定している「農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針」において、令和12年度末までに担い手への農地集積率が50%となることを目指していることを踏まえ、目標値を設定。

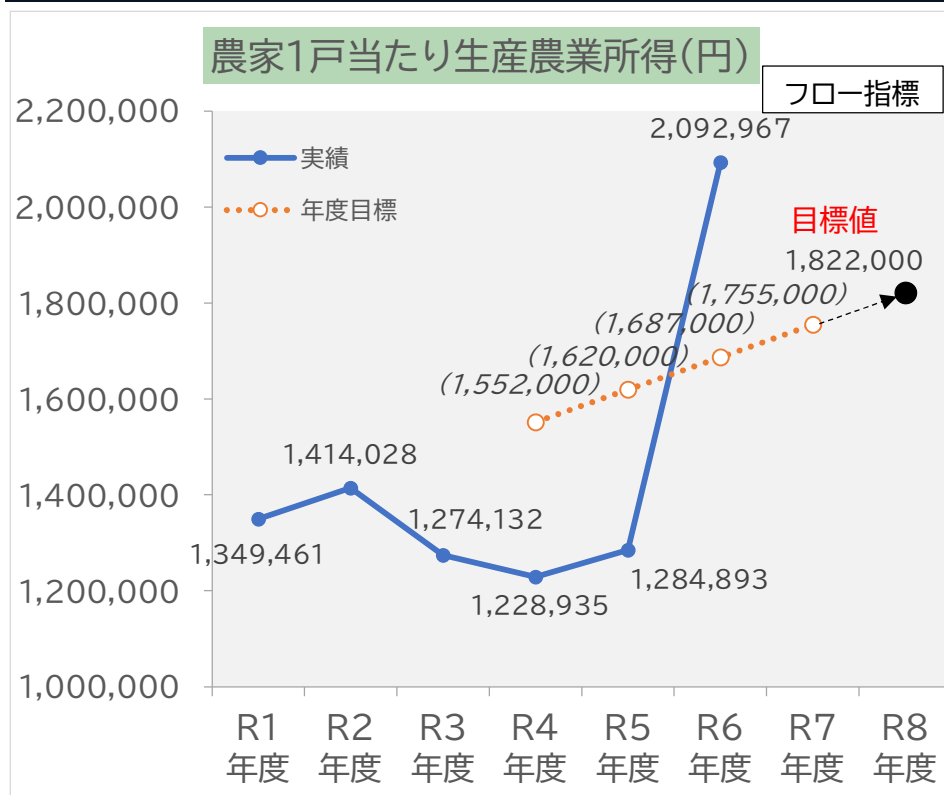
≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 法改正の影響もあって農地中間管理事業の活用は着実に進んだ。規模拡大を希望する担い手の減少、担い手の高齢化などを要因とした経営面積の減少などの状況もあり、年度目標には到達していない。
- 関係機関と連携の上、農地中間管理事業を進めるとともに、他の地域からの担い手の受け入れや、農地の区画拡大などを行う基盤整備事業との連携などにより担い手への農地の集積・集約化を推進することで、取組を強化する。

針路12 施策53 強みを生かした収益力ある農業の確立

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
103. 農家1戸当たり生産農業所得	円	1,349,461 (R1年度)	2,092,967 (R6年度)	1,687,000 (R6年度)	124.1%	最終目標を上回る	1,822,000 (R8年度)



指標の説明

農家1戸当たりの農業経営による1年間の所得。
過去5年間(平成27年度～令和元年度)の実績値の伸び率(年平均約5%)を踏まえ、令和元年度の現状値から35%向上させることを目指し、目標値を設定。

指標の進捗状況・分析

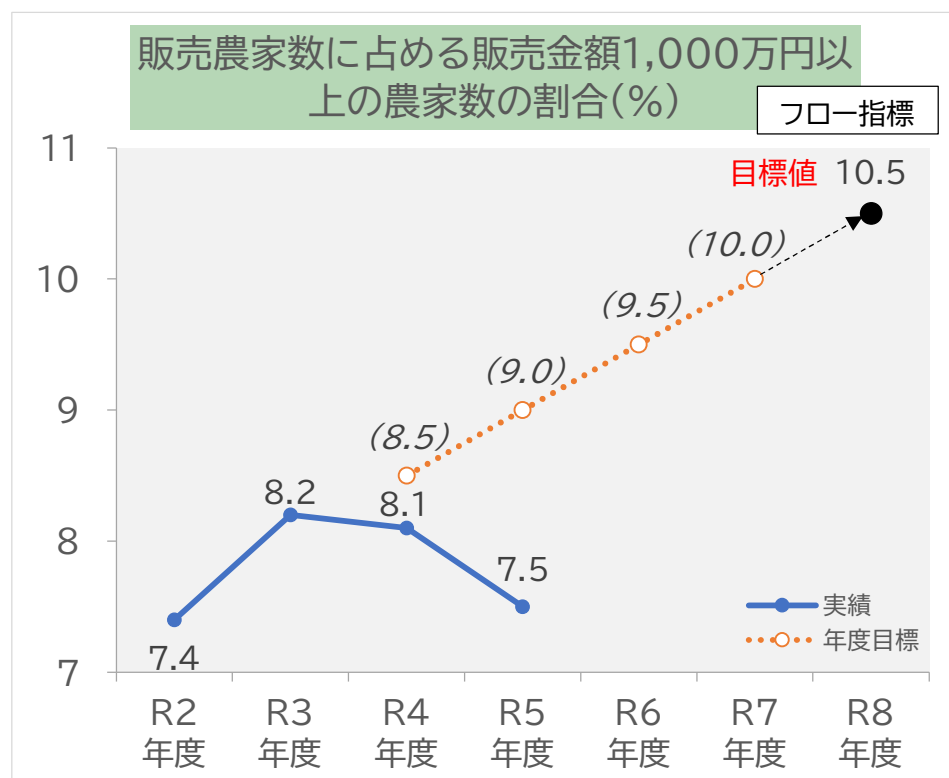
- 最新値は最終目標値以上の水準にあり、順調に推移している。
- いちごなどの需要が堅調な農産物の産出額が増加したことに加え、物価の上昇による農畜産物の価格上昇や米価の高騰等により、生産農業所得が向上した。
- 消費者ニーズを的確に反映した農産物の生産拡大を図るほか、デジタル技術などを活用したスマート農業の推進等により生産性を高め、生産農業所得の向上を図る。

※国資料の修正により過去の値の修正あり。

針路12 施策53 強みを生かした収益力ある農業の確立

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
104. 販売農家数に占める販売金額1,000万円以上の農家数の割合	%	7.4 (R2年度)	7.5 (R5年度)	9.0 (R5年度)	83.3%	策定時より改善	10.5 (R8年度)



※令和6年度分は、根拠となる国の調査が実施中であるため、令和5年度の実績値を記載。

指標の説明

販売農家数に占める農産物販売金額が1,000万円以上の農家数の割合。
「埼玉県農林水産業振興基本計画」における令和7年度の目標値(10%)を踏まえ、更に販売農家数に占める販売金額1,000万円以上の農家数の割合を増加させることを目指し、目標値を設定。

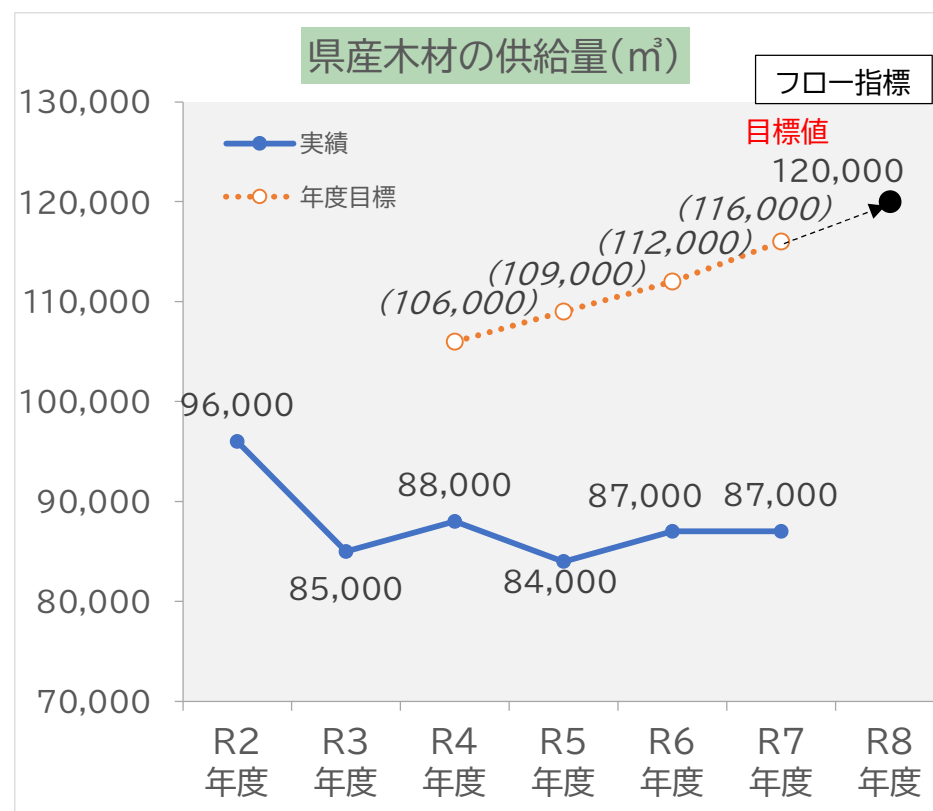
指標の進捗状況・分析

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 大規模経営農家の規模縮小による販売金額の減少や廃業などにより、販売金額1,000万円以上の農家数が減少したため、結果としてその割合は7.5%となり、年度目標に到達しなかった。
- 消費者ニーズを的確に反映した農産物の生産拡大を図るほか、デジタル技術などを活用したスマート農業の推進等により生産性を高め、農産物販売金額の向上を図る。

針路12 施策54 林業の生産性向上と県産木材の利用拡大

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
105. 県産木材の供給量	m ³	96,000 (R2年度)	87,000 (R7年度)	116,000 (R7年度)	75.0%	策定時より後退	120,000 (R8年度)



《 指標の説明 》

森林から伐採・搬出され、利用される木材量。
令和22年度までに木材供給量を森林資源の循環利用の実現に必要な201,000m³/年まで増加させることを目指し、目標値を設定。

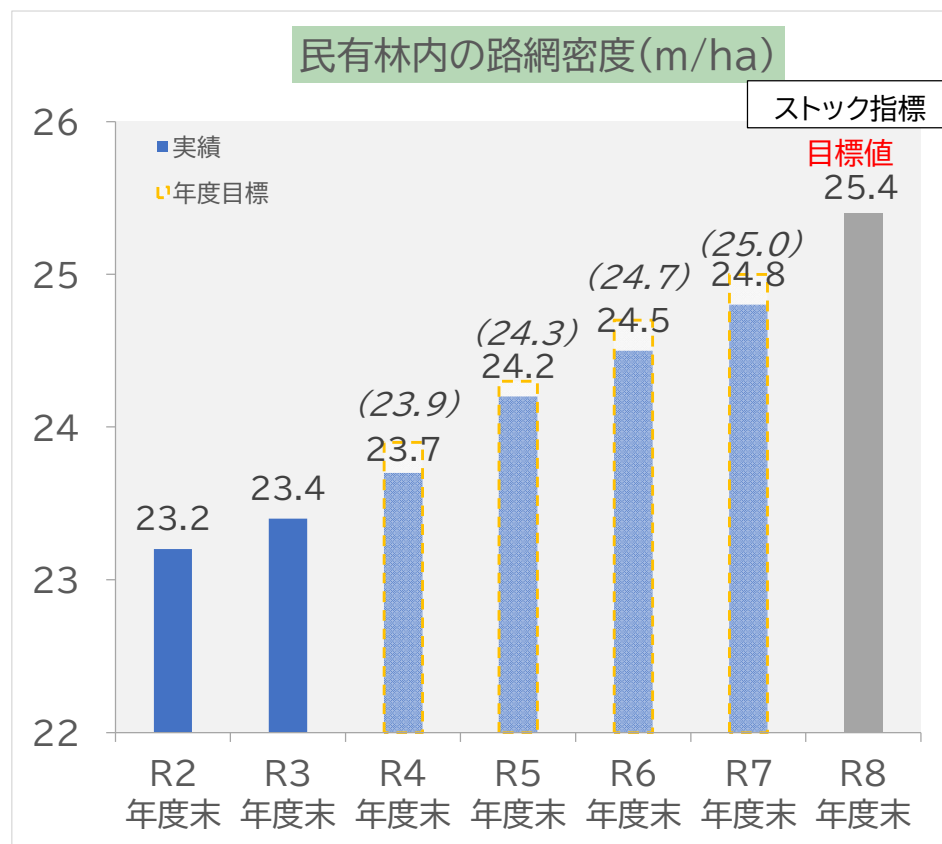
《 指標の進捗状況・分析 》

- 最新値は計画策定時の値より後退しており、より一層の努力を要する。
- 木造住宅の新設着工規模の縮小による木材需要の低下を背景に、木材生産が抑制されたこと等により、県産木材の供給量は策定時を下回った。
- 県産木材を計画的・安定的に供給する流通体制を整備するとともに、需要に応じた供給体制の強化に向けた実行性調査等を行い、県産木材供給量の増加に取り組む。

針路12 施策54 林業の生産性向上と県産木材の利用拡大

施策指標の進捗状況

指標	単位	策定時	最新値	年度目標値	達成率 (年度目標比)	進捗状況	最終目標値
106. 民有林内の路網密度	m/ha	23.2 (R2年度末)	24.8 (R7年度末)	25.0 (R7年度末)	99.2%	策定時より改善	25.4 (R8年度末)



≪ 指標の説明 ≫

民有林内に開通している路網(公道、森林管理道及び作業道)の密度。

効率的な森林整備や木材生産を可能とするための国が示した路網整備の水準を踏まえ、本県の自然条件などを勘案し、目標値を設定。

≪ 指標の進捗状況・分析 ≫

- 最新値は年度目標に到達しておらず、目標達成に向け努力を要する。
- 森林整備に必要な作業道の開設に取り組んだものの、国庫補助金の交付が予算額を下回る状況が続いており事業進捗に遅れが生じたため、年度目標を下回った。
- 効率的な森林整備や木材生産を可能とするため、森林情報の収集、土地の境界の明確化、森林所有者の合意形成など施業地の集約化・団地化に向けた各々の課題を解決し、路網整備を進めていく。